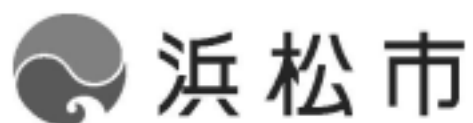


(平成20年6月実施)

第35回

市民アンケート調査報告書

— あなたと市政を結ぶ —



目次

I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査事項	1
3	調査実施概要	1
4	回収状況	1
5	報告書内のデータ記述について	1
6	回答者の属性	2

II 調査結果

1	あなたをご存知ですか？	5
2	健康はままつ21・食育について	8
3	マイバッグ・マイバスケットの活用について	13
4	ユニバーサルデザインについて	18
5	区協議会・地域協議会について	25
6	家庭の情報化について	29
7	運動・スポーツについて	38
8	救急車の適正利用について	45
9	子育て支援について	50
10	市政の満足度評価について	66
11	市政への要望について	71
12	市政に対する意見・提言について(自由意見)	85

付録 調査票

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、48 年度、50 年度と行った後、52 年度以降は毎年実施し、本年度で 35 回目になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

2 調査事項

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> あなたはご存知ですか？ | <input type="checkbox"/> 健康はままつ 21・食育について |
| <input type="checkbox"/> マイバッグ・マイバスケットの活用について | <input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインについて |
| <input type="checkbox"/> 区協議会・地域協議会について | <input type="checkbox"/> 家庭の情報化について |
| <input type="checkbox"/> 運動・スポーツについて | <input type="checkbox"/> 救急車の適正利用について |
| <input type="checkbox"/> 子育て支援について | <input type="checkbox"/> 市政の満足度評価について |
| <input type="checkbox"/> 市政への要望について | <input type="checkbox"/> 市政に対する意見・提言について(自由意見) |

3 調査実施概要

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 20 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 平成 20 年 6 月 15 日～30 日
- (6) 調査機関 株式会社 浜名湖国際頭脳センター

4 回収状況

発送数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,640 件	54.7%

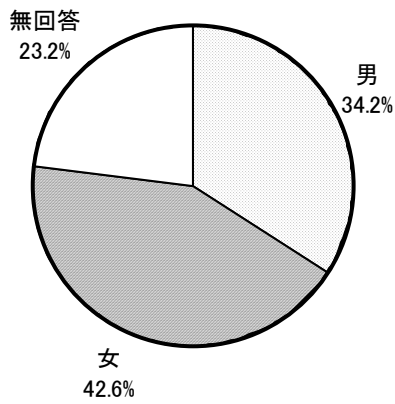
5 報告書内のデータ記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューター処理の都合上、省略している箇所がある。

6 回答者の属性

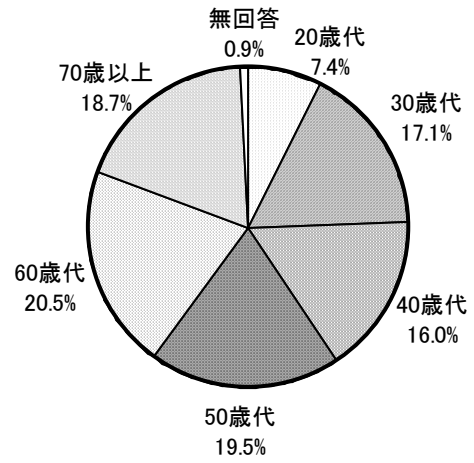
(1) 性別

N=1,640



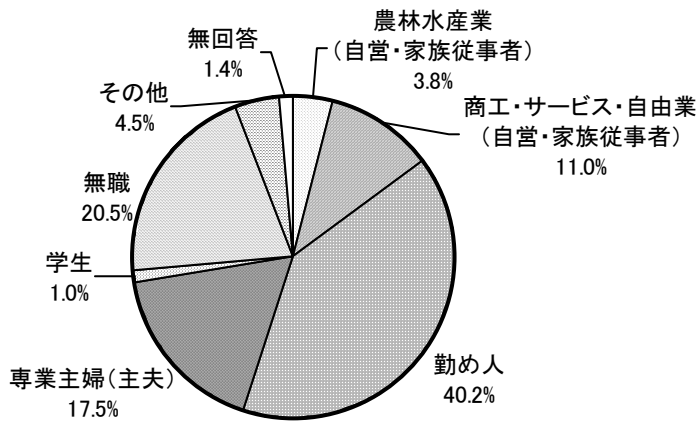
(2) 年代

N=1,640



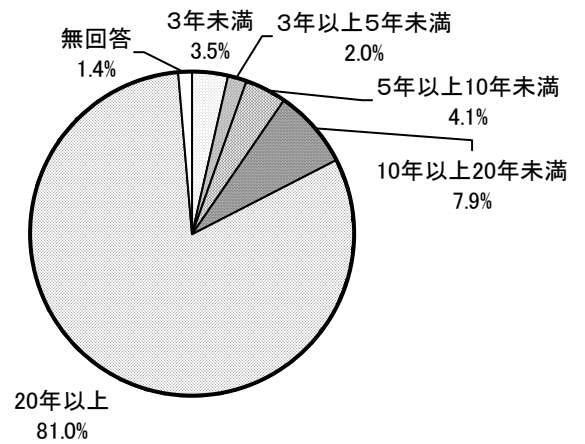
(3) 職業

N=1,640



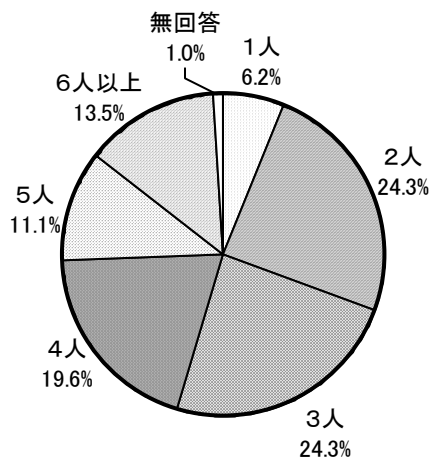
(4) 居住年数

N=1,640



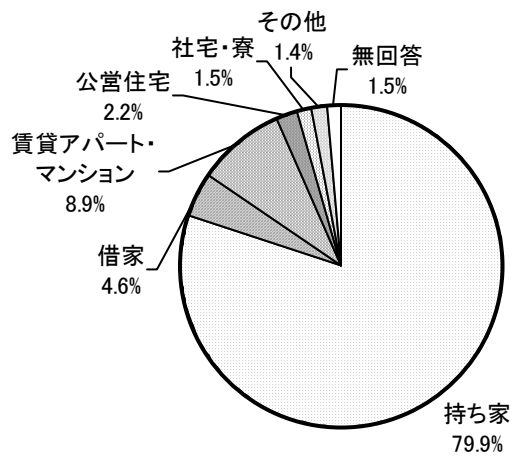
(5) 家族数

N=1,640



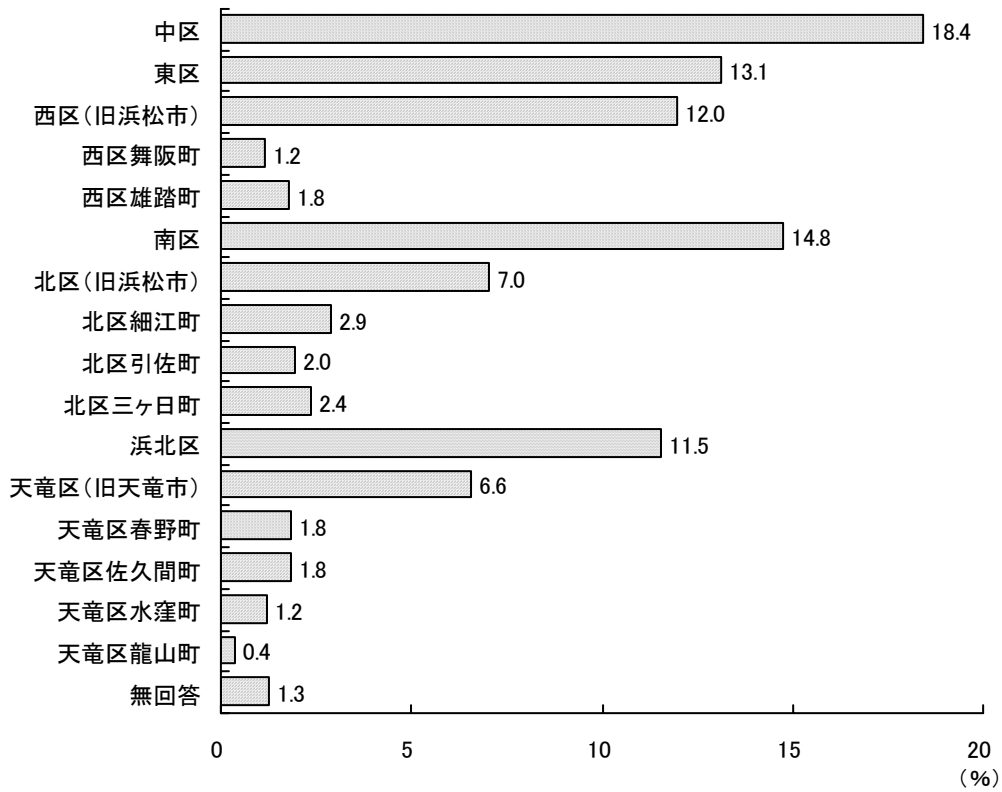
(6) 居住形態

N=1,640



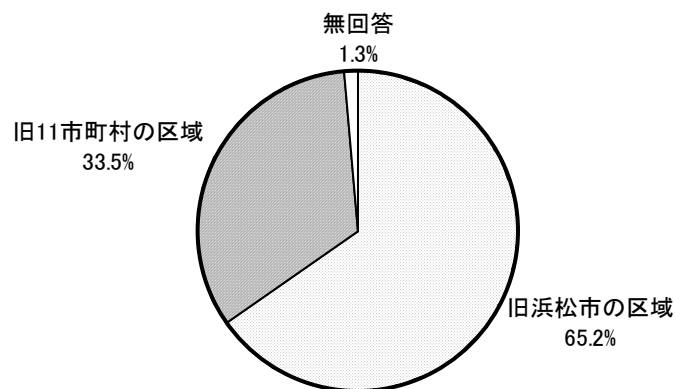
(7) 居住地区

N=1,640



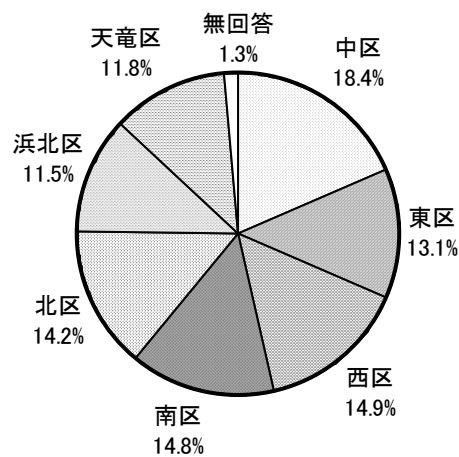
(8) 旧浜松市と旧11市町村

N=1,640

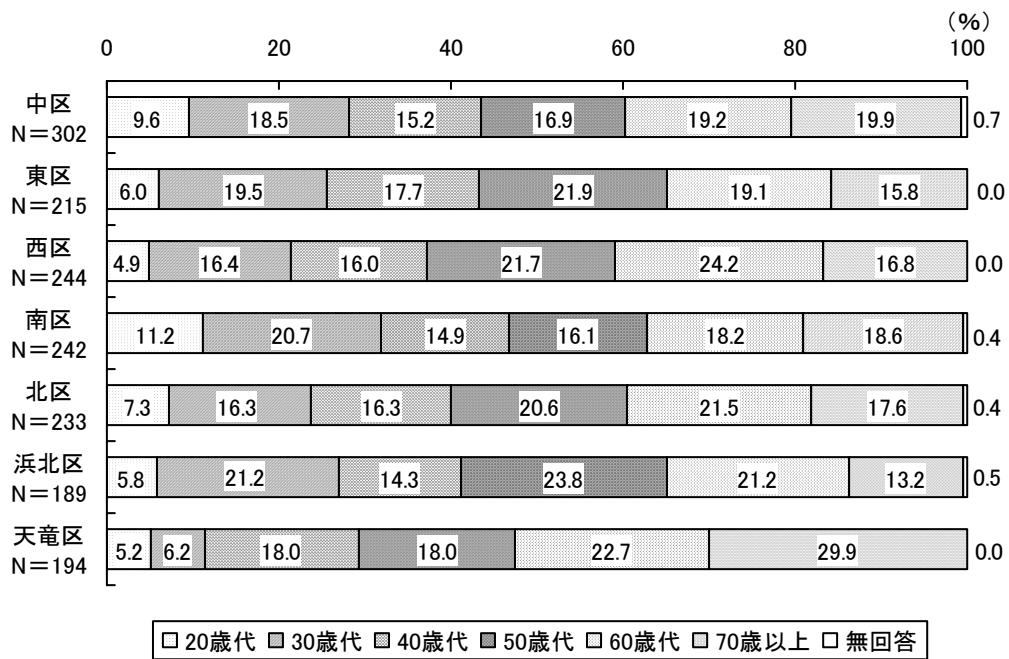


(9) 行政区

N=1,640



(10) 年代別行政区



II 調査結果

1 あなたはご存知ですか？

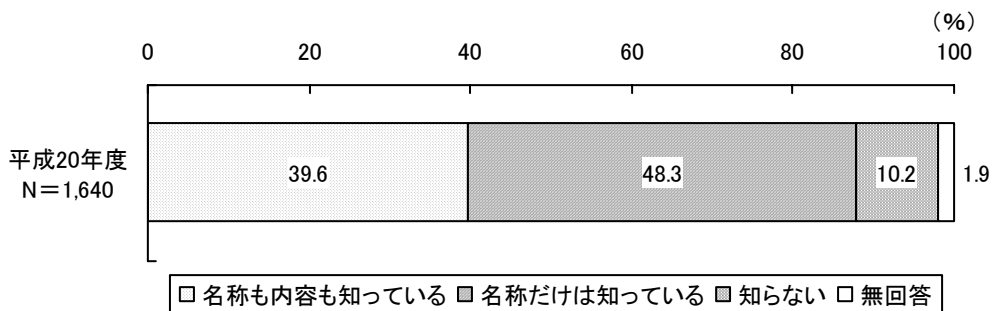
(1) 市の条例や施策の認知度

問1 次の項目について、あなたはご存知ですか。

1つ選んで○を付けてください。

①NPO

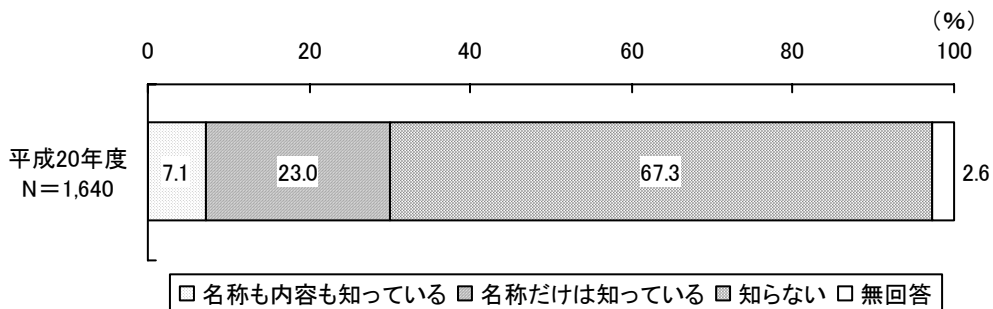
※民間の非営利組織で、自発的に公益的な活動を継続して行っている団体のこと。



「名称も内容も知っている」が 39.6%、「名称だけは知っている」が 48.3%、「知らない」が 10.2%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』(87.9%)は8割を超えているものの、そのうちの半数以上が内容までは知らない結果となった。

②市民協働

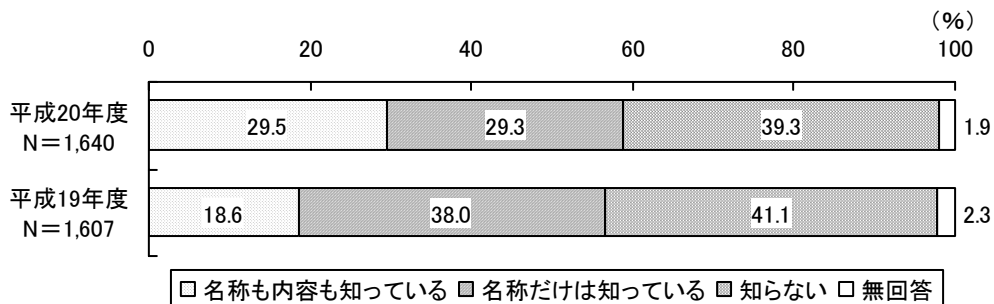
※市民、市民活動団体、事業者および市が、互いの相違を認識し、それぞれの特性を生かしながら、市民が望むまちづくりを目指して、さまざまな観点や形態で協力して取り組むこと。



「名称も内容も知っている」が 7.1%、「名称だけは知っている」が 23.0%、「知らない」が 67.3%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 30.1%と低く、「名称だけは知っている」と「知らない」を合わせた 90.3%が内容を知らない結果となった。

③ 『浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例』（通称：市民マナー条例）

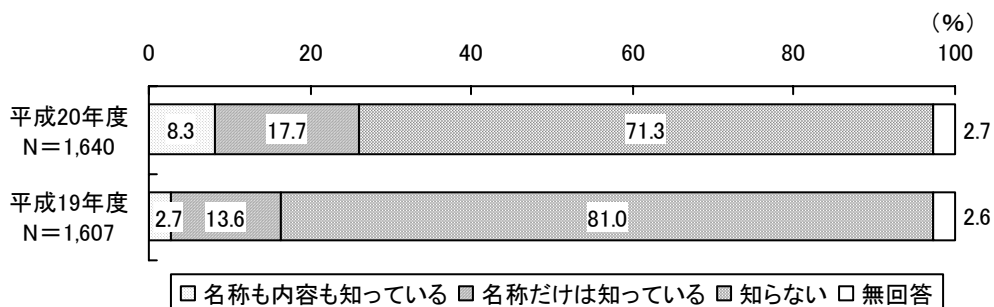
※歩きタバコ・ごみのポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。



「名称も内容も知っている」が 29.5%、「名称だけは知っている」が 29.3%、「知らない」が 39.3%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 58.8%と 5割以上を占め、昨年度の 56.6%と比較して 2.2 ポイント増加している。また、「名称も内容も知っている」の 29.5%は昨年度の 18.6%と比較して 10.9 ポイント増加している。

④ 『浜松市 音・かおり・光環境創造条例』

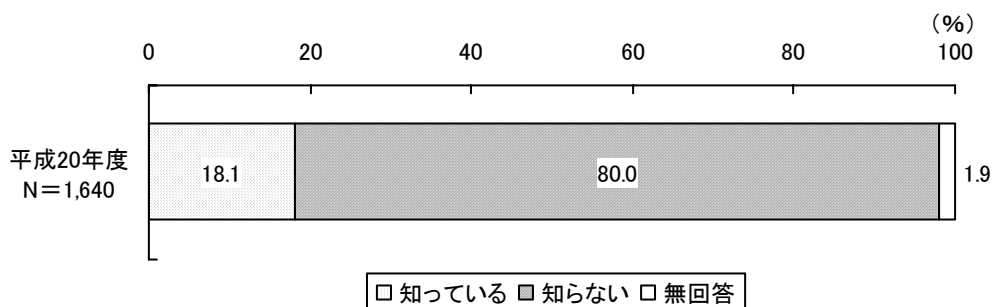
※人に潤いや安らぎを与えてくれる音・かおり・光資源を保全するとともに、自らも人に不快感や嫌悪感を与える騒音、悪臭および光害の防止に取り組み、快適な生活環境創造のための条例。



「名称も内容も知っている」が 8.3%、「名称だけは知っている」が 17.7%、「知らない」が 71.3%となっている。「知らない」が 7割を超えているものの、「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 26.0%と、前年度の 16.3%を 9.7 ポイント上回っている。

⑤ 広告収入事業

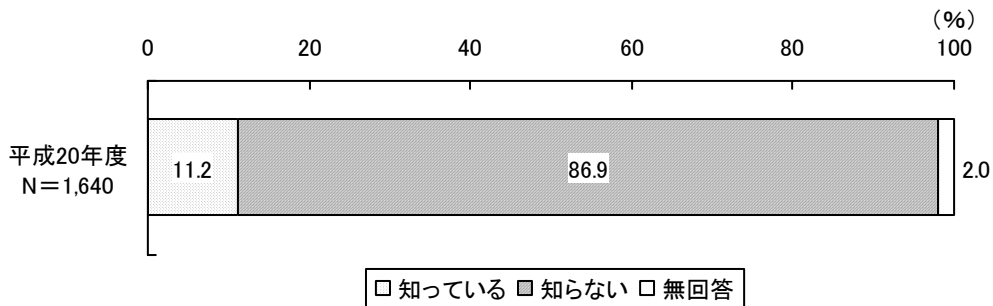
※市では平成18年度から、市の発行する刊行物などに広告を掲載し、広告料を徴収している。



「知っている」が 18.1%、「知らない」が 80.0%となっている。

⑥「人権啓発センター」

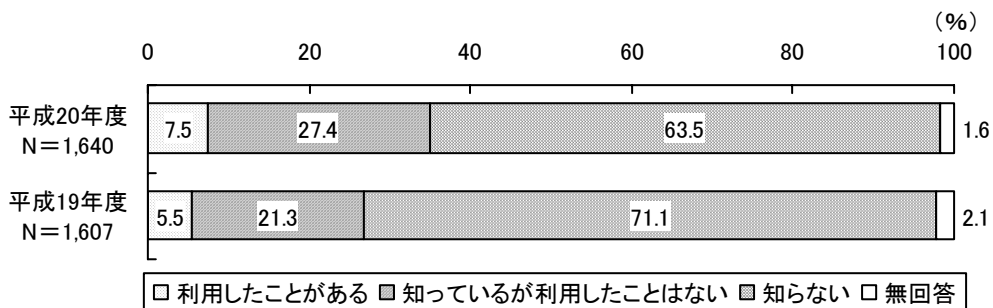
※昨年4月にクリエイート浜松1階に「人権啓発センター」がオープン。



「知っている」が11.2%、「知らない」が86.9%となっている。

⑦スポーツ・文化施設予約システム「まつぼっくり」

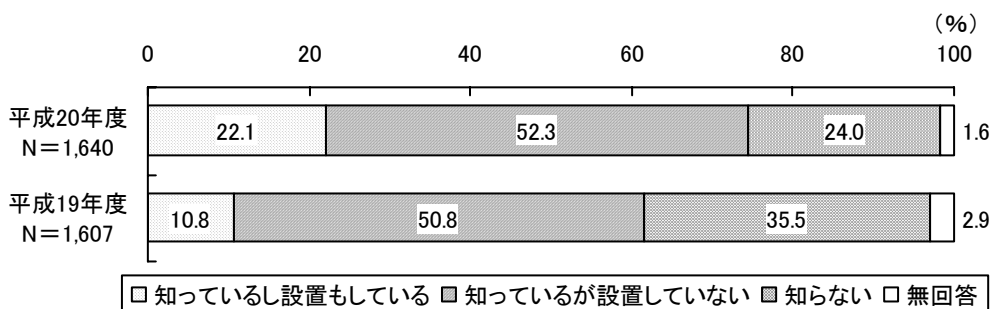
※インターネットで公共施設の予約や空き状況の照会ができるシステム。



「利用したことがある」が7.5%、「知っているが利用したことはない」が27.4%、「知らない」が63.5%となっている。「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせた『認知度』は34.9%と、前年度の26.8%を8.1ポイント上回った。

⑧「住宅用火災警報器」の設置の義務

※消防法の改正により、平成18年6月1日から新築住宅には「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられ、既存住宅の場合は平成21年5月31日までに設置することが義務付けられている。



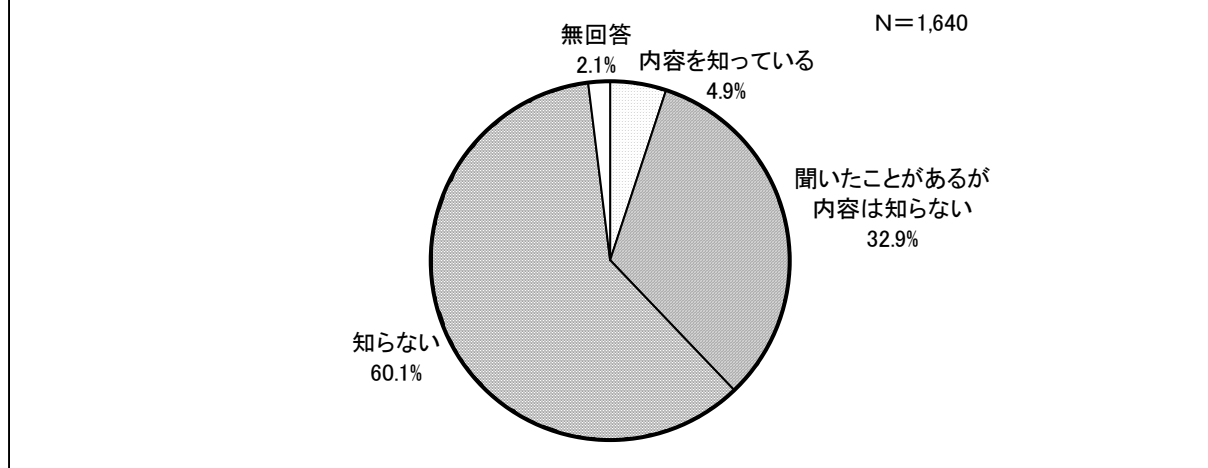
「知っているし設置もしている」が22.1%、「知っているが設置はしていない」が52.3%、「知らない」が24.0%となっている。「知っているし設置もしている」と「知っているが設置はしていない」を合わせた『認知度』は74.4%と、前年度の61.6%を12.8ポイント上回っているものの、知っていながら設置を行っていない割合は前年度とほとんど差がみられない。

2 健康はままつ21・食育について

(1)「健康はままつ21」の認知度

問2 市では、すべての市民が健康で明るく元気に生活できることを目指し、健康づくりの指針となる「健康はままつ21」を策定しましたが、あなたは、ご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)



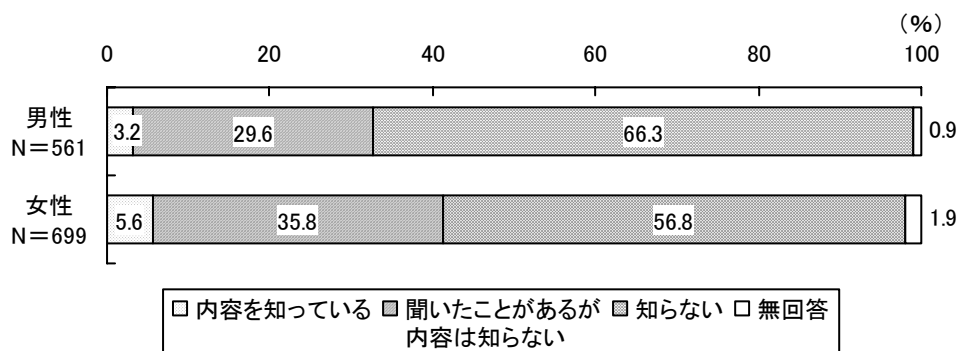
「内容を知っている」が4.9%、「聞いたことがあるが内容は知らない」が32.9%、「知らない」が60.1%となっている。「内容を知っている」と「聞いたことがあるが内容は知らない」を合わせた『認知度』は37.8%と、3割台にとどまっている。

性別でみると、『認知度』は男性が32.8%、女性が41.4%となっており、女性の方が認知度は高い。

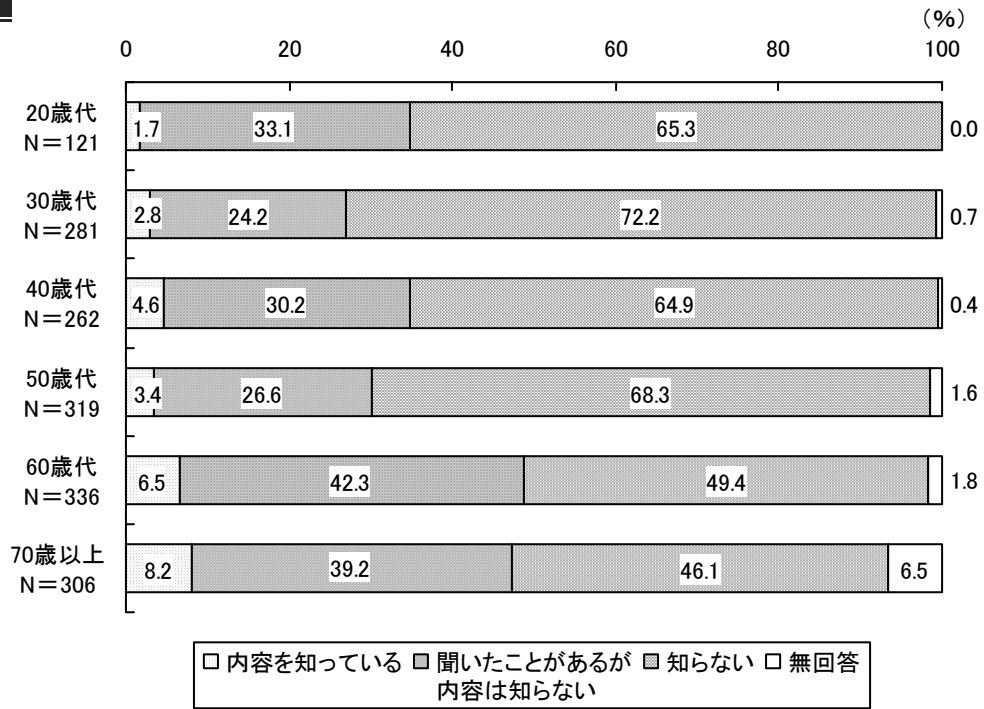
年代別でみると、『知っている』は50歳代以下が2割台後半から3割台前半であったのに対し、60歳代が48.8%、70歳以上が47.4%と、60歳を境に高くなっている。

今後、「健康はままつ21」の認知度を上げていくためには、50歳代以下への周知を図っていくとともに、内容への理解度を高めていくことも必要といえる。

性別



年代別

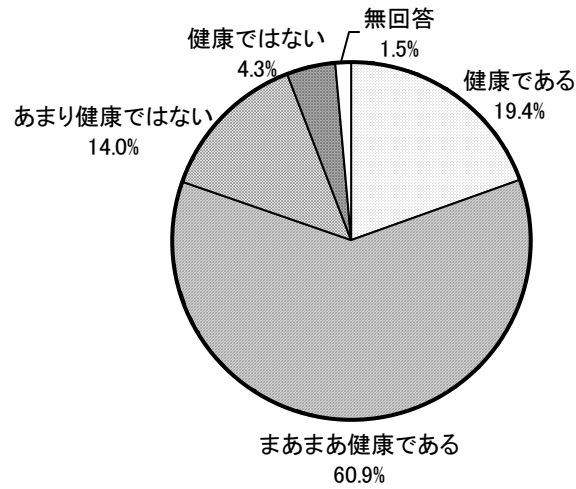


(2) 健康状態

問3 あなたは、現在ご自身の健康状態をどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

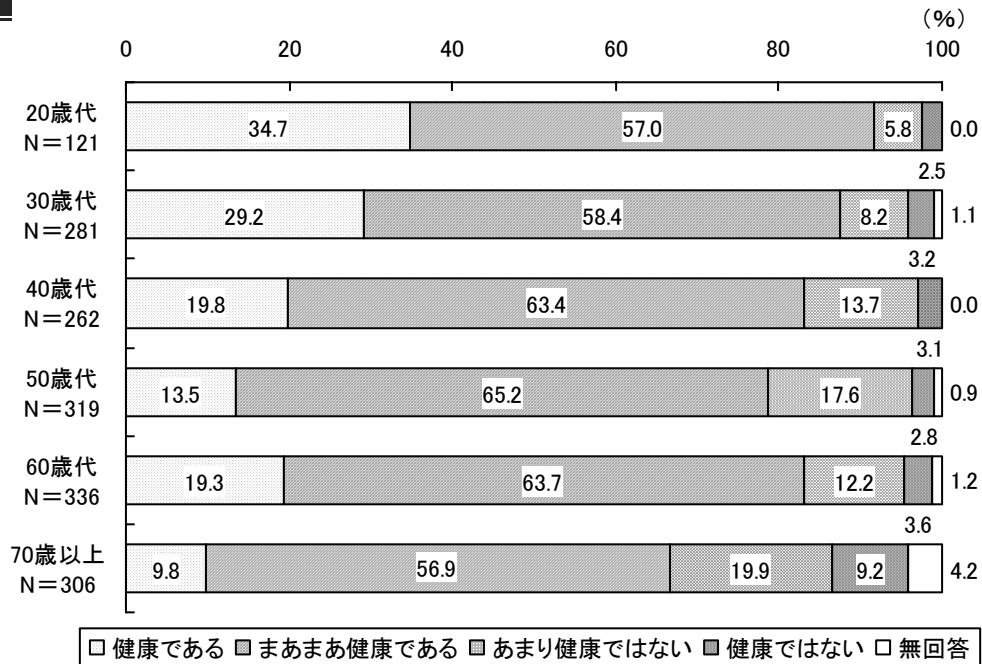
N=1,640



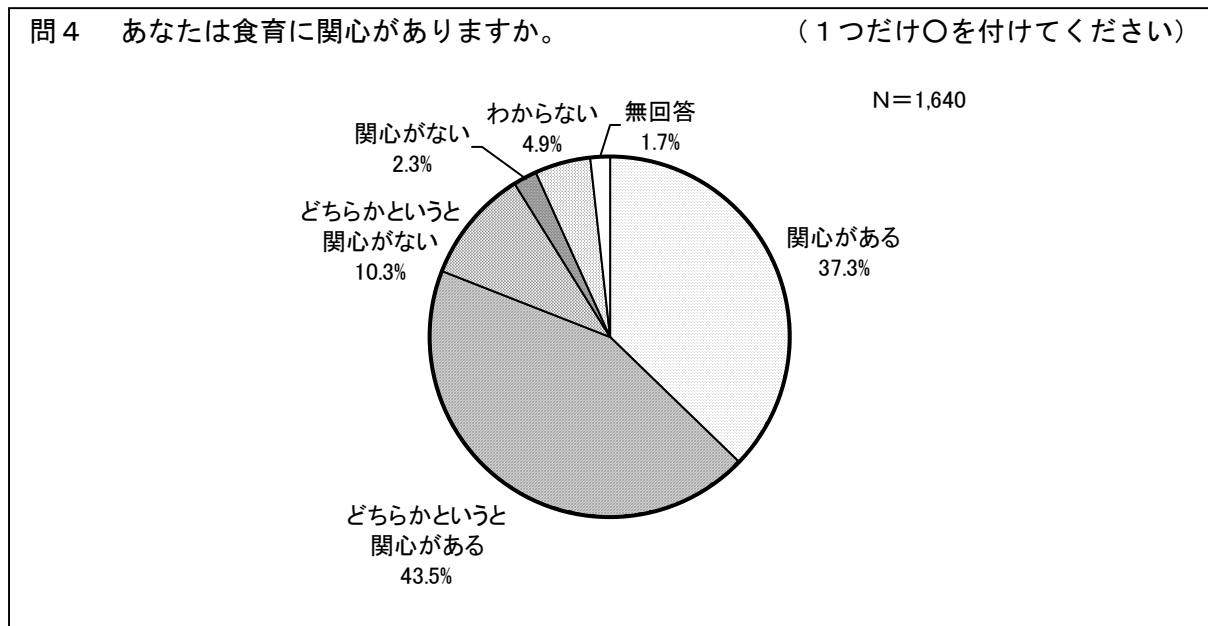
「健康である」が19.4%、「まあまあ健康である」が60.9%、「あまり健康ではない」が14.0%、「健康ではない」が4.3%となっている。「健康である」と「まあまあ健康である」を合わせた『健康である』が80.3%と約8割を占めている。

年代別でみると、「健康である」は20歳代が34.7%、30歳代が29.2%であるのに対し、40歳代以上は2割未満と低くなっている。特に、70歳以上は9.8%と1割未満となっており、年代による違いがみられる。

年代別



(3) 食育への関心度

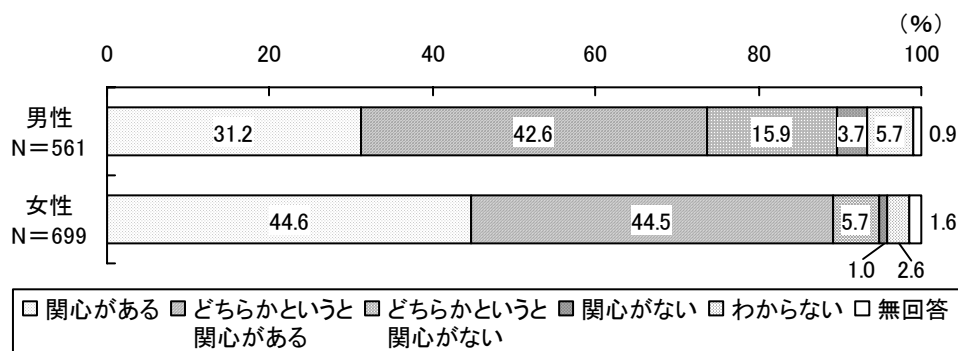


「関心がある」が 37.3%、「どちらかというに関心がある」が 43.5%、「どちらかというに関心がない」が 10.3%、「関心がない」が 2.3%となっている。「関心がある」と「どちらかというに関心がある」を合わせた『関心がある』は 80.8%と高い割合を占めている。

性別で見ると、「どちらかというに関心がある」は男性が 42.6%、女性が 44.5%と男女での差はみられないものの、「関心がある」は女性 44.6%、男性 31.2%であった。その結果、『関心がある』は男性が 73.8%、女性が 89.1%と男女間での関心度に違いがみられた。

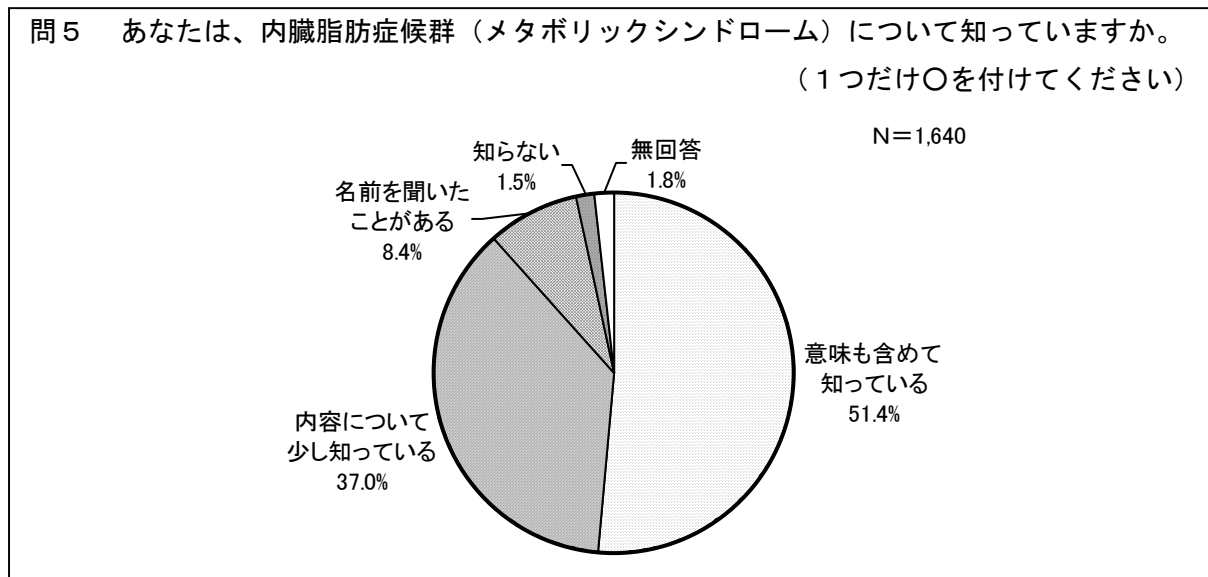
「食育」は、男女問わず必要なことであり、職場での啓発など、男性の関心も高まるような取り組みが必要といえる。

性別



(4) 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知度

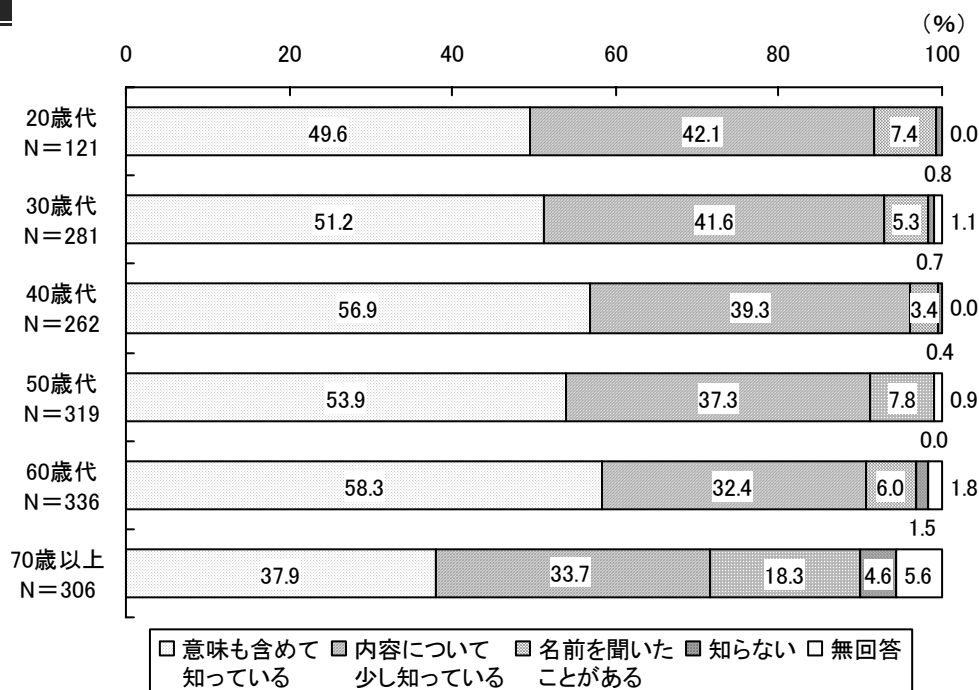
問5 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）について知っていますか。
（1つだけ○を付けてください）



「意味も含めて知っている」が51.4%、「内容について少し知っている」が37.0%、「名前を聞いたことがある」が8.4%、「知らない」が1.5%となっている。「意味も含めて知っている」、「内容について少し知っている」および「名前を聞いたことがある」を合わせた『知っている』は96.8%となり、ほとんどの人が少なくとも言葉は知っている結果となった。また、「意味も含めて知っている」が5割を占めることから、メタボリックシンドロームが広く浸透してきているといえる。

年代別でみると「意味も含めて知っている」では、60歳代までは約5割から6割近くであるのに対し、70歳以上では37.9%とほかの年代と比べて低く、認識に差がみられた。メタボリックシンドロームは新しい用語であるため、高齢者層ではまだ知らない人が多いことがわかる。

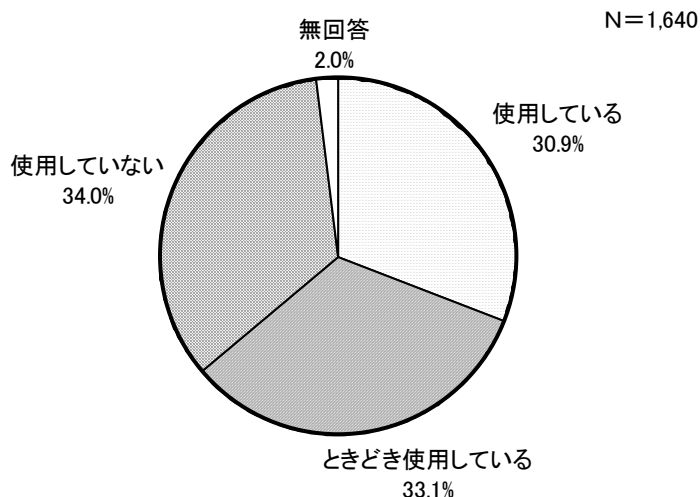
年代別



3 マイバッグ・マイバスケットの活用について

(1) マイバッグ・マイバスケットの使用

問6 地球温暖化防止や資源の有効活用、ごみ減量などを図るため、レジ袋削減マイバッグ・マイバスケット持参運動を推進しています。買い物時にマイバッグやマイバスケットを使用していますか。
(1つだけ○を付けてください)



「使用している」が30.9%、「ときどき使用している」が33.1%、「使用していない」が34.0%となっている。「使用している」と「ときどき使用している」を合わせた『使用している』は64.0%と6割以上を占めている。

性別でみると、「使用している」では男性が18.5%、女性が40.3%、また『使用している』でも男性が50.1%、女性が76.1%と、女性が男性を26.0ポイント上回っており、男女の意識に大きな差がみられる結果となった。

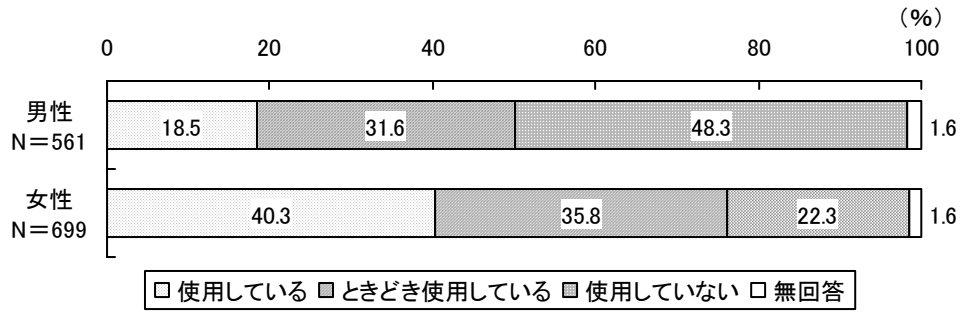
年代別でみると、「使用している」は20歳代が23.1%、30歳代が28.1%であるのに対し、60歳代は36.3%、70歳以上は32.4%など、年代が上がるほど使用の割合が高くなる傾向にある。『使用している』でみた場合、60歳代が69.6%とほかの年代と比較して高く、一方で、20歳代が58.6%とほかの年代と比較して低い。

職業別でみると、「使用している」は、専業主婦（主夫）が46.7%と半数近くが回答している一方で、農林水産業は16.1%、勤め人は23.3%と、専業主婦（主夫）と比較して低い。

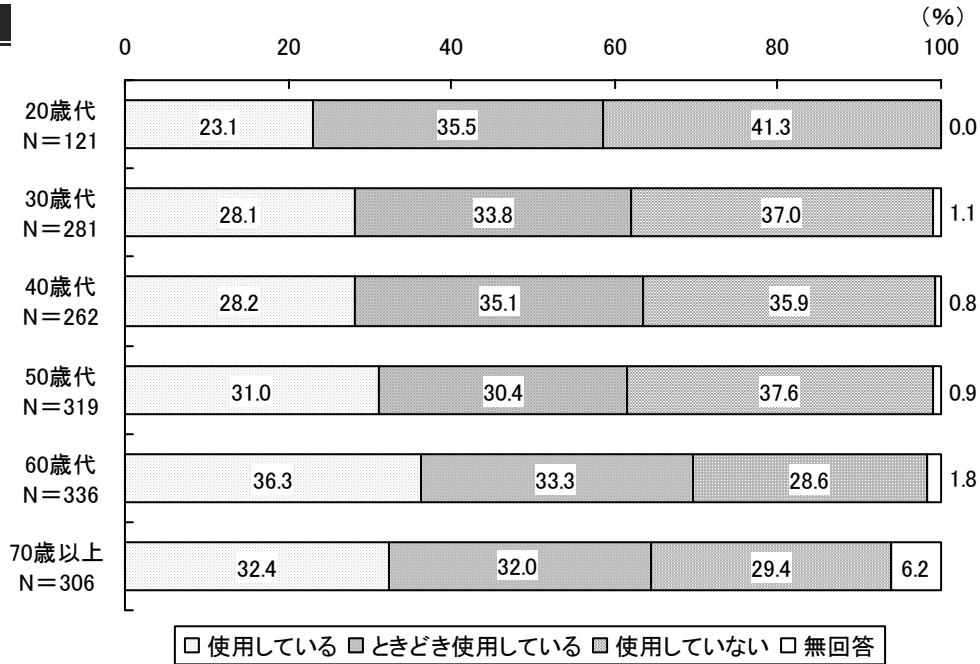
行政区別でみると、『使用している』は、浜北区の73.0%、天竜区の74.8%がほかの区と比較して高い割合となっている。

マイバッグ・マイバスケットの活用は、平成20年10月から市内の主要なスーパーなどでレジ袋の有料化が開始されることで進んでいくと思われるが、普段、買い物をする機会が少ない男性などにも必要性を訴え、普及していくことも必要となる。

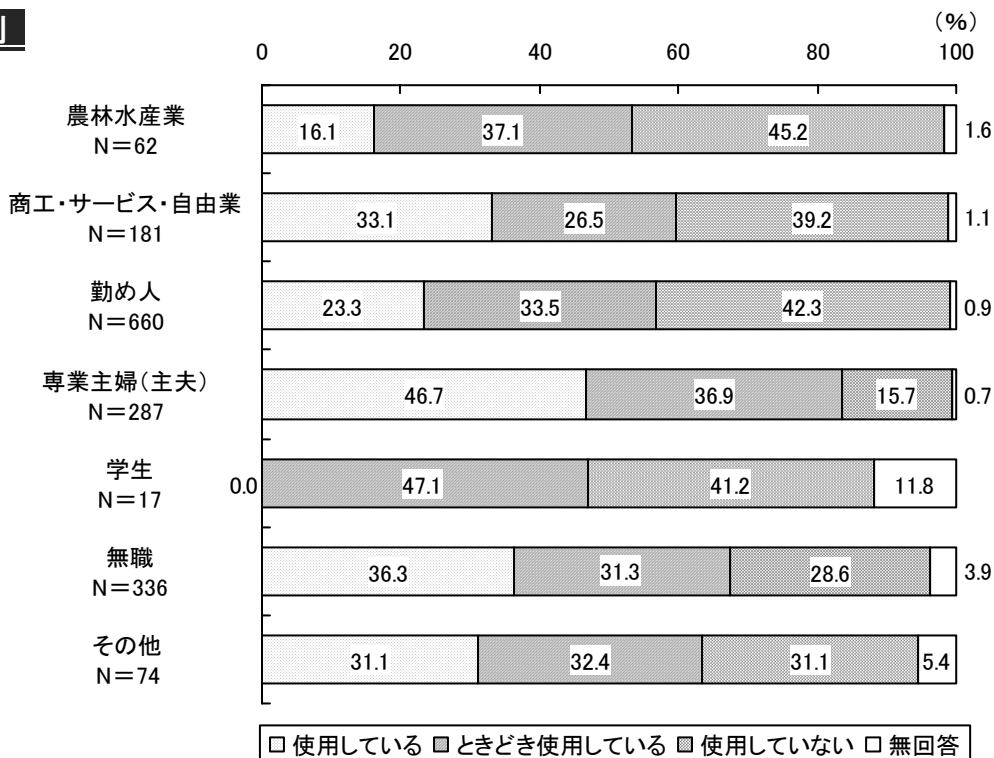
性別



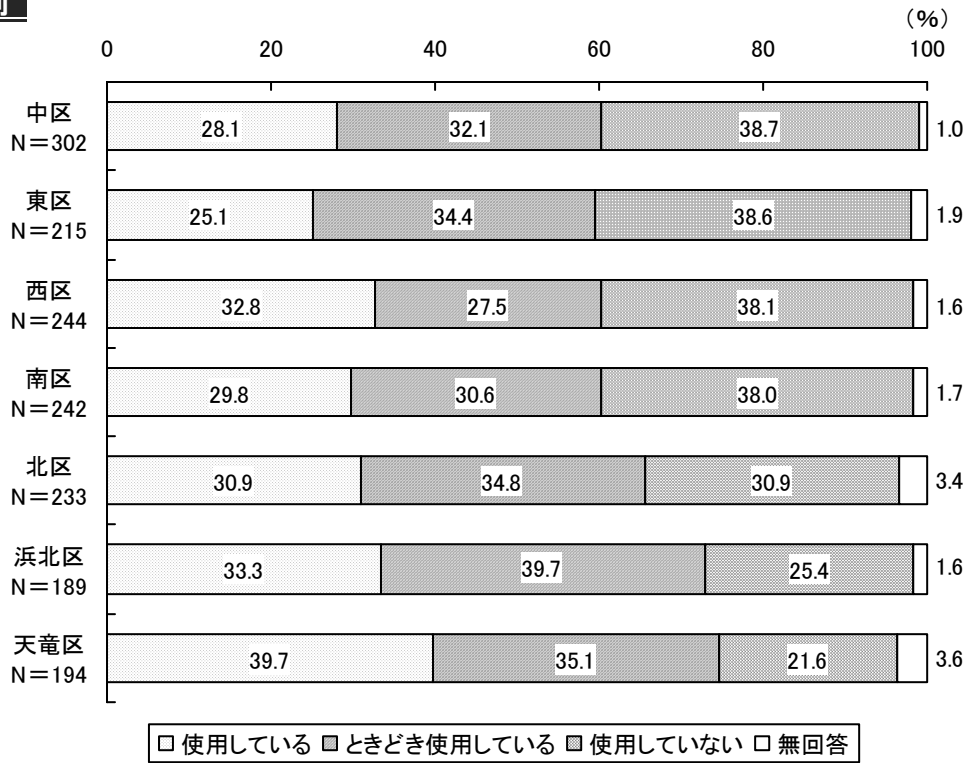
年代別



職業別



行政区別



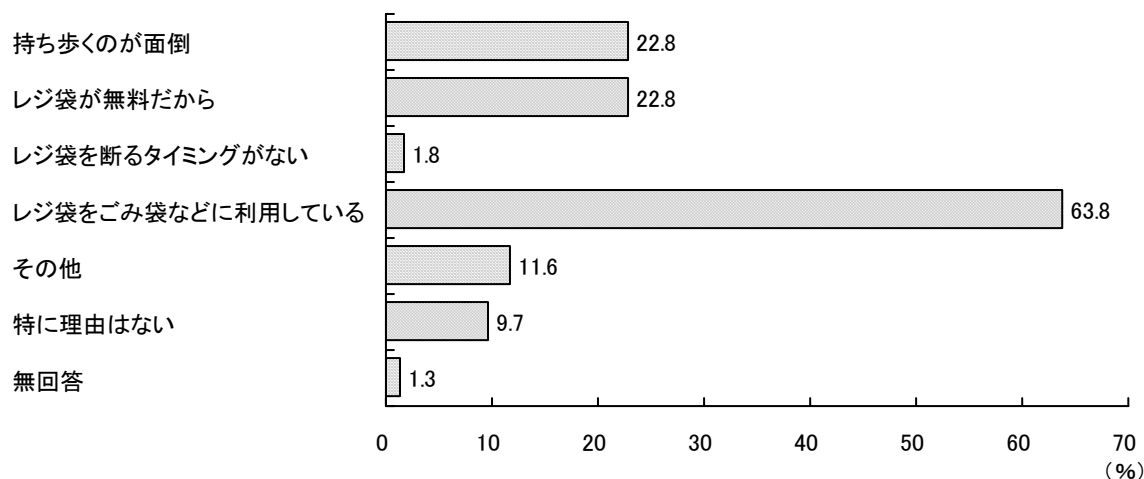
(2) マイバッグ・マイバスケットを使用しない理由

問7 問6で「3. 使用していない」とお答えの方に伺います。

マイバッグやマイバスケットを使用しない理由をお答えください。

(あてはまるもの2つまで○を付けてください)

N=558

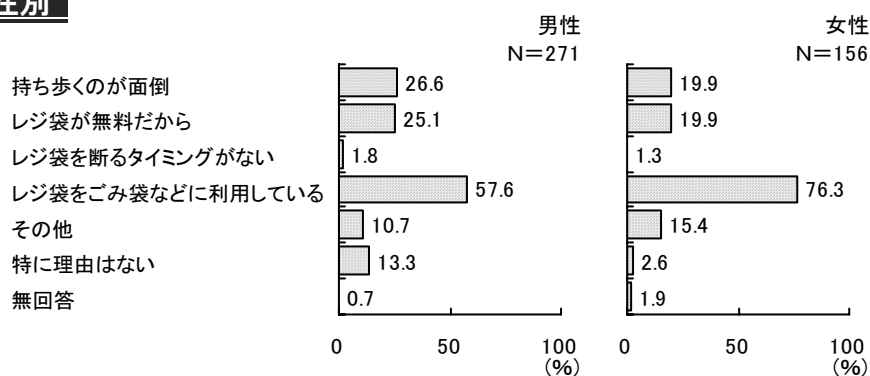


マイバッグを使用しない理由は、「レジ袋をごみ袋などに利用している」が63.8%と最も多く、次いで「持ち歩くのが面倒」および「レジ袋が無料だから」がそれぞれ22.8%となっており、最も回答が少なかったのは「レジ袋を断るタイミングがない」の1.8%であった。

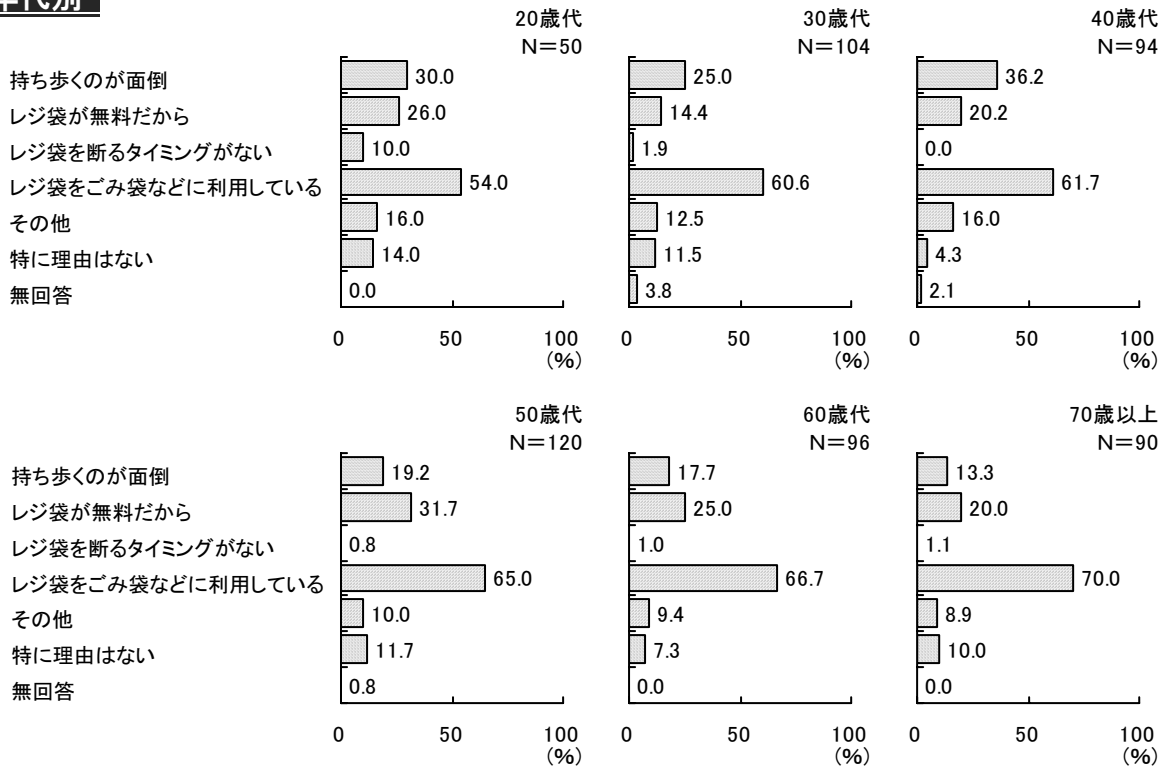
性別でみると、男女とも最も多い回答は「レジ袋をごみ袋などに利用している」であるが、割合をみると、男性が57.6%、女性が76.3%と女性が男性を大きく上回っている。一方、次いで回答が多い「持ち歩くのが面倒」および「レジ袋が無料だから」では、男性がどちらも2割以上であるのに対し女性は1割台と男性が女性を上回っている。

年代別でみると、いずれの年代でも最も多い回答は「レジ袋をごみ袋などに利用している」であるが、その割合はおおむね年代が上がるほど高くなる傾向にある。「持ち歩くのが面倒」への回答は50歳代以上で1割台と比較的低いのにに対し、40歳代以下では2割台から3割台と高い。また、「レジ袋が無料だから」への回答が最も多かったのは50歳代の31.7%で、唯一3割以上となっている。

性別



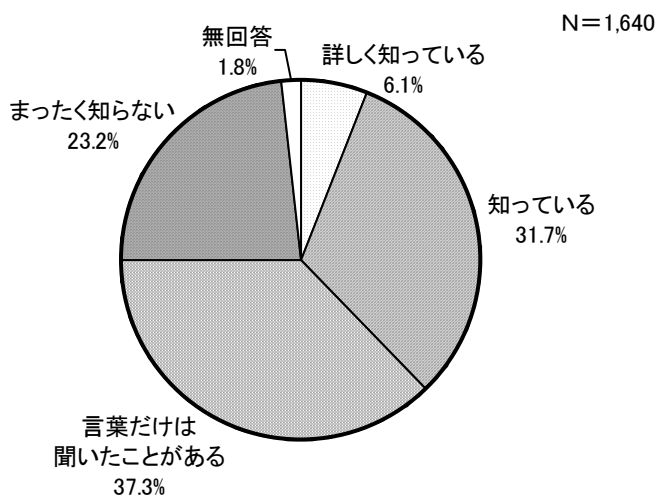
年代別



4 ユニバーサルデザインについて

(1) 「ユニバーサルデザイン」の認知度

問8 市では、ユニバーサルデザインの考え方を市政に取り入れています。ユニバーサルデザインとは、身体能力、年齢、国籍、性別などに関係なく、誰もが安全で安心な暮らしができるように環境づくりやまちづくりなどを行っていかこうとする考え方です。あなたは、ご存知でしたか。 (1つだけ○を付けてください)



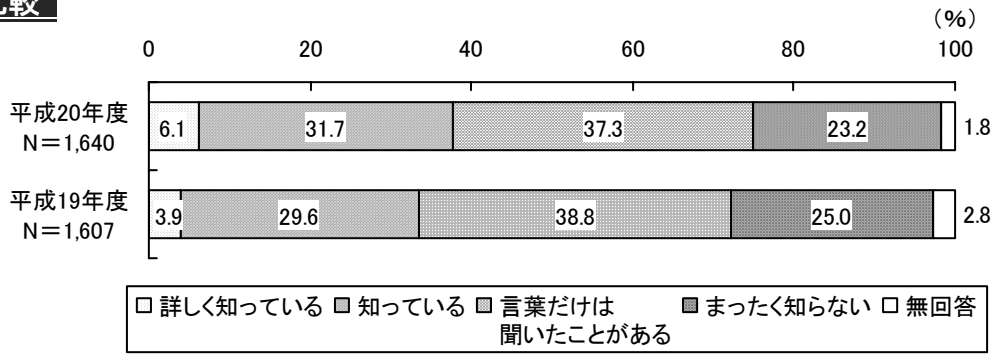
「詳しく知っている」が6.1%、「知っている」が31.7%、「言葉だけは聞いたことがある」が37.3%、「まったく知らない」が23.2%となっている。「詳しく知っている」と「知っている」を合わせた『知っている』は37.8%、また、それに「言葉だけは聞いたことがある」を合わせた『少なくとも聞いたことがある』は75.1%となっている。

前年度と比較してみると、『知っている』は前年度の33.5%から4.3ポイント、『少なくとも聞いたことがある』は前年度の72.3%から2.8ポイント増加している。

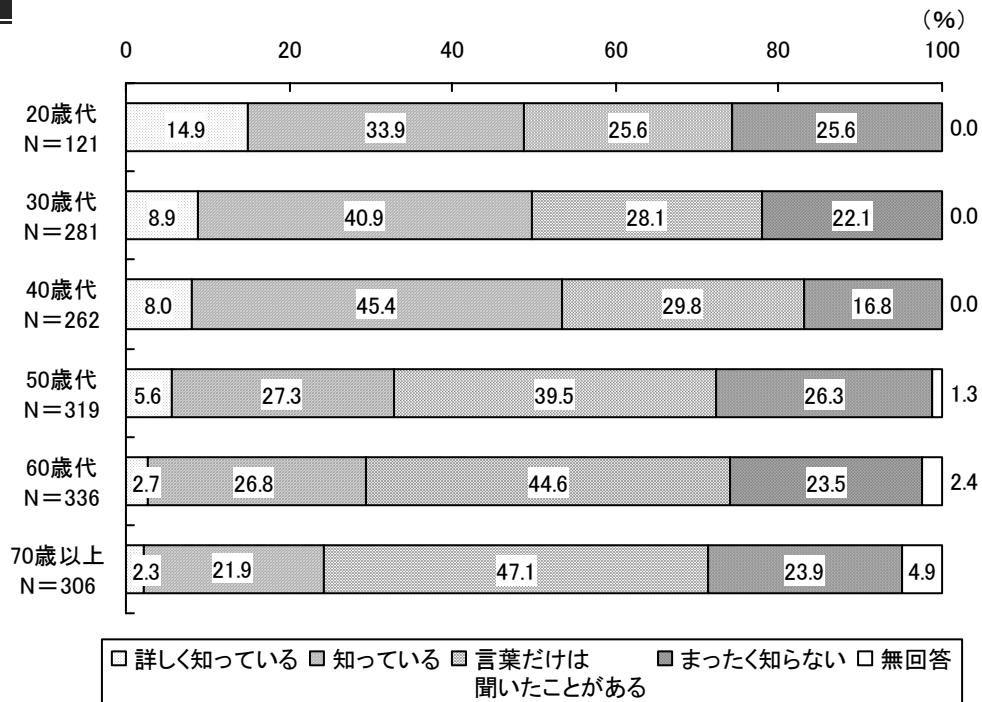
年代別でみると、『知っている』は40歳代が最も多く、次いで30歳代、20歳代でも3割以上と多くなっている。特に、20歳代では、「詳しく知っている」が14.9%と唯一1割を超えており、内容を含めた理解度の高さがうかがえる。一方、50歳代以上では年代があがるほど理解度が低く、最も低い70歳以上では24.2%となっている。

認知度の上昇は、浜松市ユニバーサルデザイン計画「U・優プラン」のもと施策を展開した結果であるといえるが、今後、より認知度を上げていくには、50歳以上の方へわかりやすい情報発信が必要になるといえる。

経年比較



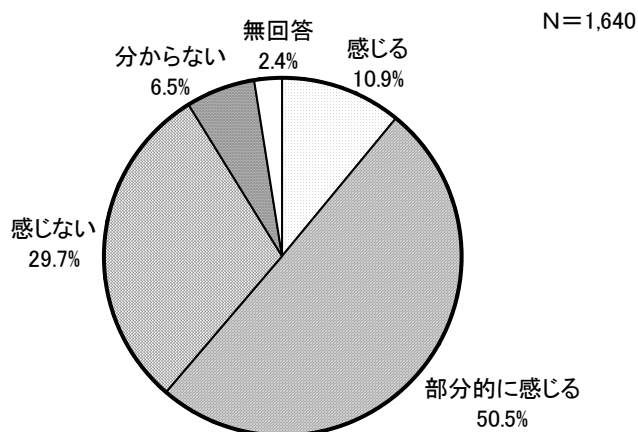
年代別



(2) 地域の安全性

問9 あなたのお住まいの地域は、歩道整備や交通機関など移動の面や、防災・防犯などの面から安全・安心に暮らすことのできる地域と感じますか。

(1つだけ○を付けてください)

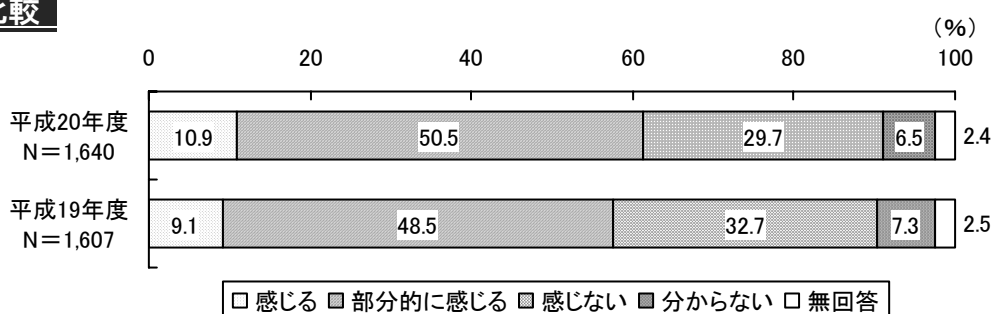


「感じる」が10.9%、「部分的に感じる」が50.5%、「感じない」が29.7%、「分からない」が6.5%となっている。「感じる」と「部分的に感じる」を合わせた『感じる』は61.4%となった。前年度調査と比較すると、『感じる』は前年度の57.6%よりも3.8ポイント増加している。

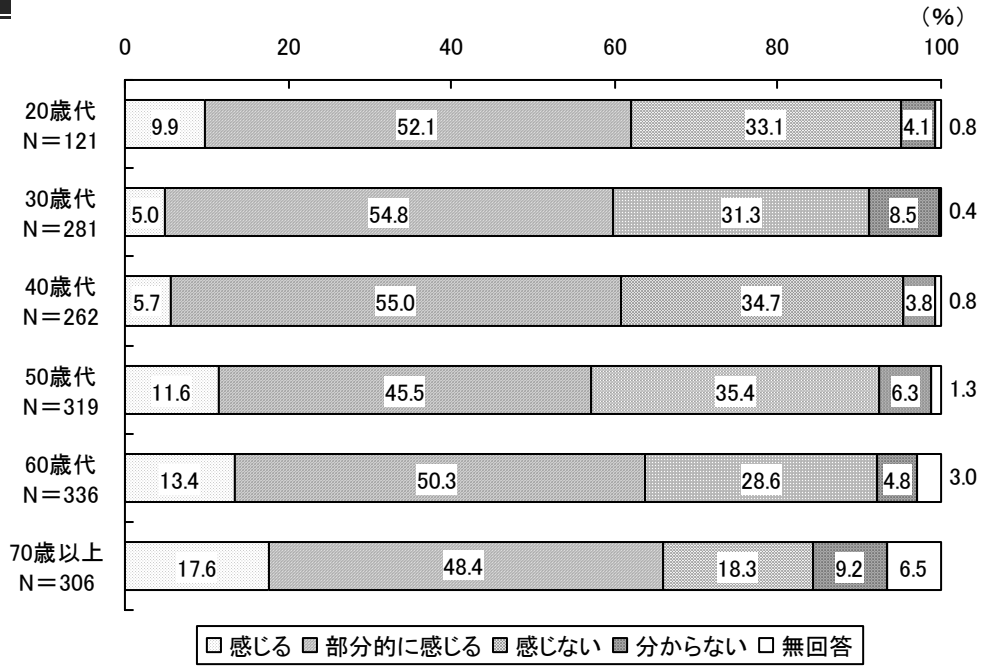
年代別でみると、ほかの年代と比較して「感じる」への回答が著しく少ないのは30歳代の5.0%と40歳代の5.7%であり、いずれも1割未満であった。

行政区別でみると、天竜区で『感じる』への回答が50.0%とほかの区と比較して低く、また、「感じない」との回答が42.8%と唯一4割以上であったことから、ほかの区よりも地域の安全・安心に対して感じる不安が大きいことがうかがえる。

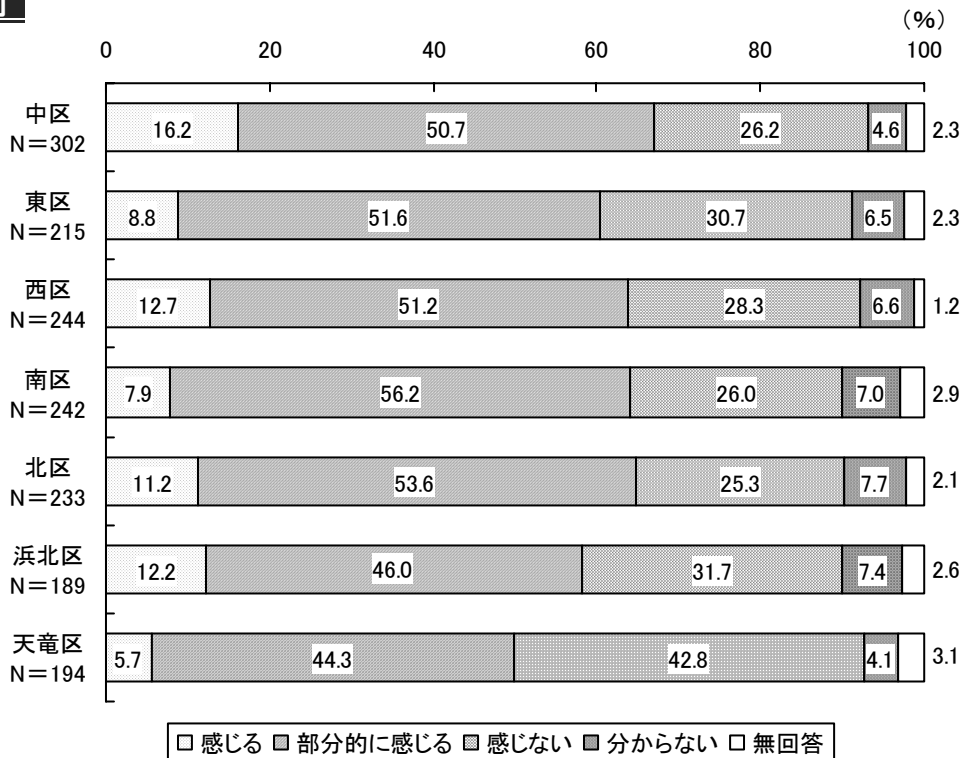
経年比較



年代別

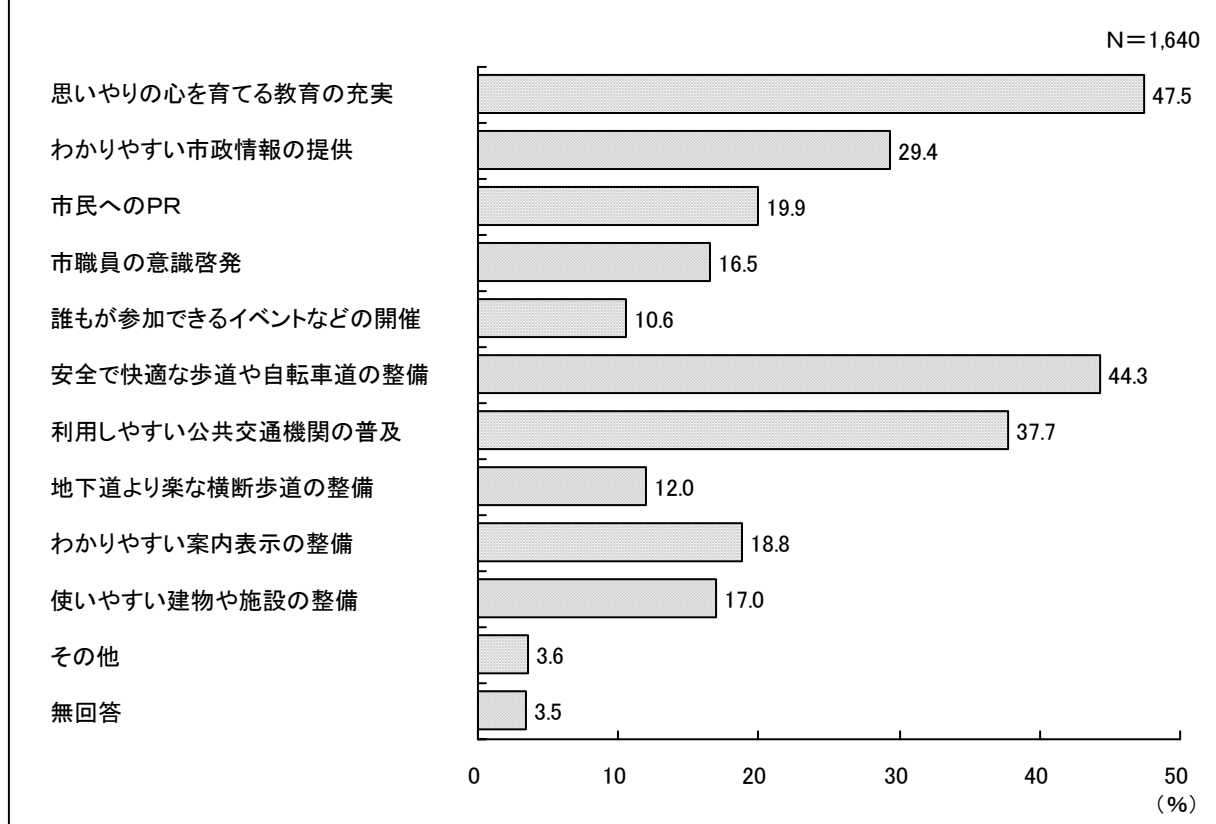


行政区別



(3) ユニバーサルデザインで取り組むべきこと

問10 あなたは、ユニバーサルデザインのまちづくりのために、どのようなことから取り組むべきだと思いますか。
(あてはまるもの3つまで○を付けてください)



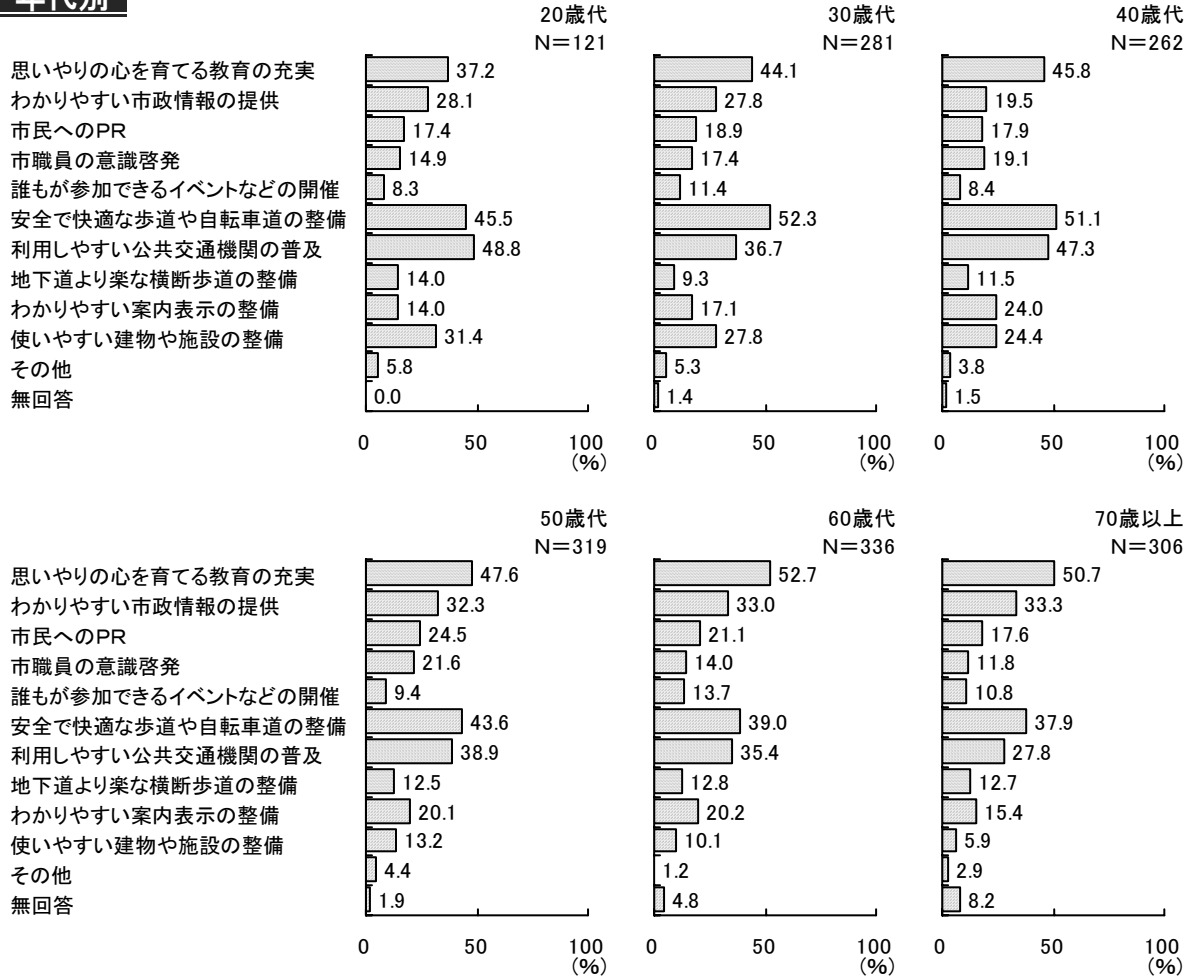
「思いやりの心を育てる教育の充実」が47.5%と最も多く、次いで「安全で快適な歩道や自転車道の整備」が44.3%、「利用しやすい公共交通機関の普及」が37.7%と、これらが3割以上の回答を得ている。

年代別でみると、「思いやりの心を育てる教育の充実」は年代が上がるほど割合が高くなっており、「安全で快適な歩道や自転車道の整備」は30歳代、40歳代を中心とした年代が、「利用しやすい公共交通機関の普及」では20歳代、40歳代を中心とした年代が高くなっている。また、「使いやすい建物や施設の整備」は年代が下がるほど割合が高くなっており、20歳代の31.4%と70歳以上の5.9%では5倍以上の差がみられた。

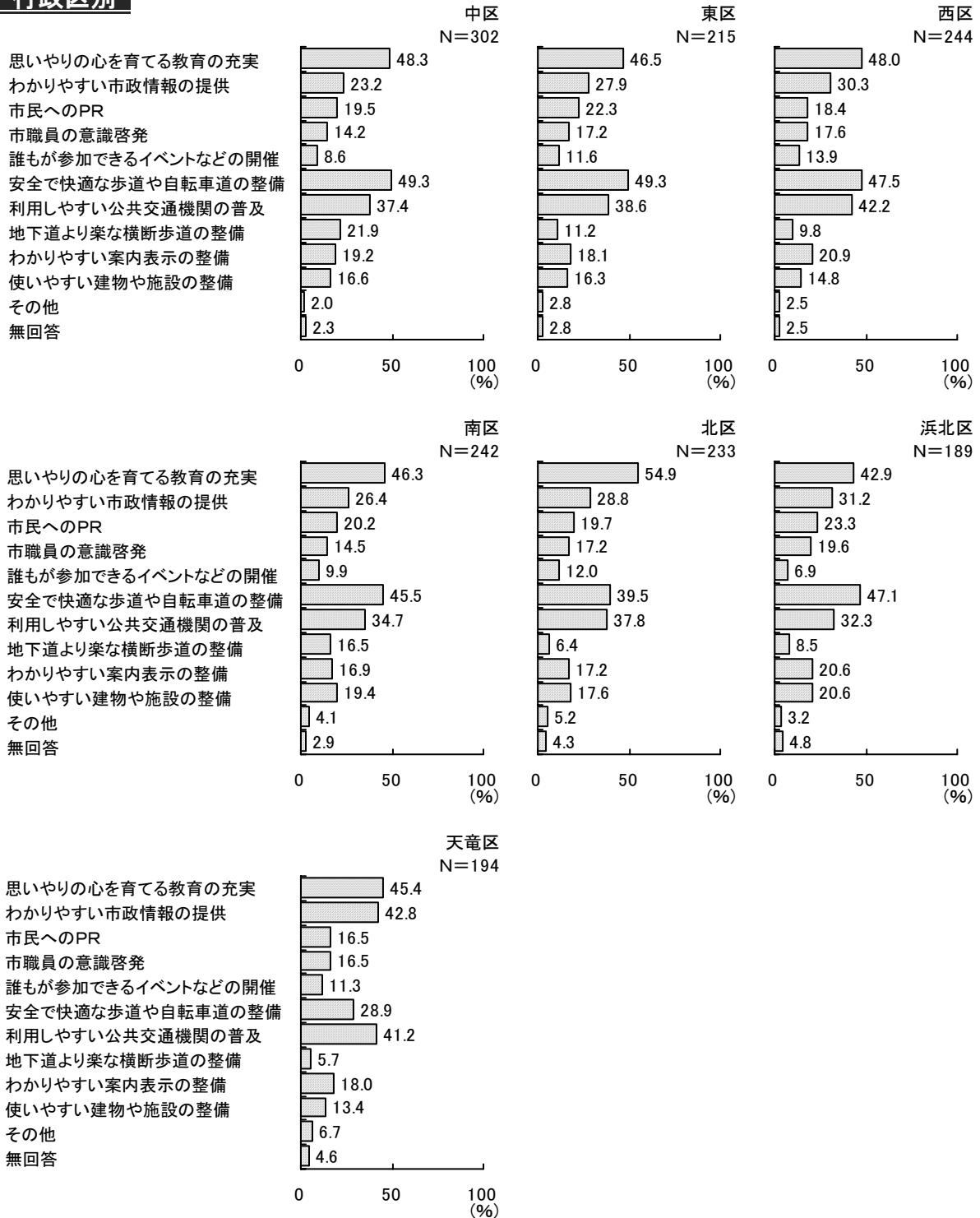
行政区別でみると、「思いやりの心を育てる教育の充実」では北区の54.9%、「わかりやすい市政情報の提供」では天竜区の42.8%、「地下道より楽な横断歩道の整備」では中区の21.9%がそれぞれ最も多くなっている。一方で、「安全で快適な歩道や自転車道の整備」では天竜区の28.9%がほかの区と比べて低くなっている。このように、地区により重要視する項目に違いがみられる結果となった。

ユニバーサルデザインとしての取り組みは、地域や年代によって求める内容も異なってくることから、地域性、世代間を考慮した取り組みが必要になるといえる。

年代別



行政区別

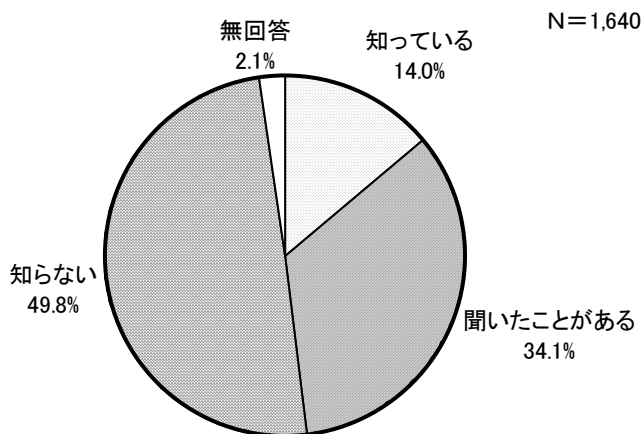


5 区協議会・地域協議会について

(1)「区協議会・地域協議会」の認知度

問 11 市では、市民の声を市政に反映させるための仕組みとして、平成 17 年 7 月の合併時に旧市町村単位に地域住民の代表で組織する「地域協議会」を設置しました。また、平成 19 年 4 月の政令指定都市移行に伴い、全ての区に地域協議会と同様の機能を持つ「区協議会」を設置しました。あなたは、区協議会・地域協議会のことをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)



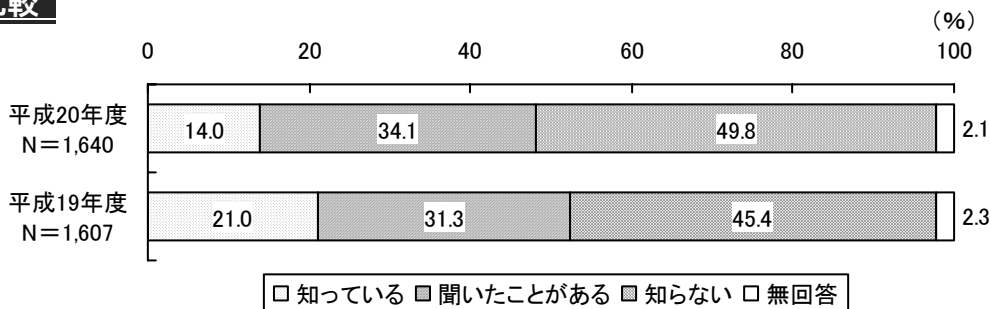
「知っている」が 14.0%、「聞いたことがある」が 34.1%、「知らない」が 49.8%となっている。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』は 48.1%と全体の約半数を占めた。

前年度調査と比較すると、『知っている』は、前年度の 52.3%から 4.2 ポイント減少している。

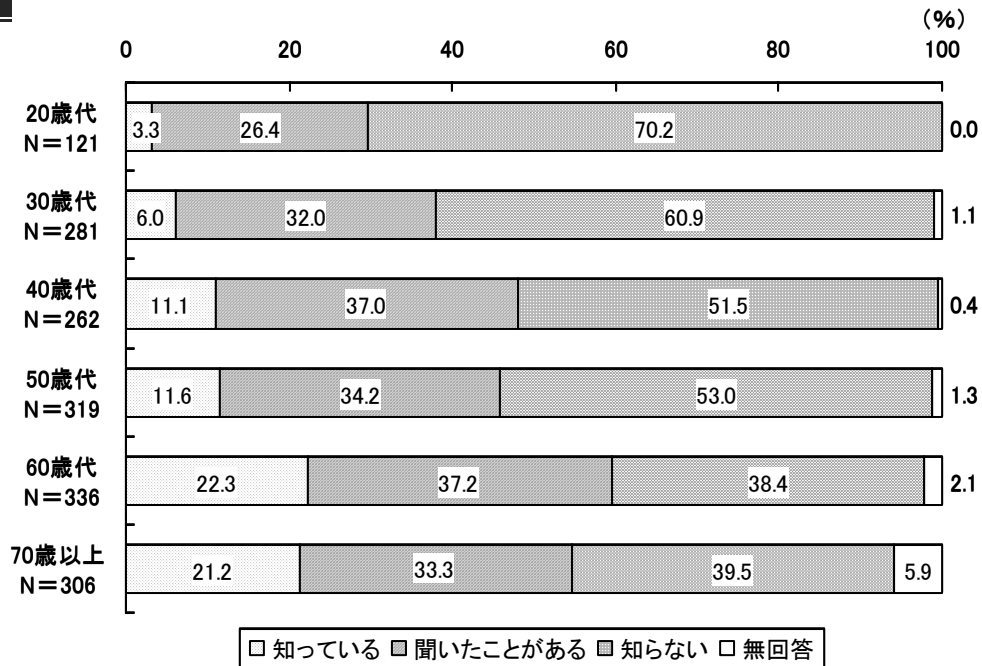
年代別でみると、『知っている』の割合はおおむね年代が上がるほど高くなっており、「知っている」ではさらにその傾向が強くなっている。「知っている」への回答は、60 歳代の 22.3%と 20 歳代の 3.3%で約 7 倍の差がみられた。

行政区別でみると、『知っている』は天竜区が 70.7%とほかの区と比較して非常に高く、認識の高さがうかがわれる。また、北区でも『知っている』が 52.4%と 5 割以上を占め、ほかの区と比較して高い割合となっている。「知っている」でも、天竜区が 32.0%、北区が 18.5%と、ほかの区と比べて高い割合となっている。

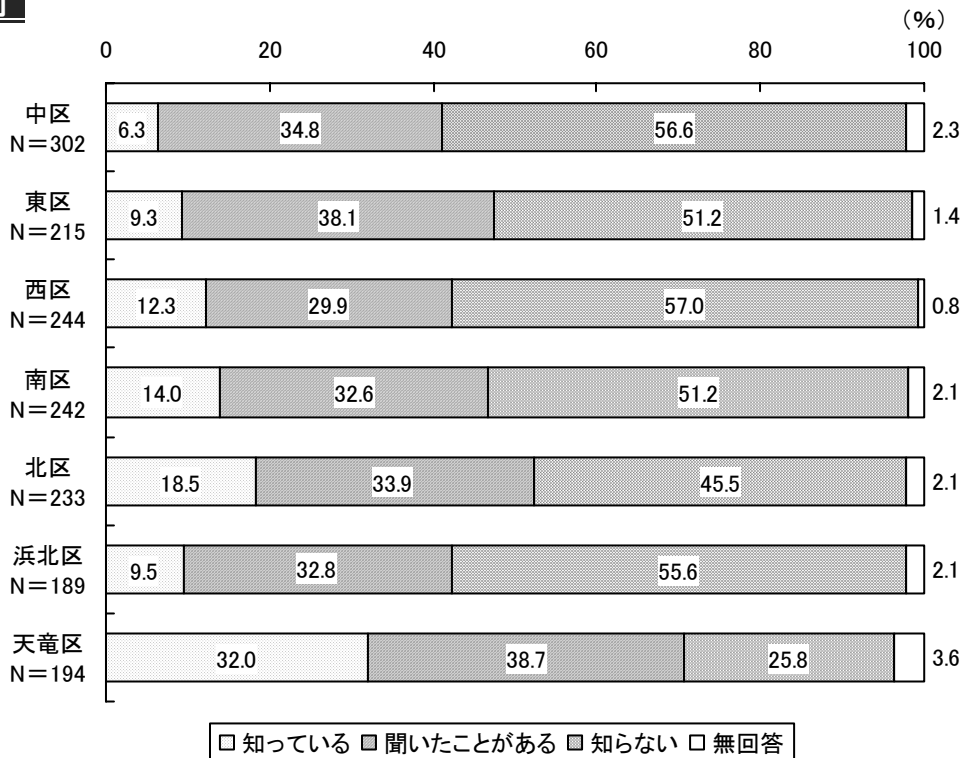
経年比較



年代別



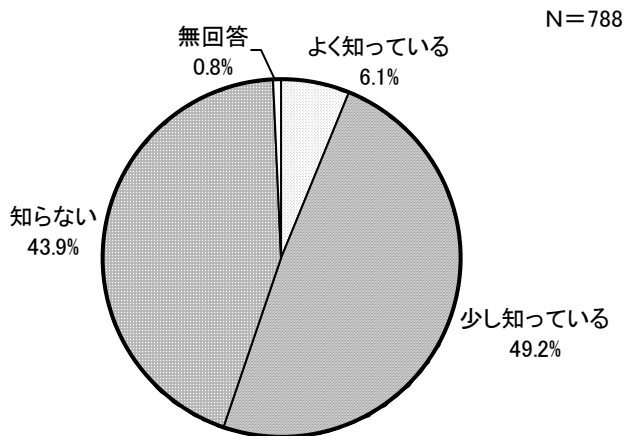
行政区別



(2)「区協議会・地域協議会」の活動内容

問 12 問 11 で「1. 知っている」「2. 聞いたことがある」とお答えの方に伺います。
あなたは、区協議会・地域協議会がどのような活動をしているかご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)



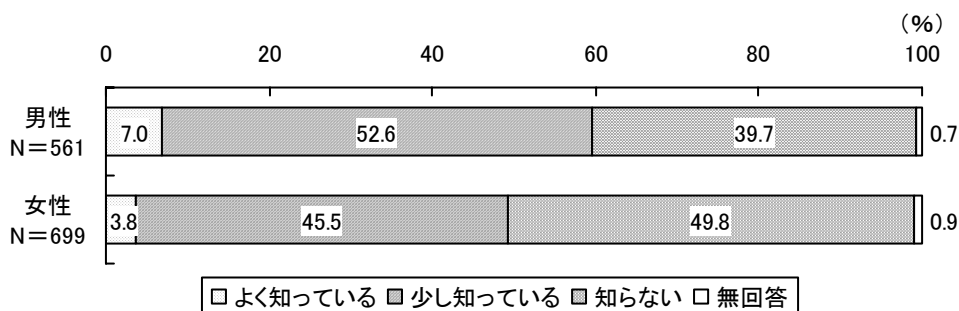
「よく知っている」が 6.1%、「少し知っている」が 49.2%、「知らない」が 43.9%となっている。「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』は 55.3%と半数以上を占めている。

性別でみると、『知っている』は男性が 59.6%、女性が 49.3%と、男性が女性を上回り、男女間で差がみられる。

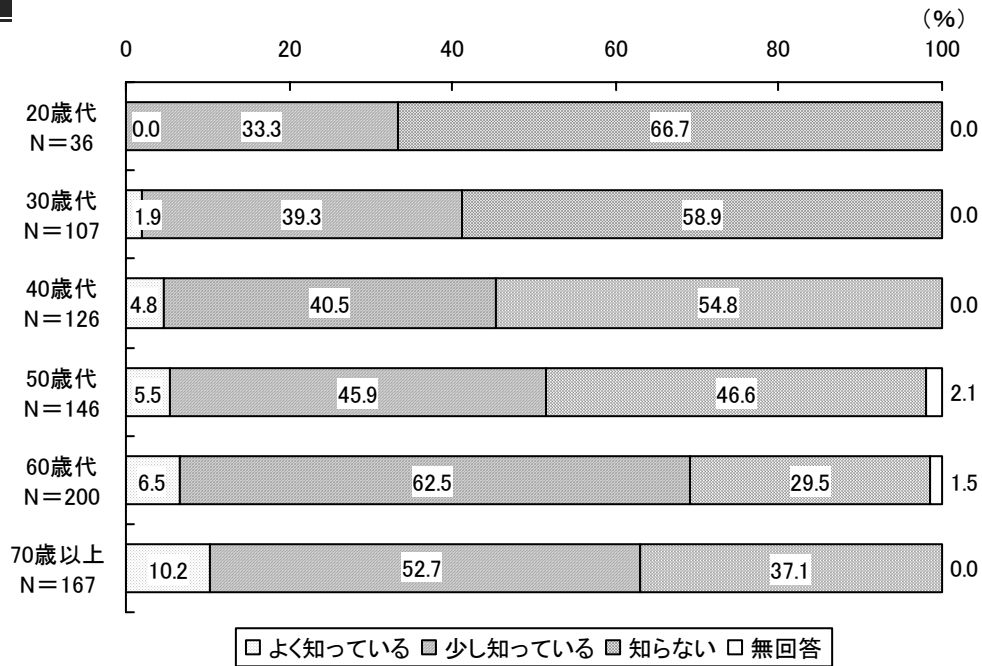
年代別でみると、『知っている』は年代が上がるほど割合も高くなる。特に、70 歳以上で「よく知っている」が 10.2%と、唯一 1 割以上の回答となった。

行政区別でみると、『知っている』は天竜区で 67.2%と最も高く、次いで北区で 63.9%とこれら 2 つの区がほかの区と比較して認知度が高い。特に、天竜区で「よく知っている」が 14.6%と唯一 1 割以上の回答であり、ほかの区と比較して高かった。

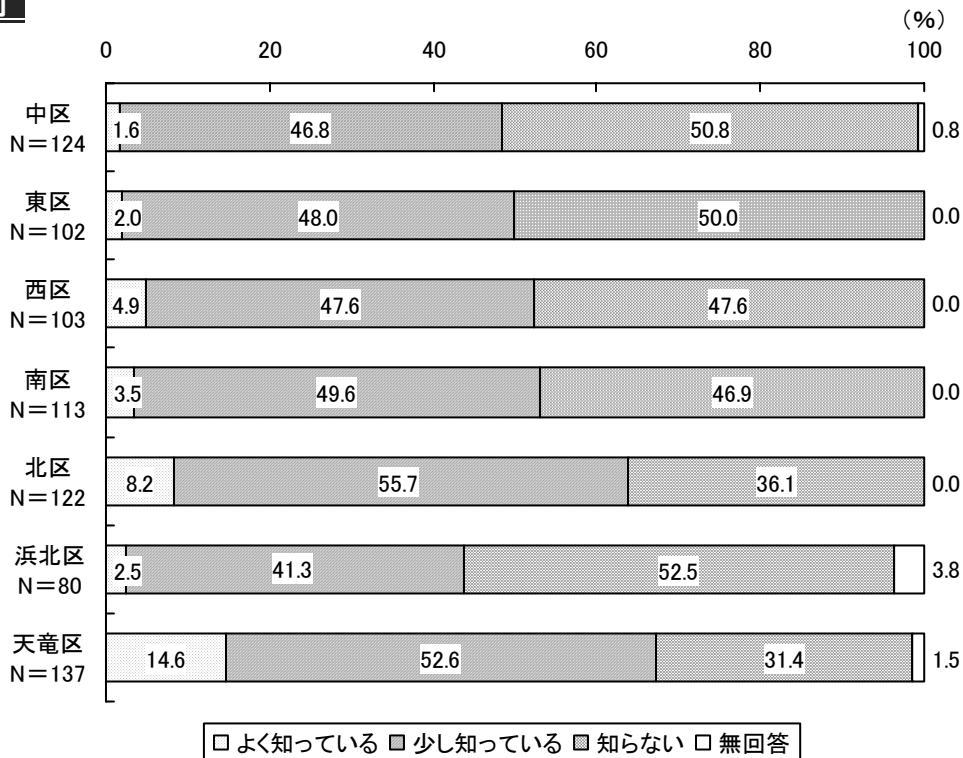
性別



年代別

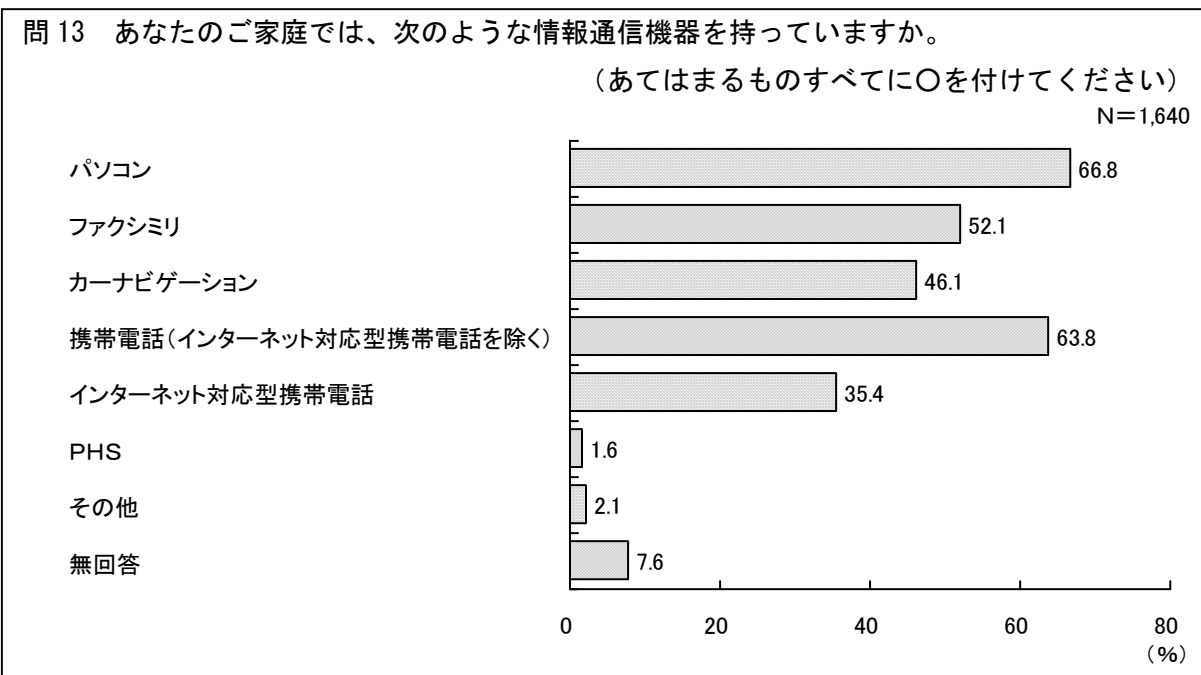


行政区別



6 家庭の情報化について

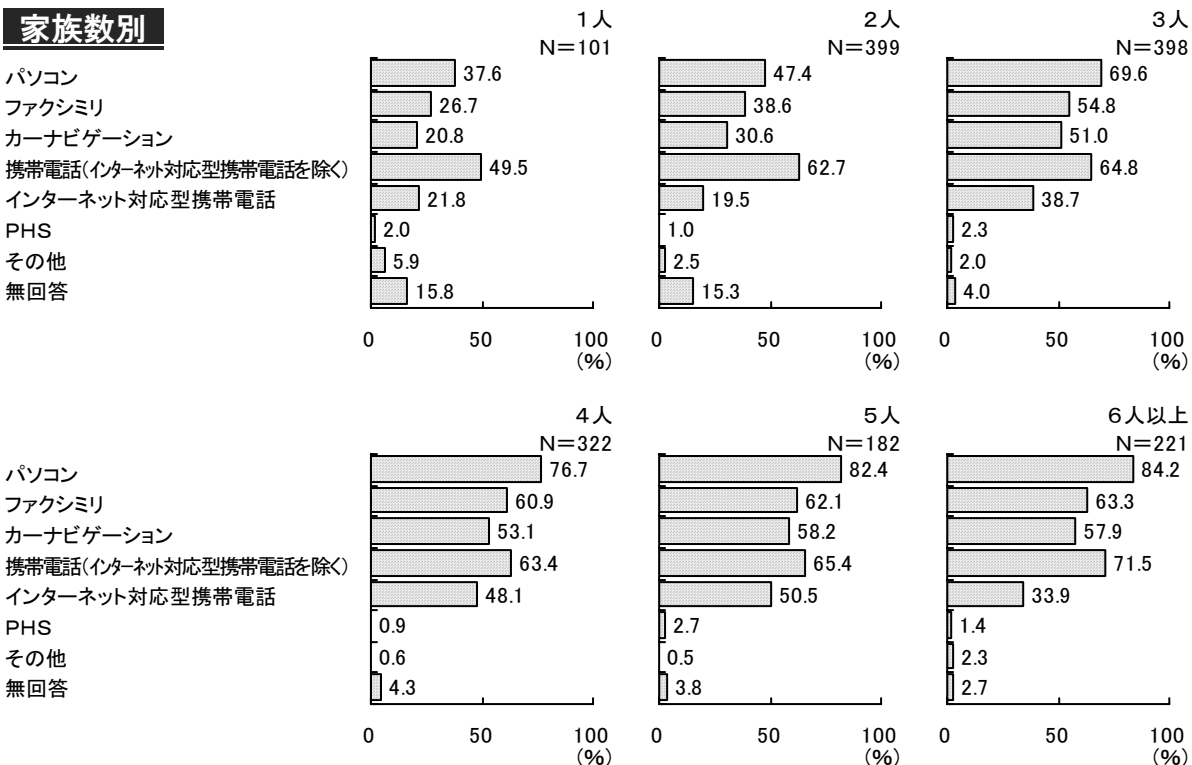
(1) 家庭にある情報通信機器



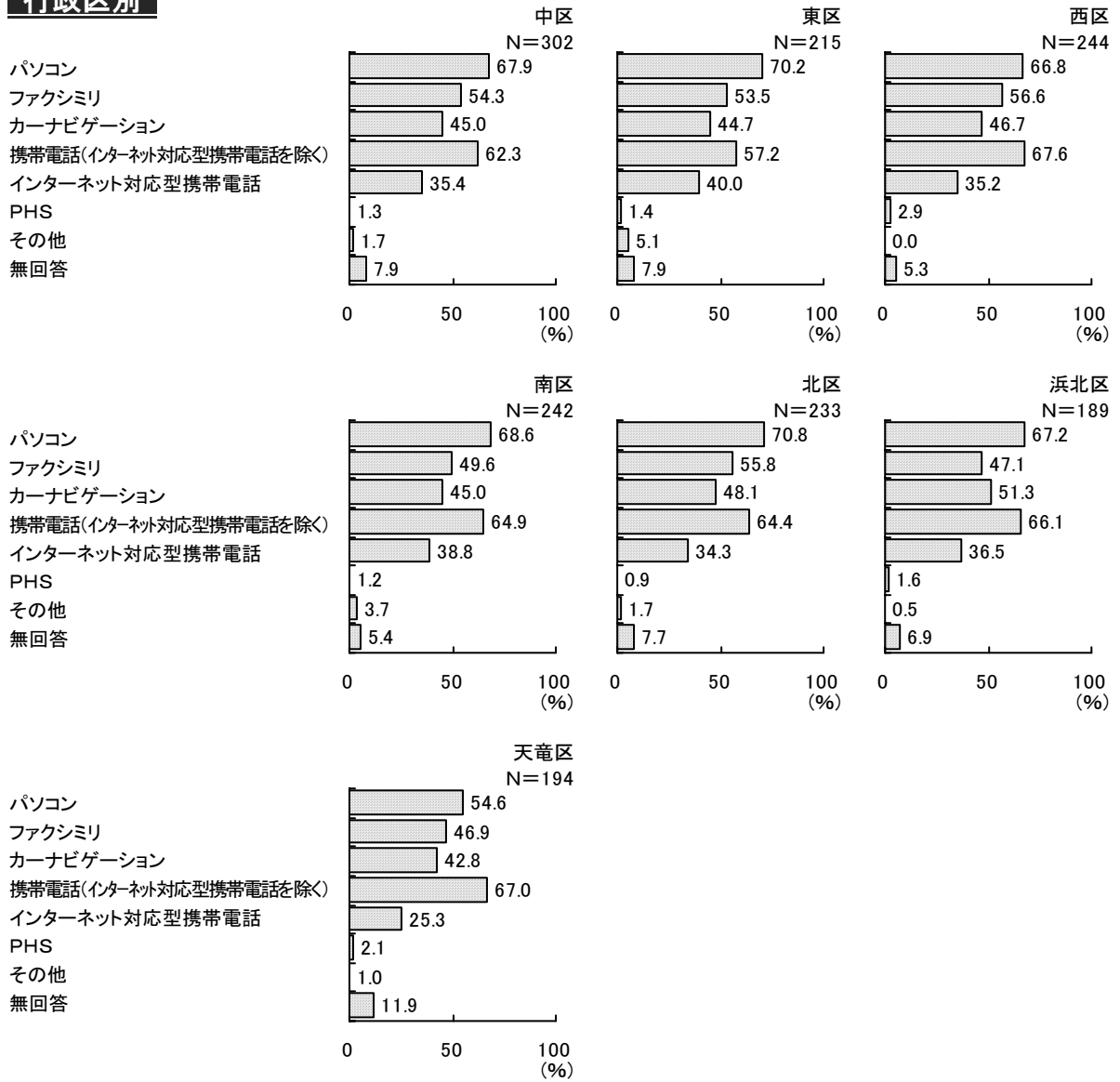
「パソコン」が66.8%、「携帯電話(インターネット対応型携帯電話を除く)」が63.8%、「ファクシミリ」が52.1%とこれらが5割以上の保有率となっており、これらの普及率の高さがうかがえる。

家族数別でみると、「パソコン」「ファクシミリ」および「カーナビゲーション」で、おおむね家族数が多いほど保有の割合も高くなっている。

行政区別では、天竜区で「パソコン」「ファクシミリ」および「カーナビゲーション」の割合が低くなっており、特に「パソコン」の割合が低い。



行政区別

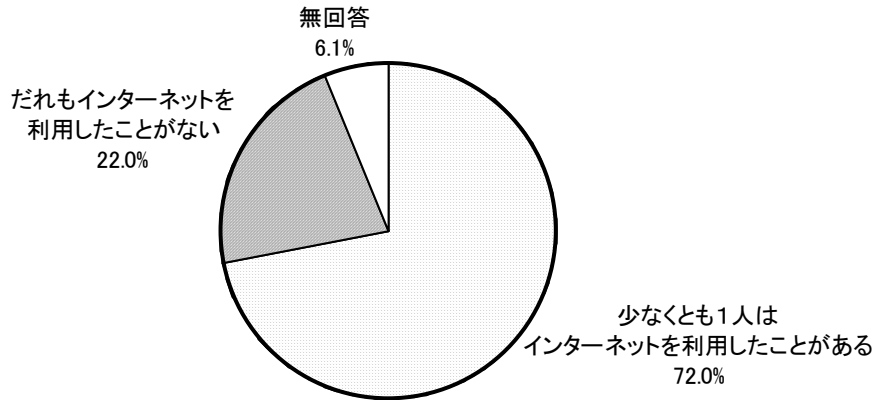


(2) インターネットの利用状況

問 14 あなたやあなたのご家族は、過去 1 年間にインターネット（メール送受信およびインターネット対応型携帯電話を含む）を利用したことがありますか。

（1つだけ○を付けてください）

N=1,640

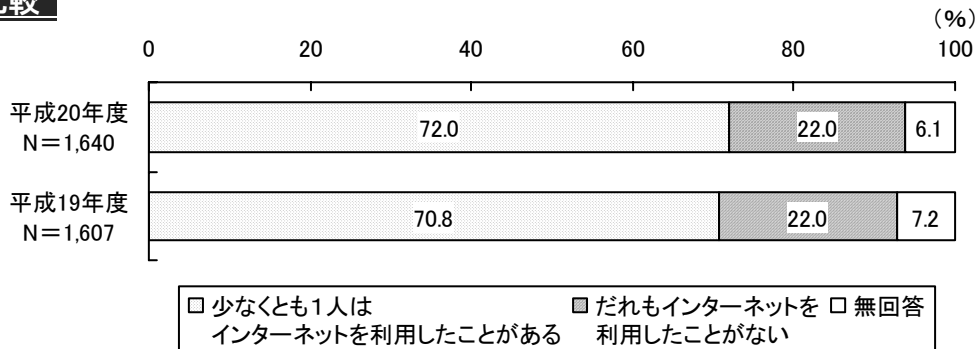


「少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」が 72.0%、「だれもインターネットを利用したことがない」が 22.0%となっている。

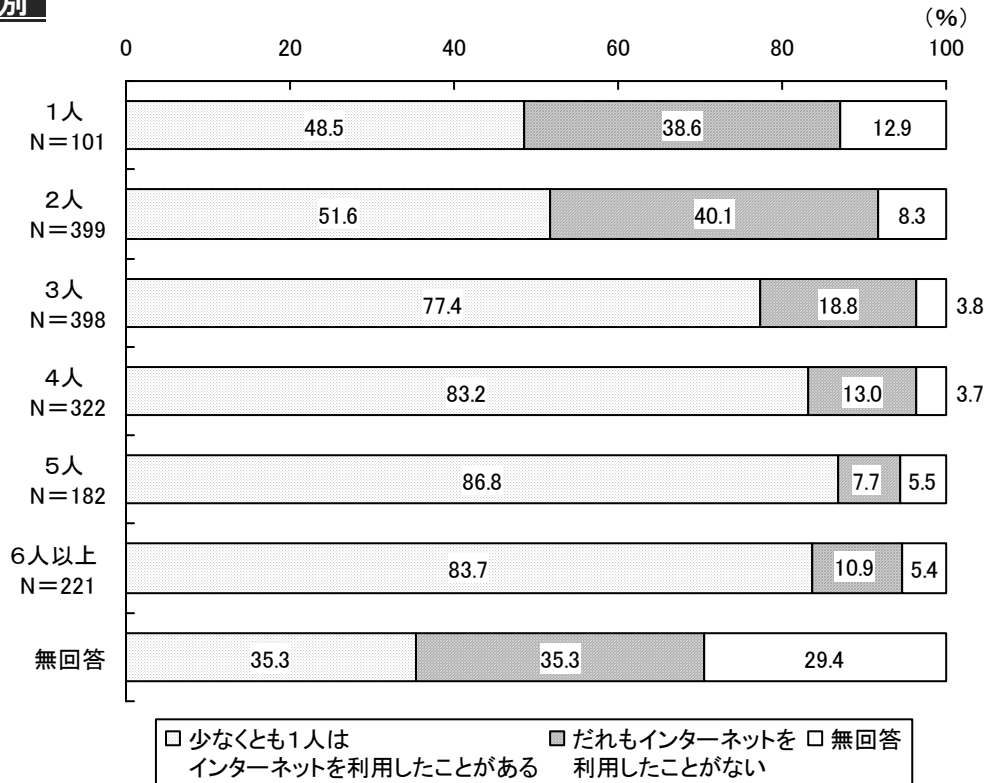
家族数別でみると、おおむね家族数が多いほど利用の割合も高くなる。

行政区別でみると、天童区で「少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」が 55.7%と、ほかの区と比較して低い割合であった。

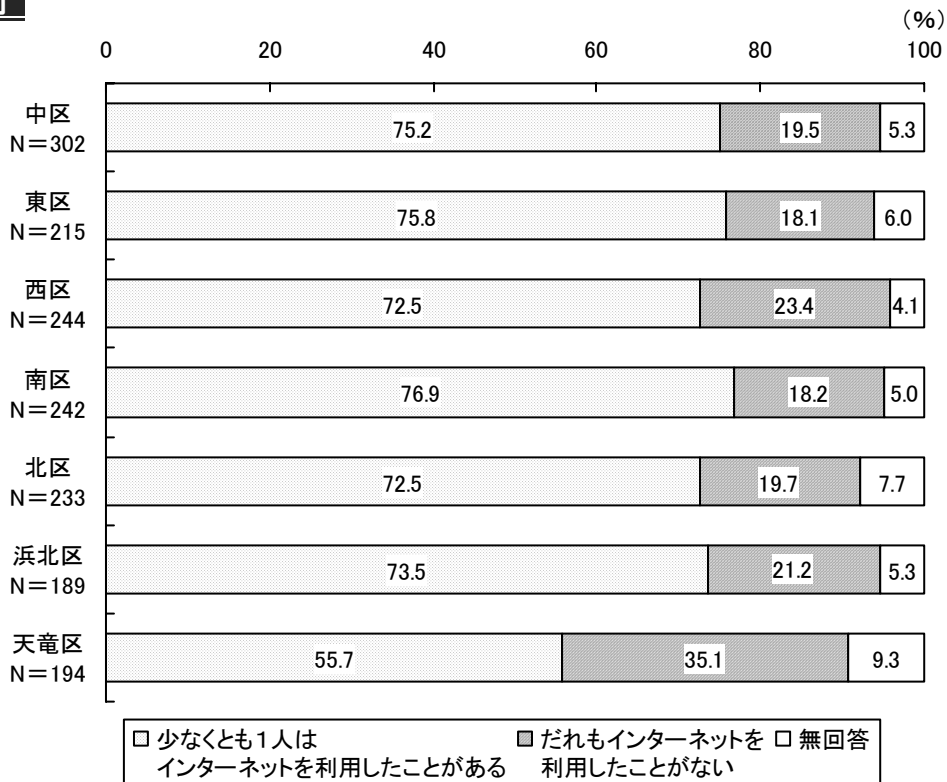
経年比較



家族数別



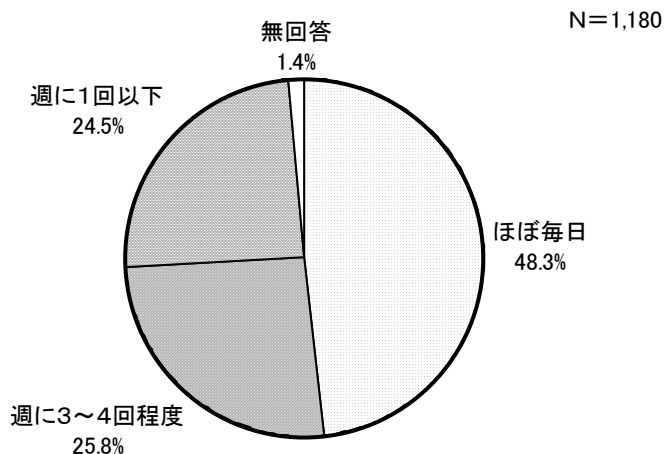
行政区別



(3) インターネットの利用頻度

問 15 問 14 で「1. 少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」とお答えの方に伺います。

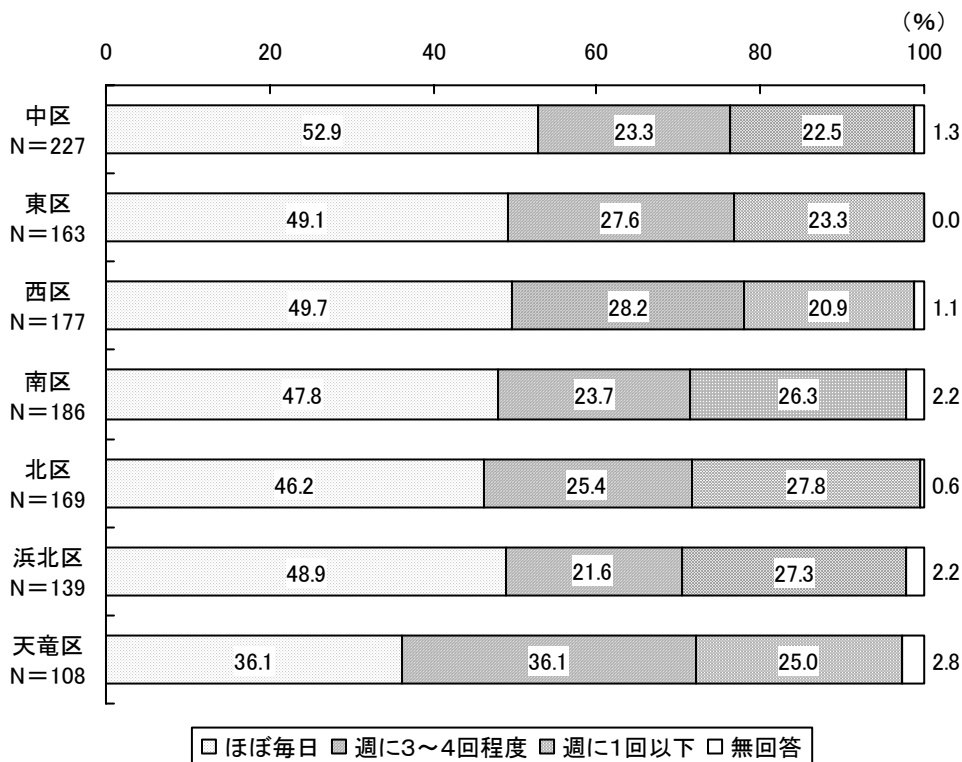
あなたやあなたのご家族は、どのくらいの頻度でインターネットを利用していますか。
(1つだけ○を付けてください)



「ほぼ毎日」が 48.3%、「週に3~4回程度」が 25.8%、「週に1回以下」が 24.5%となっている。

行政区別でみると、天竜区で「ほぼ毎日」が 36.1%とほかの区と比較して低いのに対し、「週に3~4回程度」が 36.1%とほかの区と比較して高くなっている。天竜区以外の区で利用頻度に大きな差はみられない。

行政区

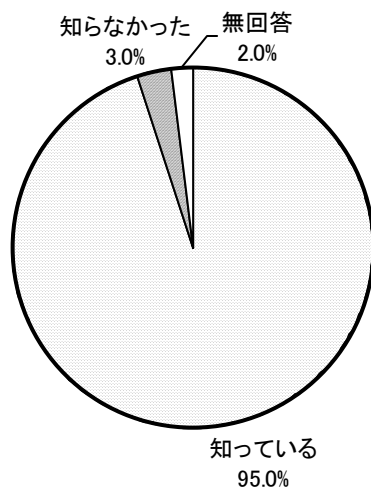


(4) テレビのアナログ放送停止の認知度

問 16 あなたは、テレビのアナログ放送が2011年に停止されることをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

N=1,640

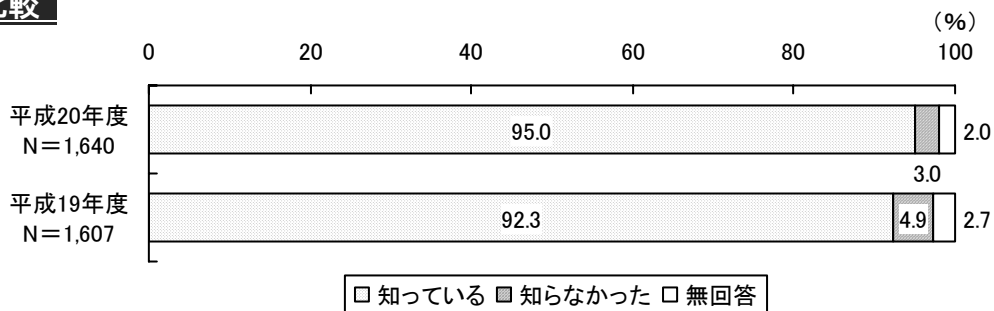


「知っている」が95.0%、「知らなかった」が3.0%となっており、高い割合で認知されていることがうかがえる。

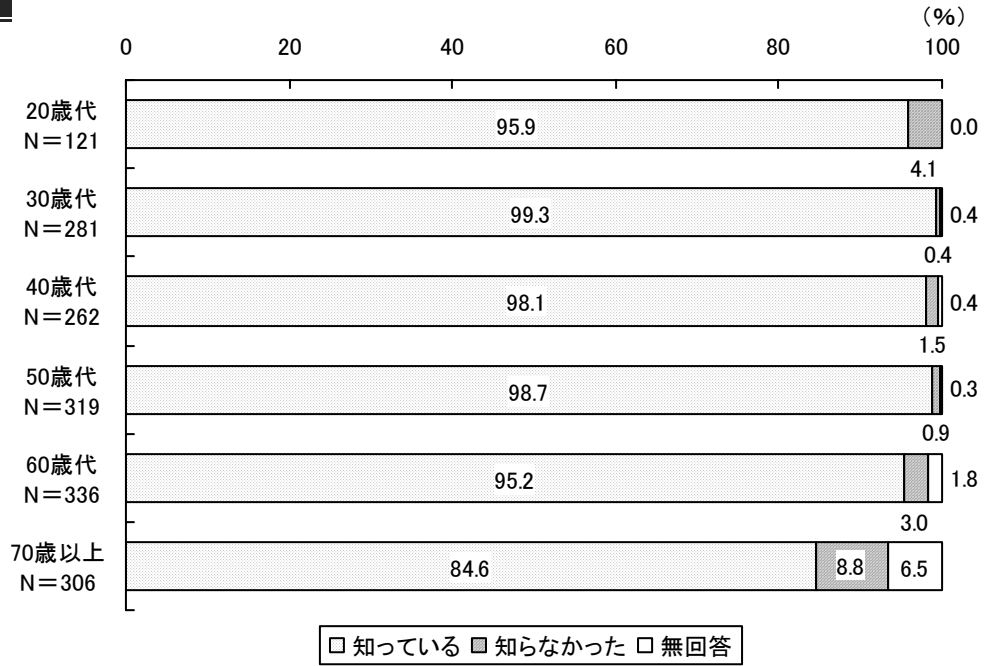
前年度調査と比較すると、「知っている」は前年度の92.3%より2.7ポイント増加している。

年代別でみると、「知っている」が70歳以上で84.6%とほかの年代と比較して低く、そのほかの年代ではおおむね同程度の割合で「知っている」と回答されている。

経年比較



年代別

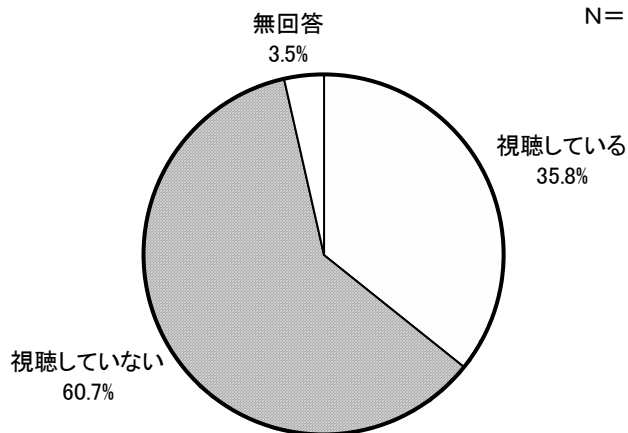


(5) 地上デジタル放送の視聴

問 17 あなたのご家庭では、地上デジタル放送を視聴されていますか。

(1つだけ○を付けてください)

N=1,640



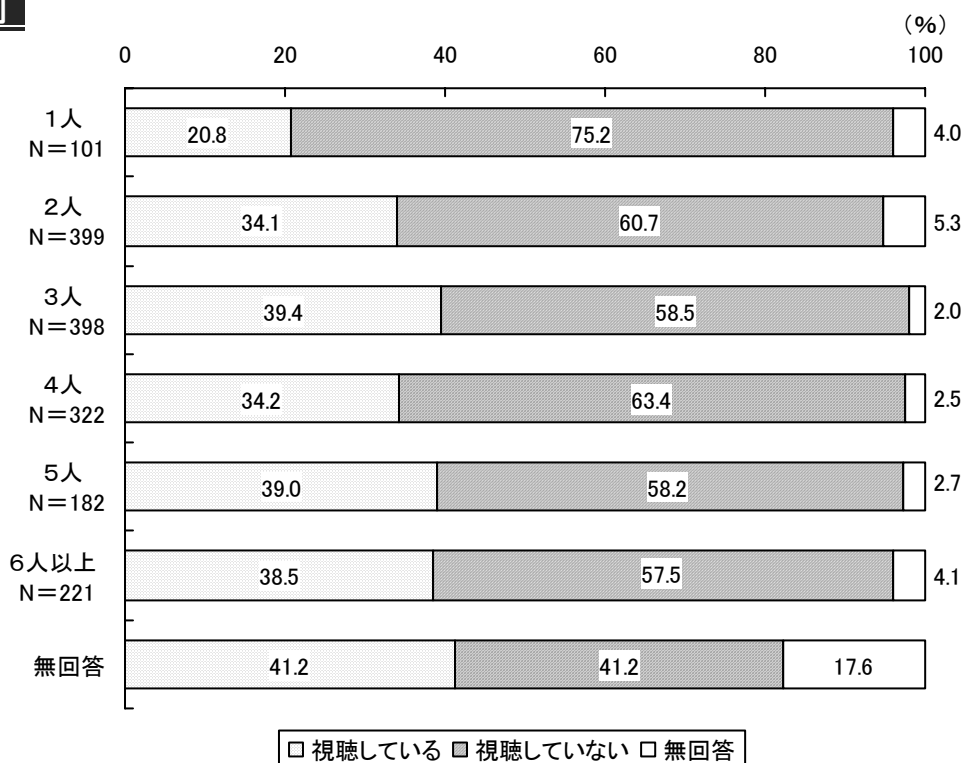
「視聴している」が 35.8%、「視聴していない」が 60.7%となっている。

テレビのアナログ放送が 2011 年に停止されることは、ほとんどが知っているが、実際に地上デジタル放送を視聴しているかについては、「アナログ放送停止の認知度」と比較すると低い数値といえる。2011 年まであと 3 年と迫っており、地上デジタル放送への切り換えを周知していくことは、インフラ整備も合わせて進めていく必要がある。

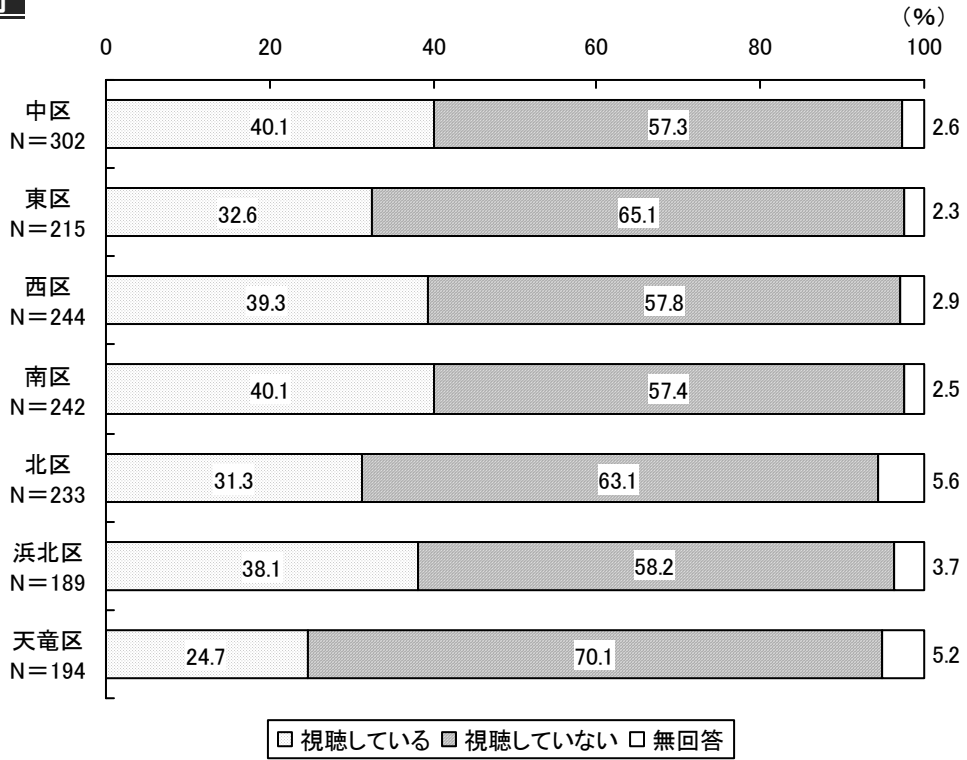
家族数別でみると、1 人で「視聴している」が 20.8%と、ほかの家族数と比較して低い割合となっている。一方、ほかの家族数ではいずれも 3 割以上が「視聴している」と回答している。

行政区別でみると、天竜区で「視聴している」が 24.7%と、ほかの区と比較して低い割合となっている。

家族数別



行政区別

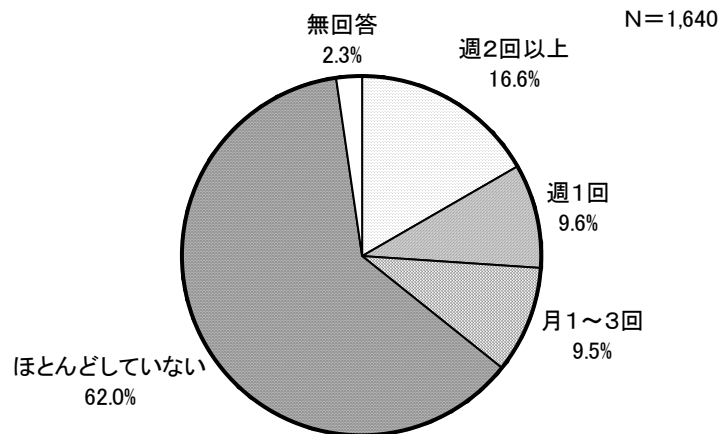


7 運動・スポーツについて

(1) 運動・スポーツの頻度

問 18 あなたは現在、運動やスポーツをしていますか。

目安として1回30分以上の活動でお考えください。(1つだけ○を付けてください)



「週2回以上」が16.6%、「週1回」が9.6%、「月1~3回」が9.5%、「ほとんどしていない」が62.0%となっている。「週2回以上」および「週1回」を合わせた『週1回以上』は26.2%と、全体の4分の1を占めるにとどまっている。

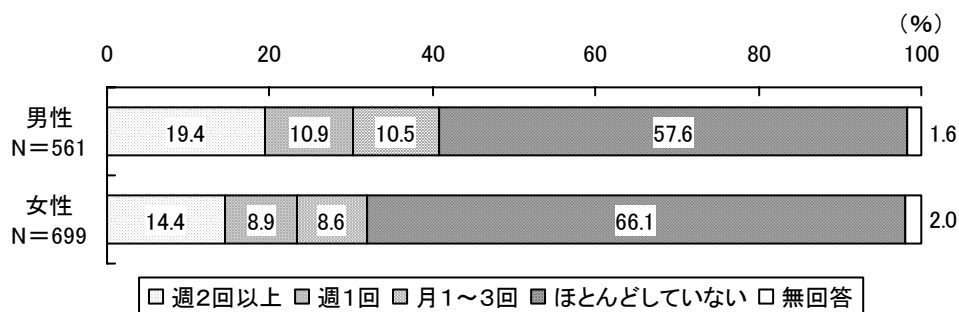
性別でみると、『週1回以上』は男性が30.3%、女性が23.3%となっており、男女間で差がみられる。

年代別でみると、『週1回以上』は60歳代が32.7%と最も多く、また、30歳代から60歳代の間では、年代が上がるほど運動の頻度も多くなっている。一方、「ほとんどしていない」では30歳代の68.7%、40歳代の66.4%がほかの年代と比較して高い割合となっており、運動の頻度が少ないといえる。

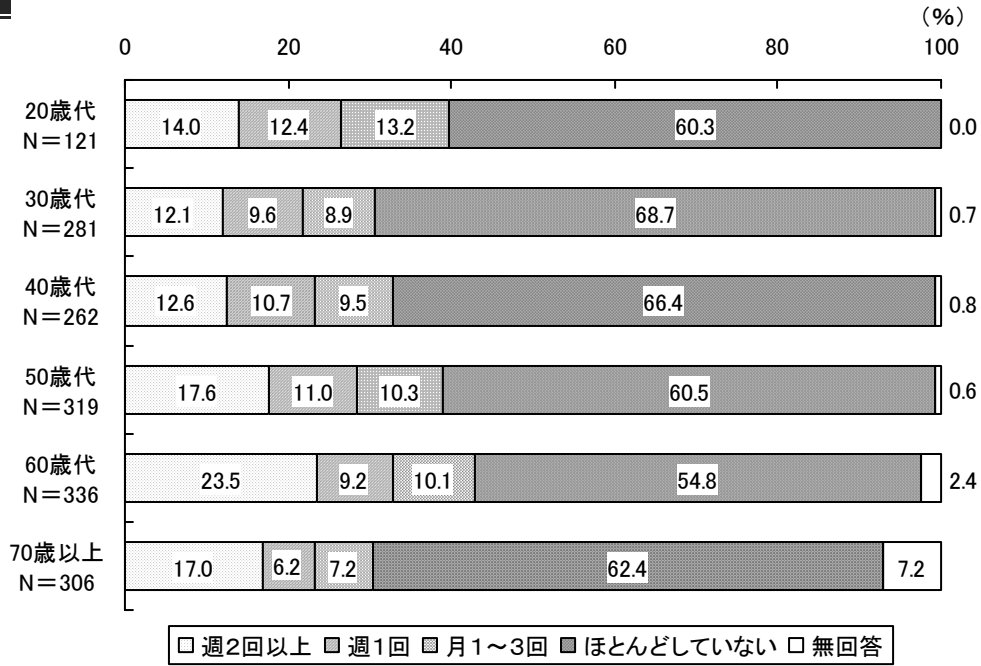
行政区別でみると、「ほとんどしていない」は浜北区が68.3%、天竜区が68.0%でほかの区と比較して高くなっている。

文部科学省策定の「スポーツ振興基本計画」では、成人の週1回以上のスポーツ実施率の目標を50%としており、それと比較すると、今回の結果は決して高い数値とはいえない(浜松市でのスポーツ振興計画は、本年度策定予定)。今後、運動やスポーツをする割合を上げていくには、女性や働き盛りである30~40歳代への働きかけが必要となる。

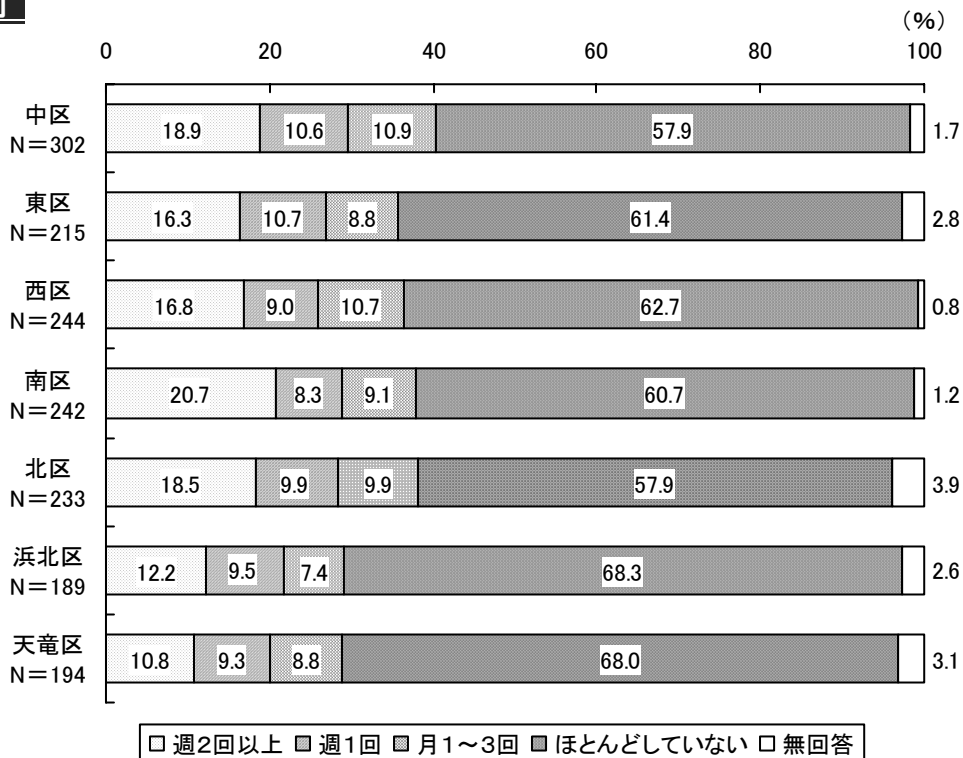
性別



年代別



行政区別

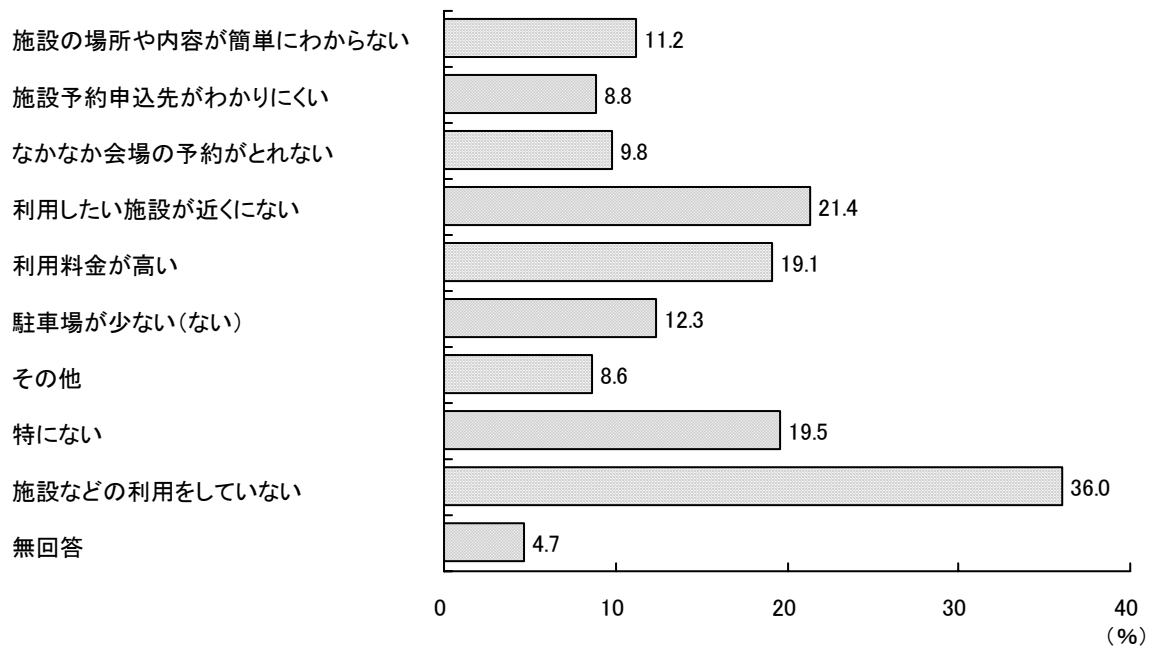


(2) スポーツ活動施設の改善点

問 19 問 18 で「1. 週 2 回以上」「2. 週 1 回」とお答えの方に伺います。

スポーツの活動をしていて、施設の利用で困ったことや改善してほしいことはありますか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

N=430

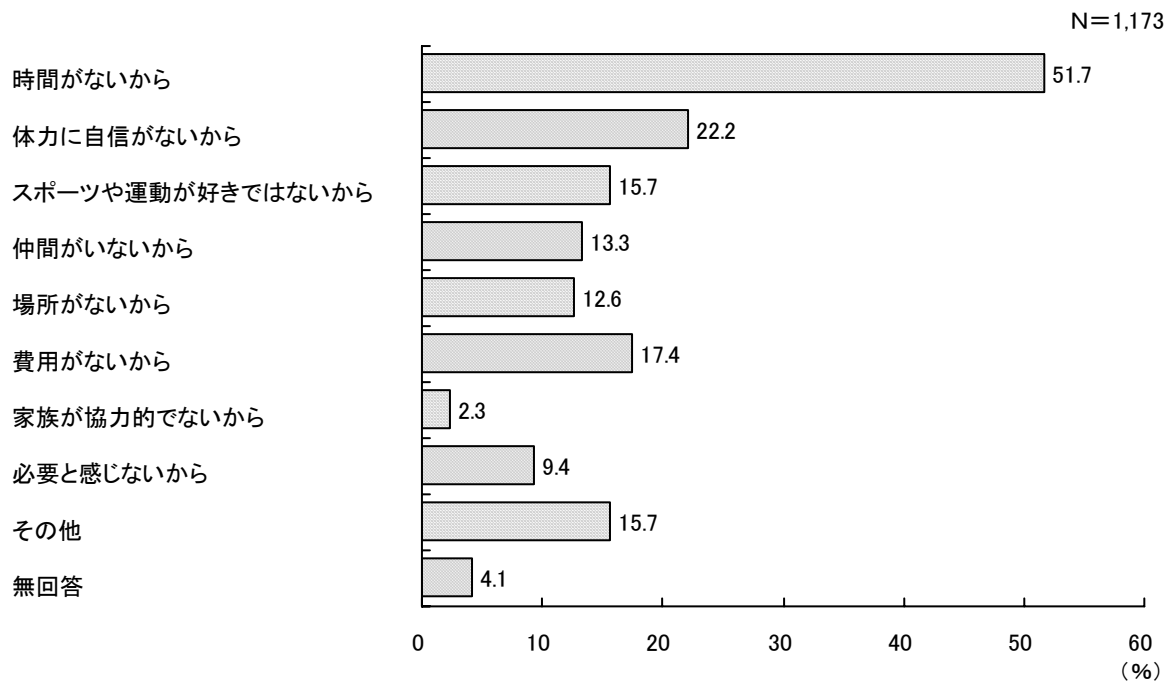


「利用したい施設が近くにない」が 21.4%と最も多く、次いで「利用料金が低い」が 19.1%、「駐車場が少ない(ない)」が 12.3%、「施設の場所や内容が簡単にわからない」が 11.2%とこれらが 1 割以上の回答を得ている。一方、「施設などの利用をしていない」との回答は 36.0%となっていることから、週 1 回以上の頻度で運動をしている人のうち 3 分の 1 が施設などを利用しないで活動しているといえる。

(3) 運動・スポーツをしない理由

問 20 問 18 で「3. 月 1～3 回」「4. ほとんどしていない」とお答えの方に伺います。
 現在、運動やスポーツをあまりしていない理由は次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

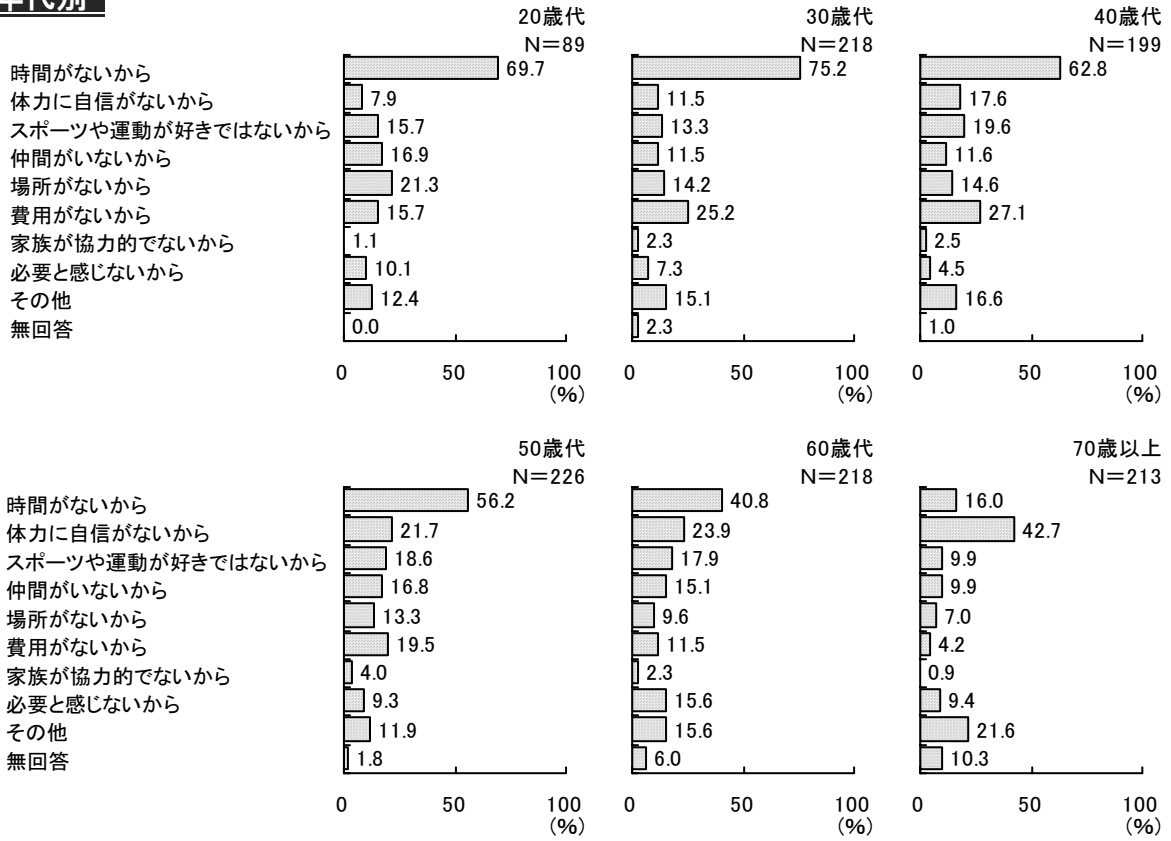


「時間がないから」が 51.7% と最も多く、半数以上を占めている。次いで「体力に自信がないから」が 22.2%、「費用がないから」が 17.4%、「スポーツや運動が好きではないから」が 15.7% となっている。一方、「家族が協力的でないから」への回答が 2.3% と最も少ない割合となっている。

年代別でみると、「時間がないから」は 30 歳代が 75.2% と最も多く、これ以降、年代が上がるほど割合は低くなる傾向にあり、70 歳以上では 16.0% となっている。一方、「体力に自信がないから」は年代が上がるほど割合が高い。また、「費用がないから」は 30 歳代が 25.2%、40 歳代が 27.1% とこれらの年代で高く、70 歳以上では 4.2% と最も低くなっている。

運動やスポーツをあまりしていない割合が高い 30～40 歳代の理由は「時間がないから」が大きい。これは仕事や家事育児に追われているためと推測され、このような年代こそ運動やスポーツが必要といえる。浜松市の施策としても、子育てや産業分野との連携も図りながら、特に、30～40 歳代の運動不足解消を考えていく必要があるといえる。

年代別

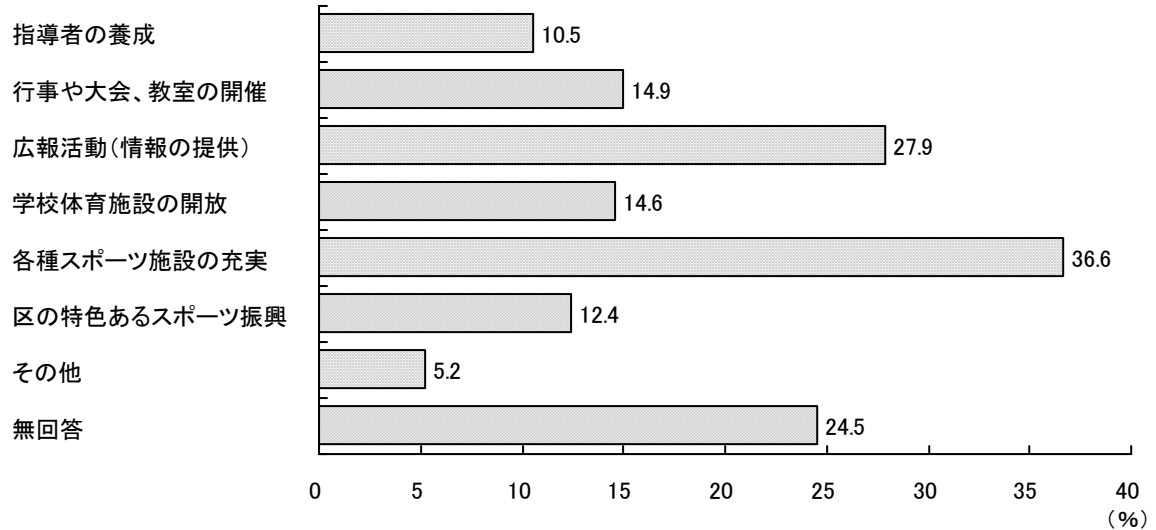


(4) 実行してほしいスポーツ事業

問 21 今後、実行してほしいスポーツ事業は何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

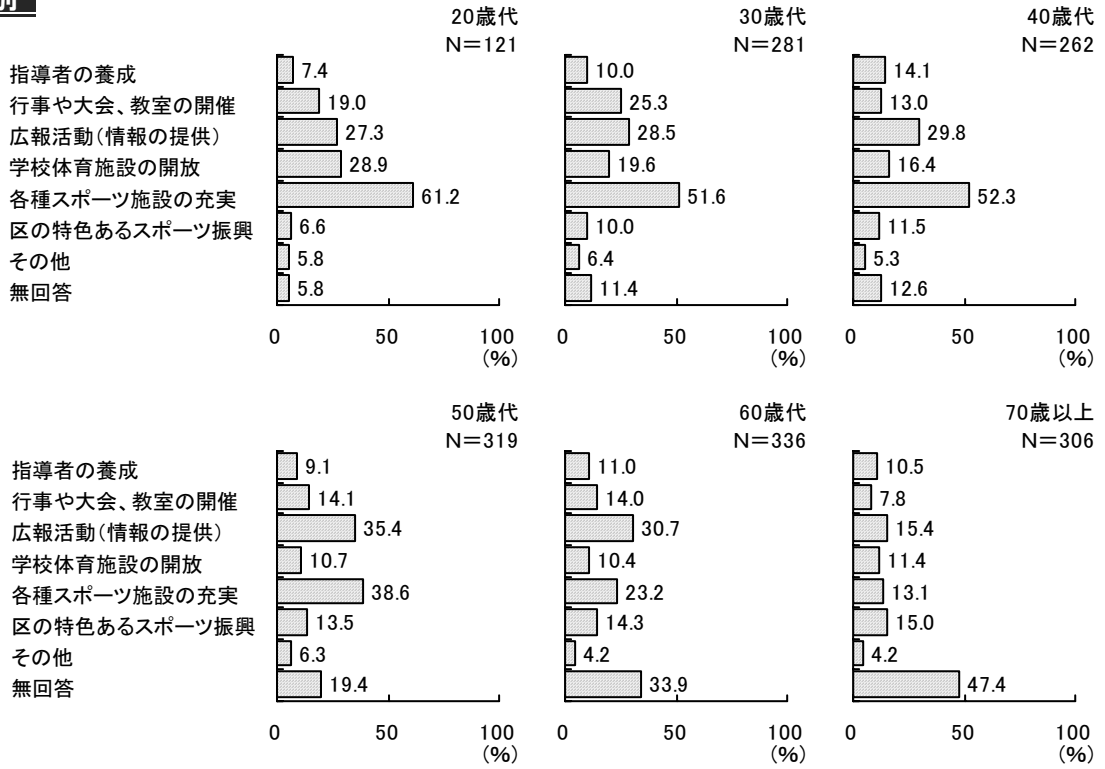
N=1,640



「各種スポーツ施設の充実」が 36.6%と最も多く、次いで「広報活動(情報の提供)」が 27.9%とこれらが2割以上の回答を得ている。また、「行事や大会、教室の開催」が 14.9%、「学校体育施設の開放」が 14.6%、「区の特徴あるスポーツ振興」が 12.4%、「指導者の養成」が 10.5%といずれの項目も1割以上の回答となっている。

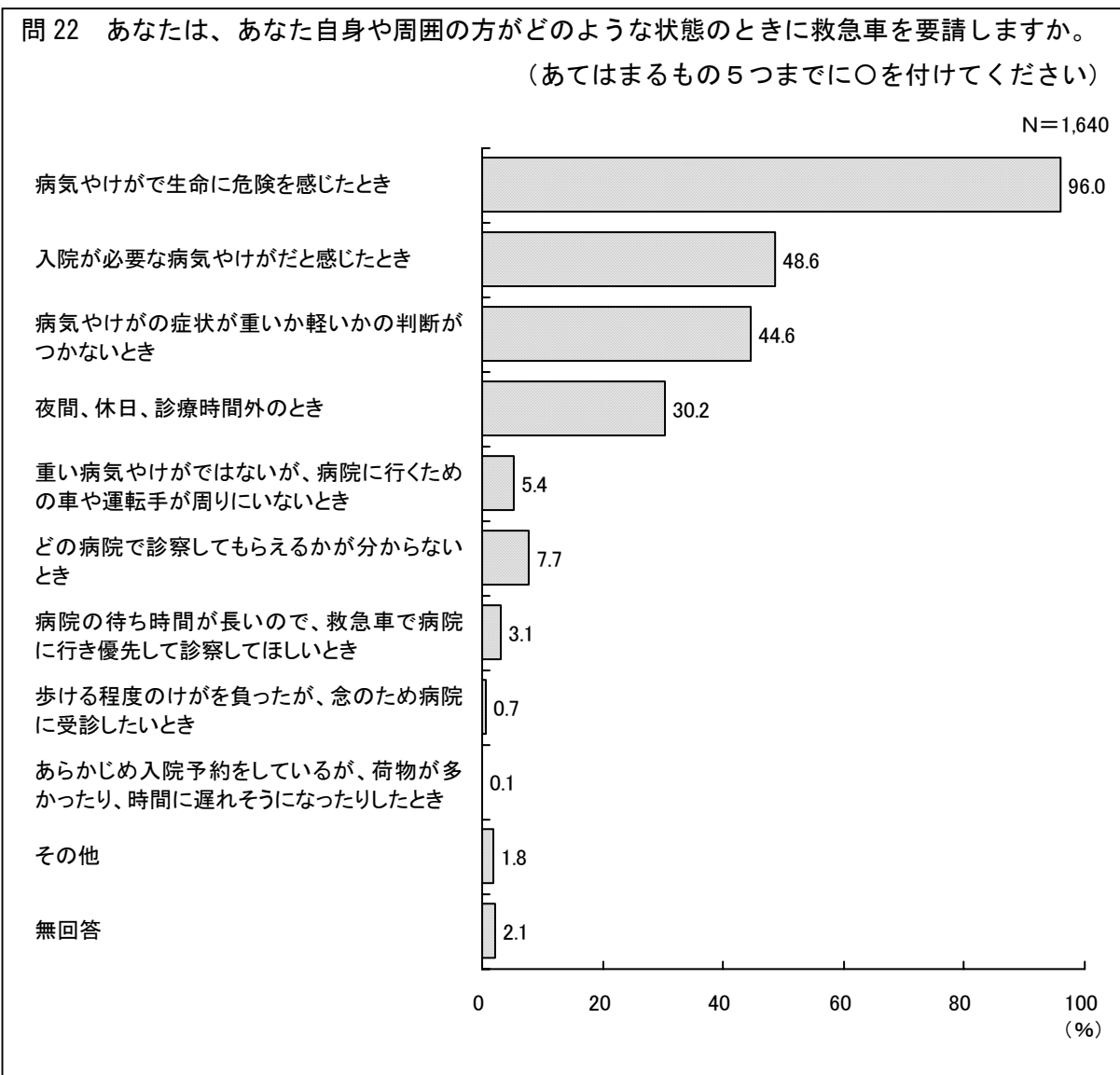
年代別でみると、「行事や大会、教室の開催」では30歳代が25.3%とほかの年代と比較して高く、70歳以上の3倍以上の回答を得た。「広報活動(情報の提供)」では50歳代が35.4%と最も高く、70歳以上が15.4%と最も低くなっている。「学校体育施設の開放」では20歳代が28.9%と高い。「各種スポーツ施設の充実」では、おおむね年代が下がるほど割合が高くなっている。

年代別



8 救急車の適正利用について

(1) 救急車の適正利用



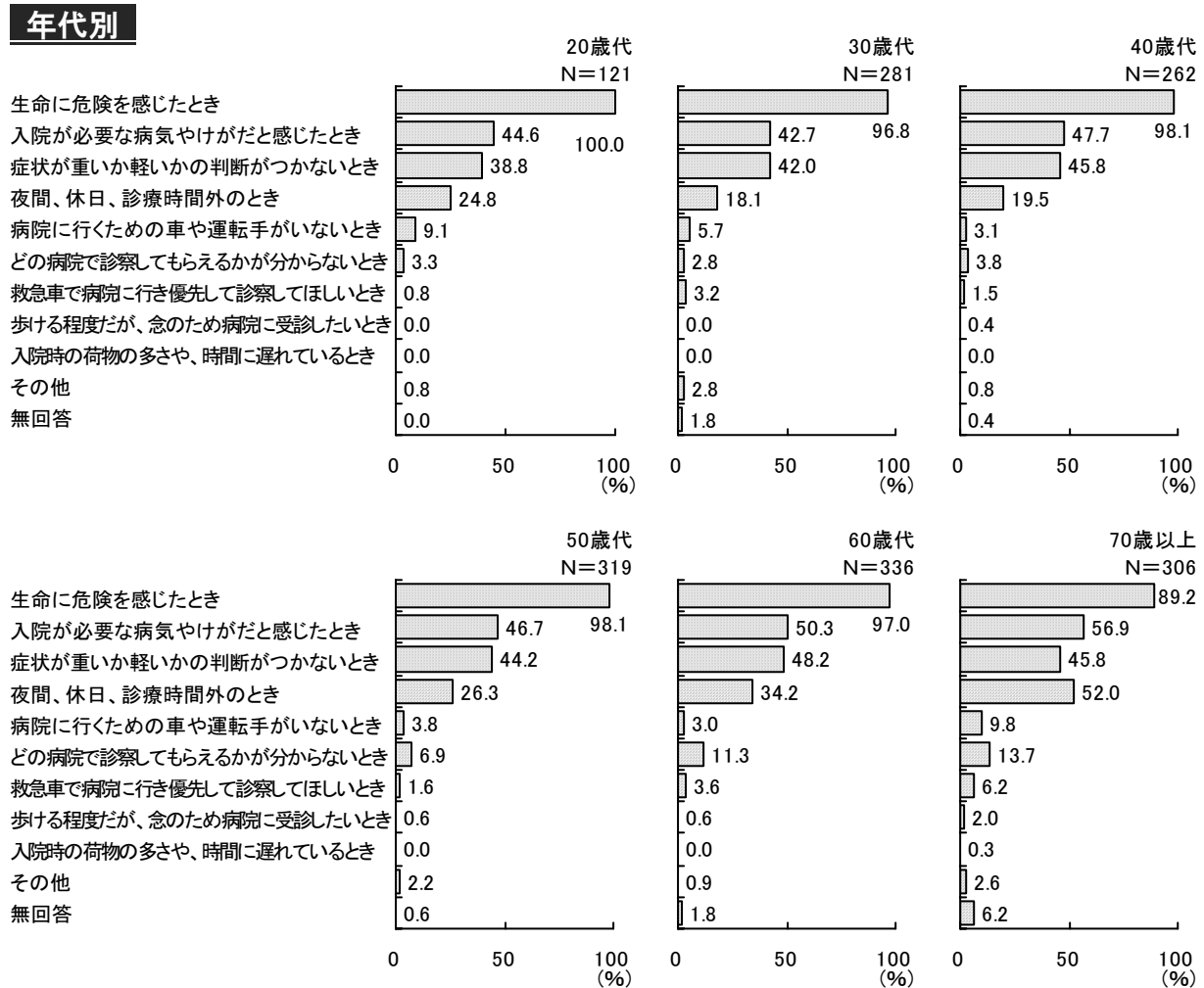
「病气やけがで生命に危険を感じたとき」が96.0%と最も多く、ほとんどの回答者から回答を得ている。次いで「入院が必要な病气やけがだと感じたとき」が48.6%、「病气やけがの症状が重いか軽いかの判断がつかないとき」が44.6%、「夜間、休日、診療時間外のとき」が30.2%とこれらが3割以上の回答となっている。

年代別でみると、70歳以上で「入院が必要な病气やけがだと感じたとき」が56.9%とほかの年代と比較して高く、60歳代、70歳以上で「どの病院で診察してもらえるかが分からないとき」が高くなっている。「夜間、休日、診療時間外のとき」では、70歳以上で割合が高い一方、30歳代、40歳代の割合は低い。

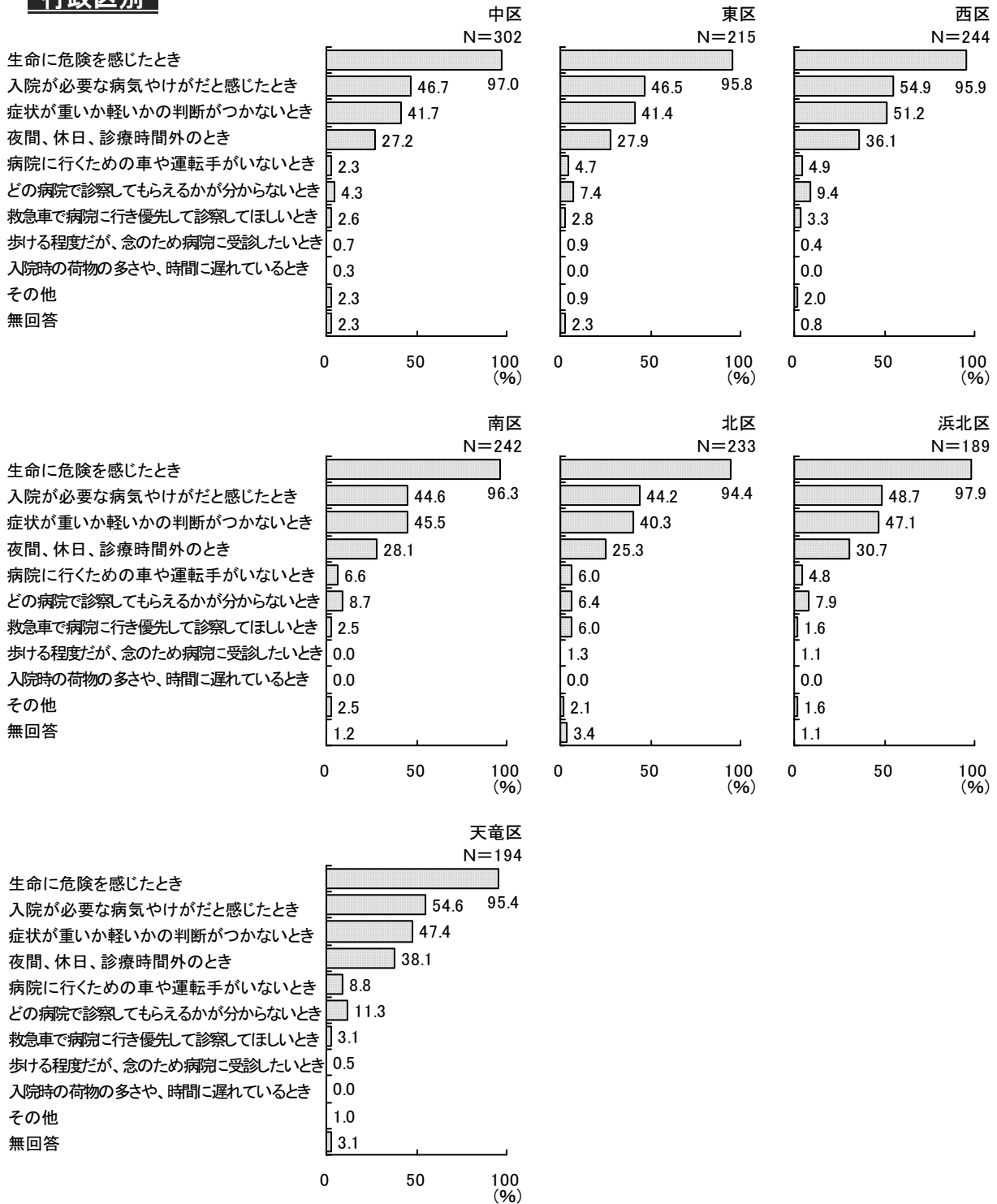
行政区別では、西区、天竜区でほかの区と比べて割合が高くなっている項目が目立つ。「入院が必要な病气やけがだと感じたとき」では西区の54.9%および天竜区の54.6%が、「病气やけがの症状が重いか軽いかの判断がつかないとき」では西区の51.2%が、「夜間、休日、診療時間外のとき」では天竜区の38.1%および西区の36.1%が高くなっている。

救急車の利用が必要性に迫られているか否かの判断は難しい点もあるが、「夜間、休日、診療時

間外である」「病院に行くための車や運転手がない」「どの病院で診察してもらえるか分からない」などは、保健福祉分野との連携も図りながら対策を講じることができれば、救急車の利用意識も変化していくといえる。



行政区別

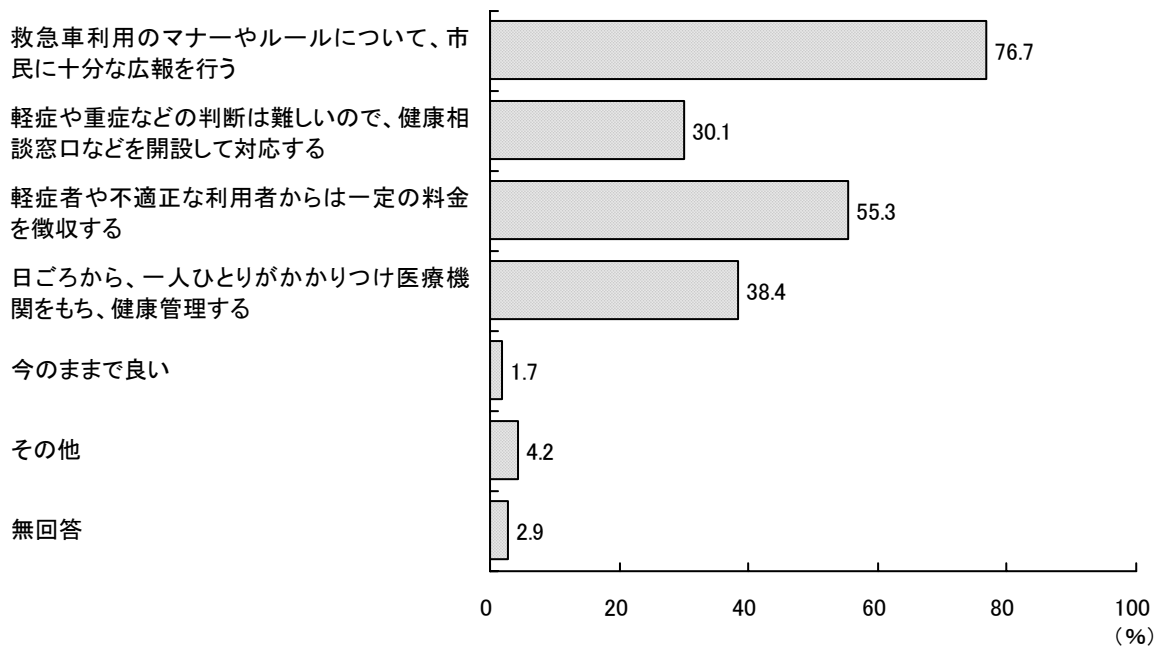


(2) 救急車の適正利用のために必要な取り組み

問 23 浜松市の救急件数は、この10年間で1.6倍に増加し、さらには搬送者数の内訳で軽症者の占める割合が10年前までは3割程度でしたが、現在では約6割と右肩上がりになっています。これらを減らし、本当に緊急を要するときに救急車が不足したり、遅れたりすることを防ぐためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

N=1,640

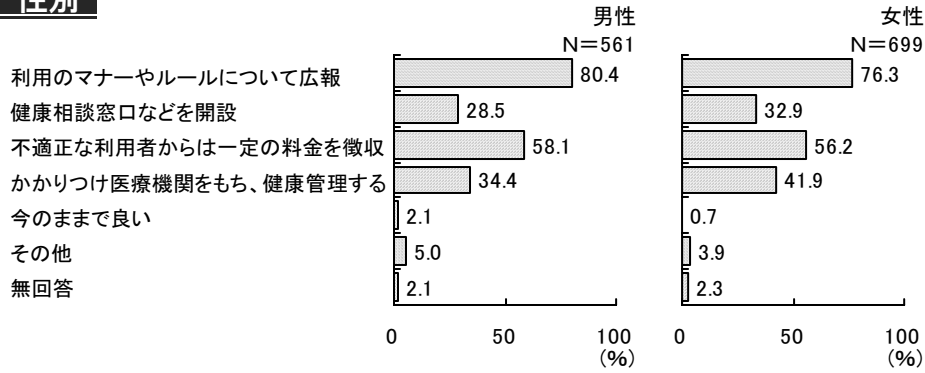


「救急車利用のマナーやルールについて、市民に十分な広報を行う」が76.7%と最も多く、次いで「軽症者や不適正な利用者からは一定の料金を徴収する」が55.3%、「日ごろから、一人ひとりがかかりつけ医療機関をもち、健康管理する」が38.4%、「軽症や重症などの判断は難しいので、健康相談窓口などを開設して対応する」が30.1%といずれの取り組みでも3割以上の回答が得られた。

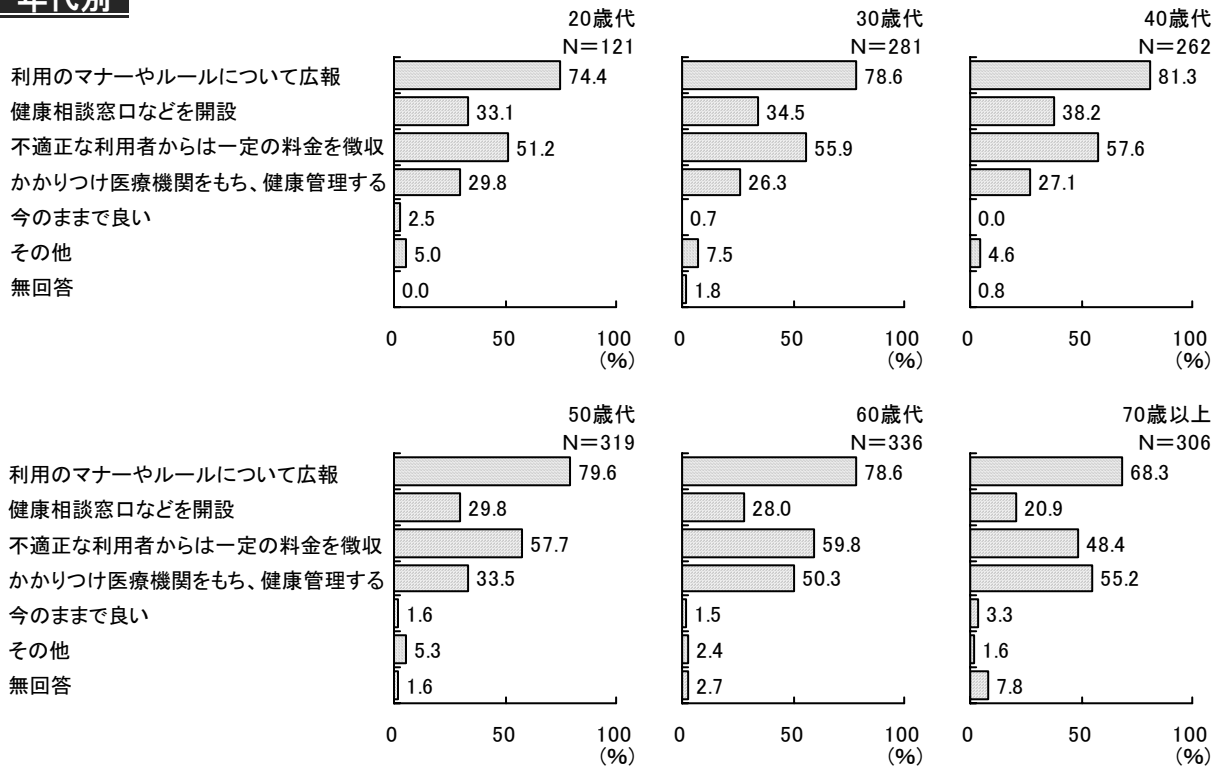
性別でみると、「救急車利用のマナーやルールについて、市民に十分な広報を行う」および「軽症者や不適正な利用者からは一定の料金を徴収する」では男性(80.4%、58.1%)の方が、「軽症や重症などの判断は難しいので、健康相談窓口などを開設して対応する。」および「日ごろから、一人ひとりがかかりつけ医療機関をもち、健康管理する。」では女性(32.9%、41.9%)の方が、割合が高くなっている。

年代別では、「救急車利用のマナーやルールについて、市民に十分な広報を行う。」「軽症や重症などの判断は難しいので、健康相談窓口などを開設して対応する。」および「軽症者や不適正な利用者からは一定の料金を徴収する。」で70歳以上の割合が低くなっている。一方で、「日ごろから、一人ひとりがかかりつけ医療機関をもち、健康管理する。」は70歳以上が55.2%、60歳代が50.3%で高い結果となった。

性別



年代別

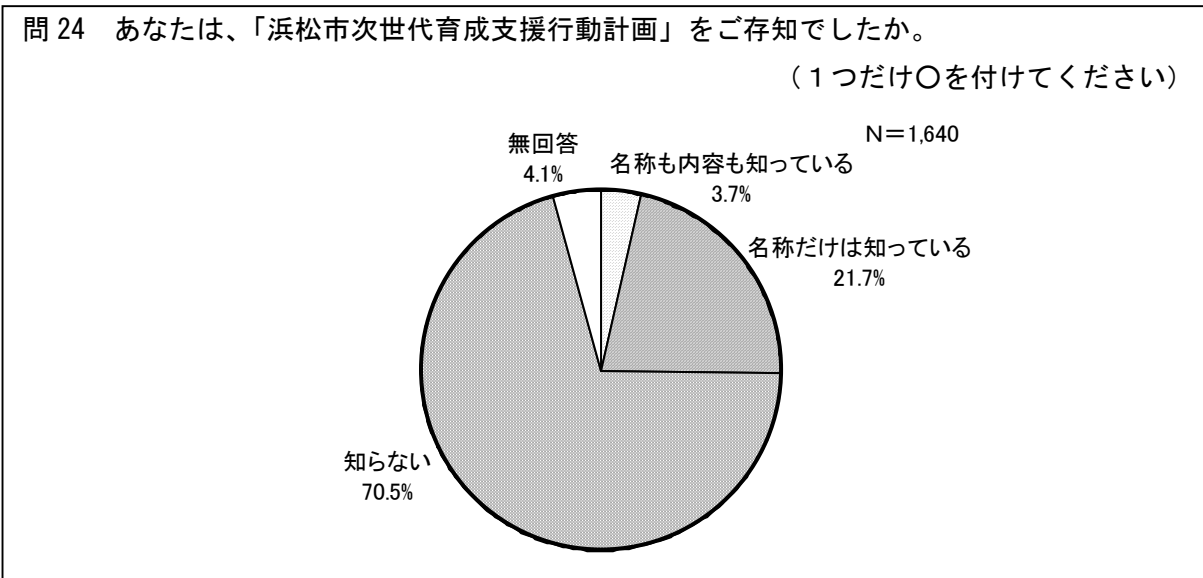


9 子育て支援について

(1) 「浜松市次世代育成支援行動計画」の認知度

問 24 あなたは、「浜松市次世代育成支援行動計画」をご存知でしたか。

(1つだけ○を付けてください)



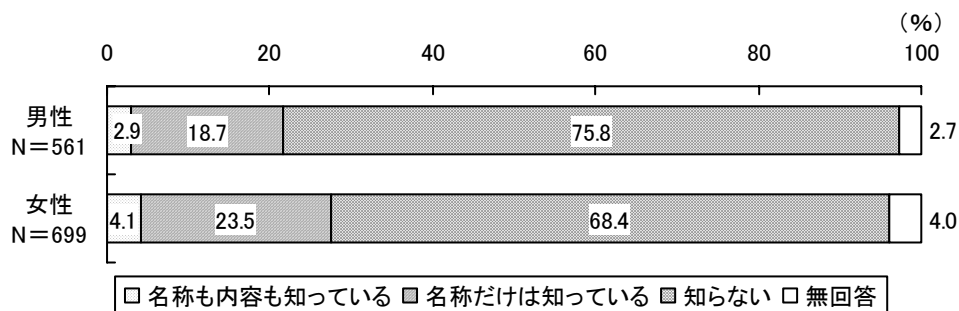
「名称も内容も知っている」が 3.7%、「名称だけは知っている」が 21.7%、「知らない」が 70.5%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は 25.4%と、全体の 4分の1 を占めた。

性別で見ると、『知っている』は男性が 21.6%、女性が 27.6%と女性の方が高くなっている。

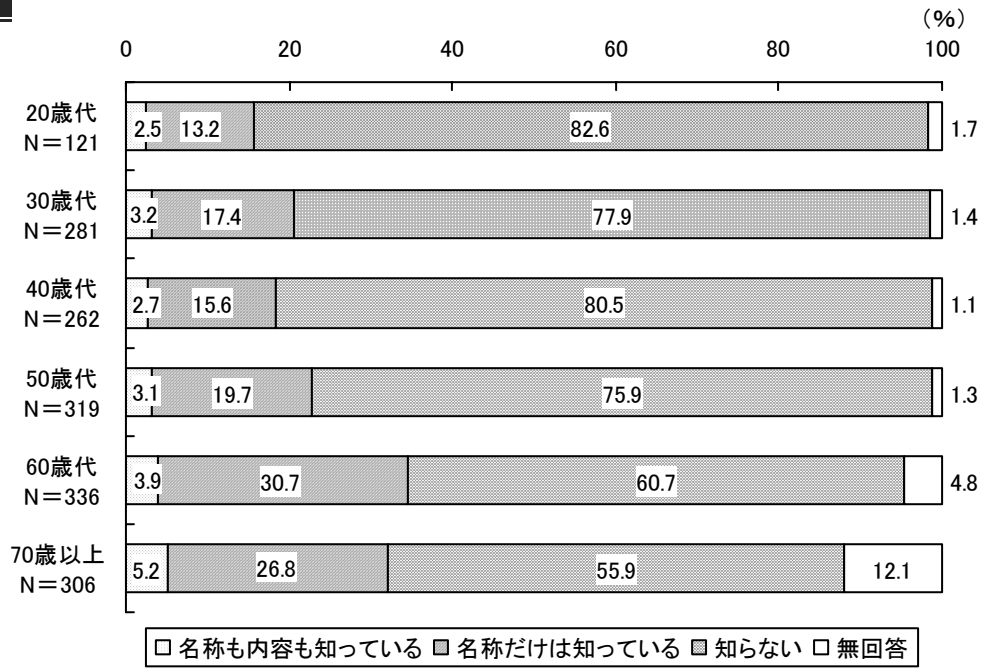
年代別でみると、『知っている』は 60 歳代が 34.6%、70 歳以上が 32.0%と、これらの年代で高く、30 歳代では 20.6%、40 歳代では 18.3%、20 歳代では 15.7%と低くなっている。

「浜松市次世代育成支援行動計画」については、特に子育てに関わっている 20～40 歳代で認知度を上げていくことが必要といえる。

性別



年代別

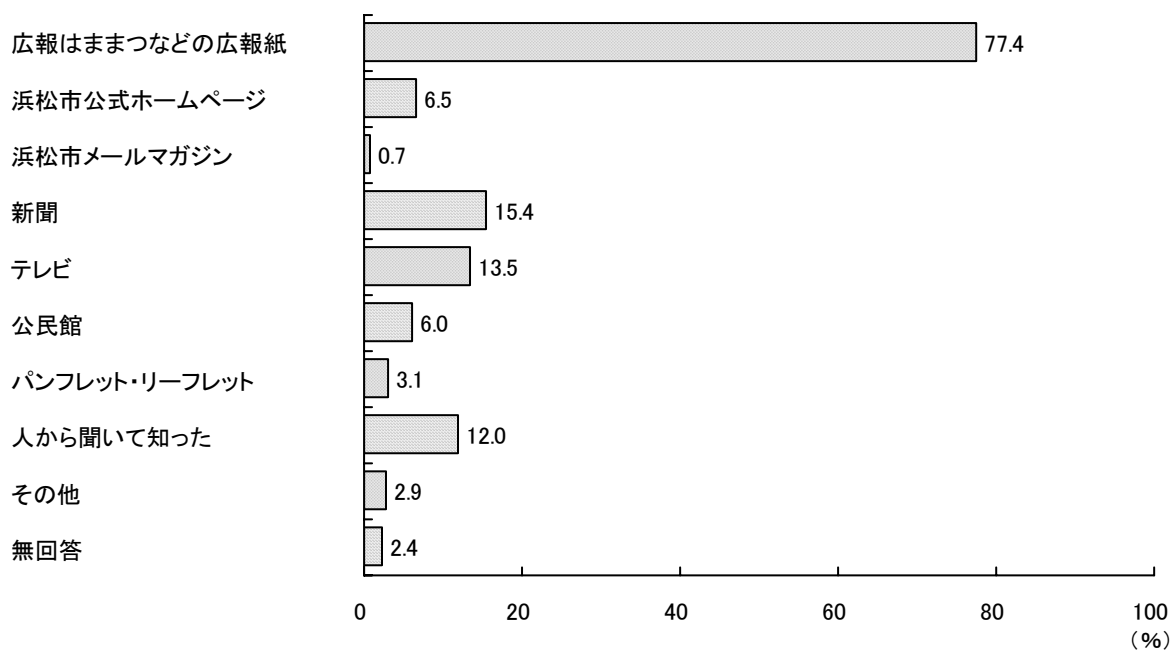


(2)「浜松市次世代育成支援行動計画」の情報源

問 25 問 24 で「1. 名称も内容も知っている」「2. 名称だけは知っている」とお答えの方に伺います。

あなたは、何で知りましたか。 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

N=416



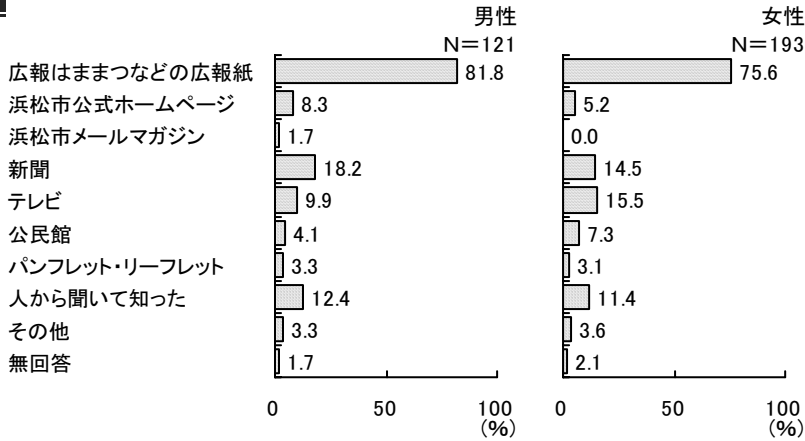
「広報はままつなどの広報紙」が 77.4%と最も多く 7 割以上の回答を得ている。次いで「新聞」が 15.4%、「テレビ」が 13.5%、「人から聞いて知った」が 12.0%とこれらは 1 割以上の回答となっている。これらのことから、広報紙による情報発信がほかの媒体と比べて効果が大きいことがわかる。

性別でみると、「広報はままつなどの広報紙」では男性が 81.8%、女性が 75.6%と男性が女性を上回り、「テレビ」では男性が 9.9%、女性が 15.5%と女性が男性を上回っているなど、男女で情報源に若干の違いがみられた。

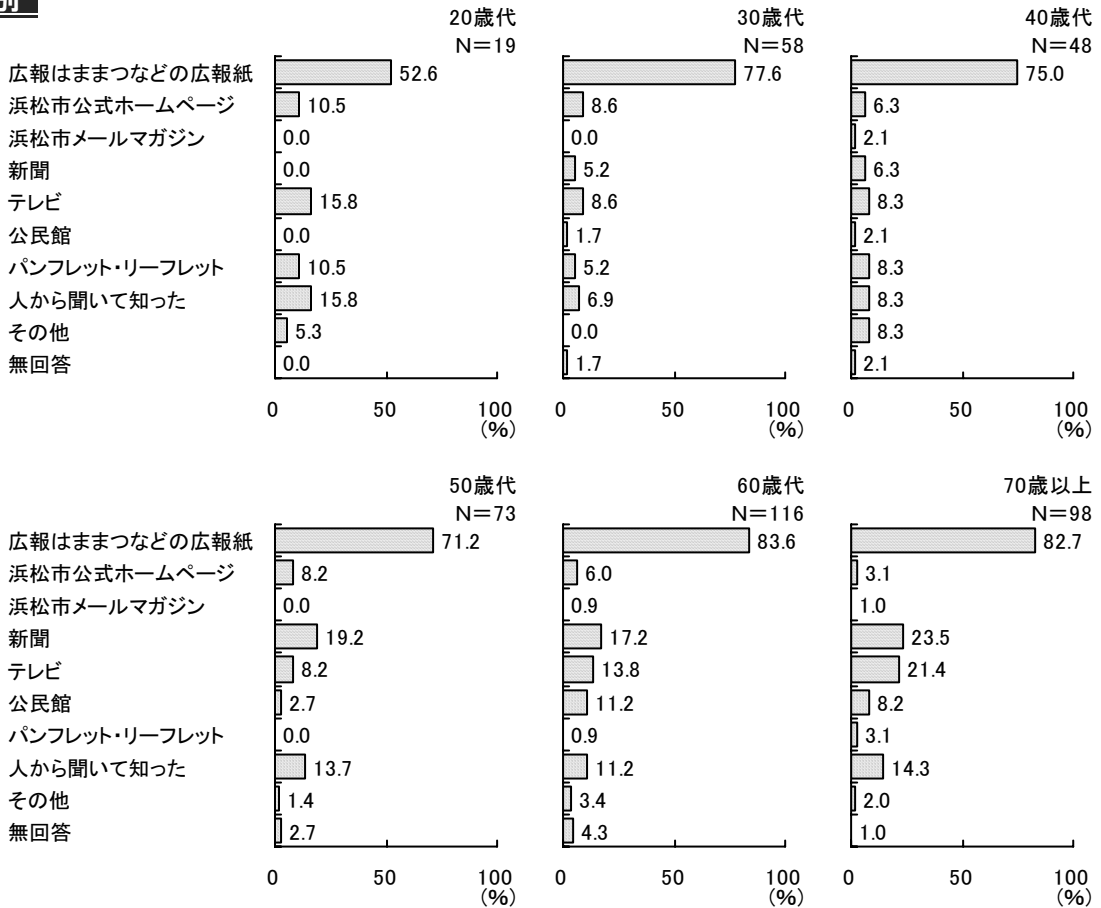
年代別でみると、「広報はままつなどの広報紙」および「新聞」では年代が上がるほど割合が高い傾向がみられる。また、「浜松市公式ホームページ」は 20 歳代、30 歳代で割合が高いことから、認知度の低かった 20 歳代での周知に有効な媒体と考えられる。

行政区別でみると、ほかの区と比較して割合が高かった項目は、天竜区で「広報はままつなどの広報紙」の 83.0%および「浜松市公式ホームページ」の 11.3%、北区で「浜松市公式ホームページ」の 10.0%、西区で「人から聞いて知った」の 21.1%などであった。

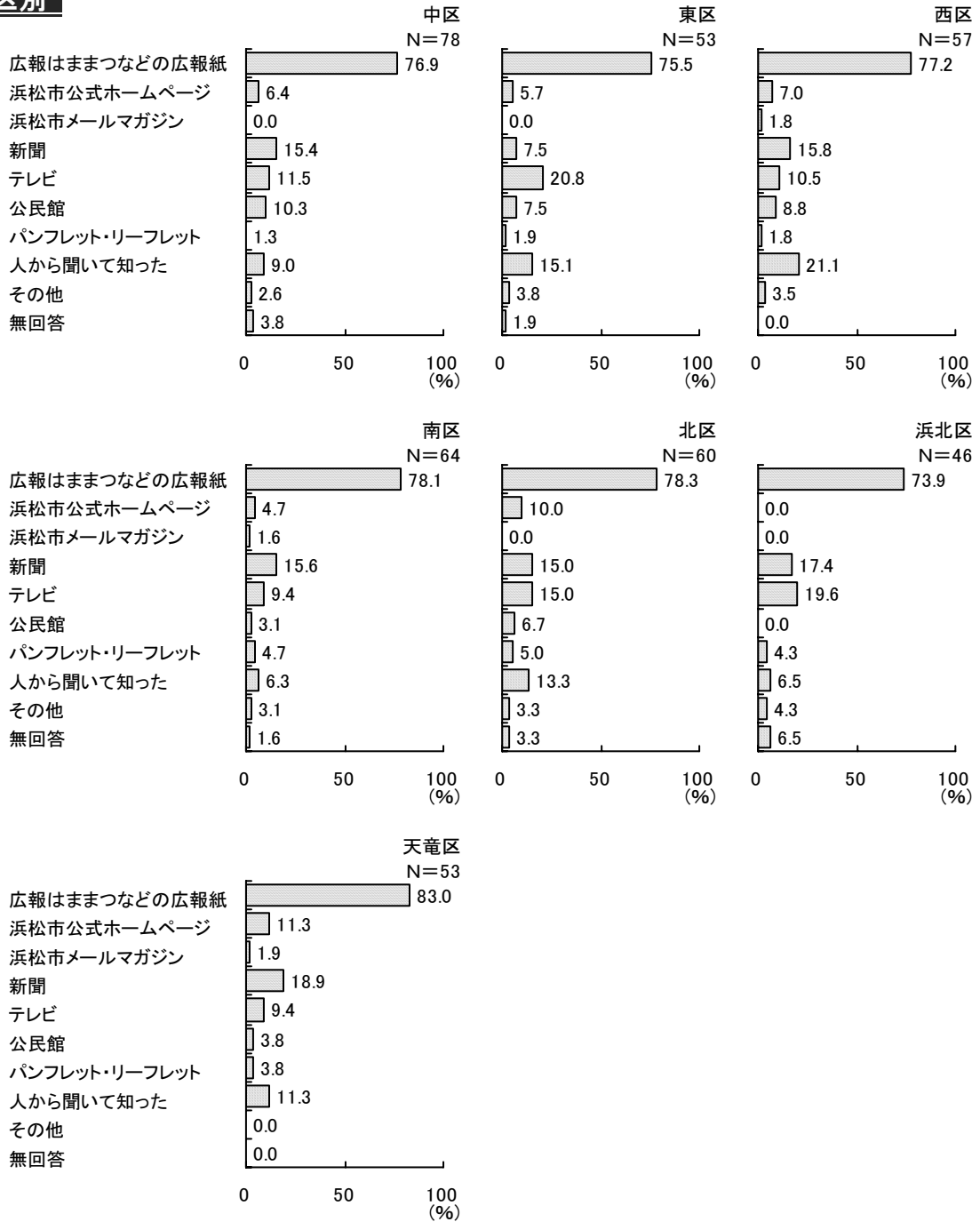
性別



年代別



行政区別

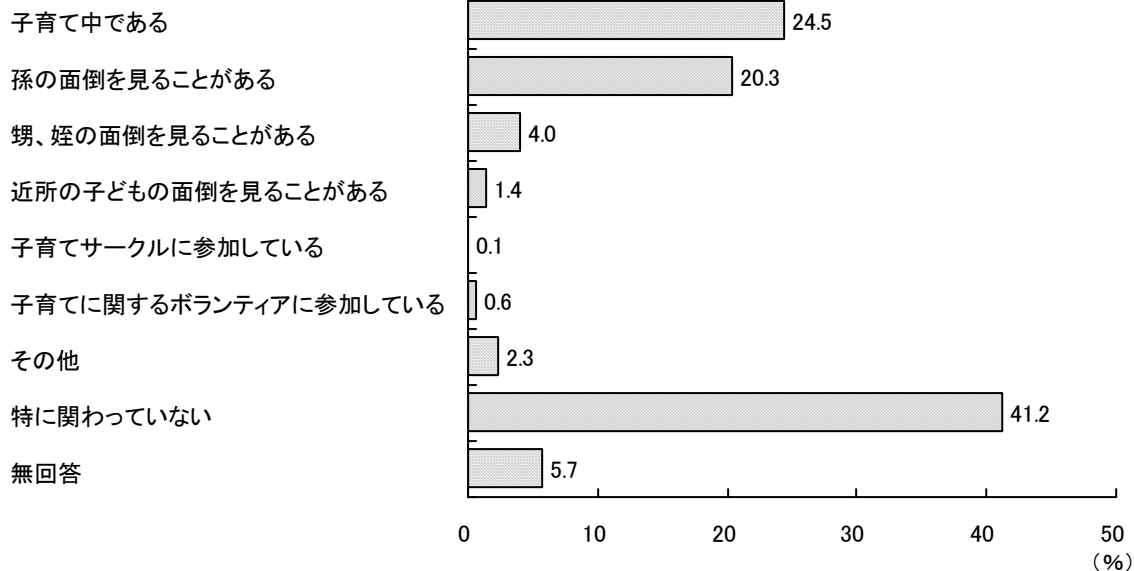


(3) 子育てへの関わり方

問 26 あなたは、「子育て」に対して、現在、どのような関わり方をしていますか。

(1つだけ○を付けてください)

N=1,640

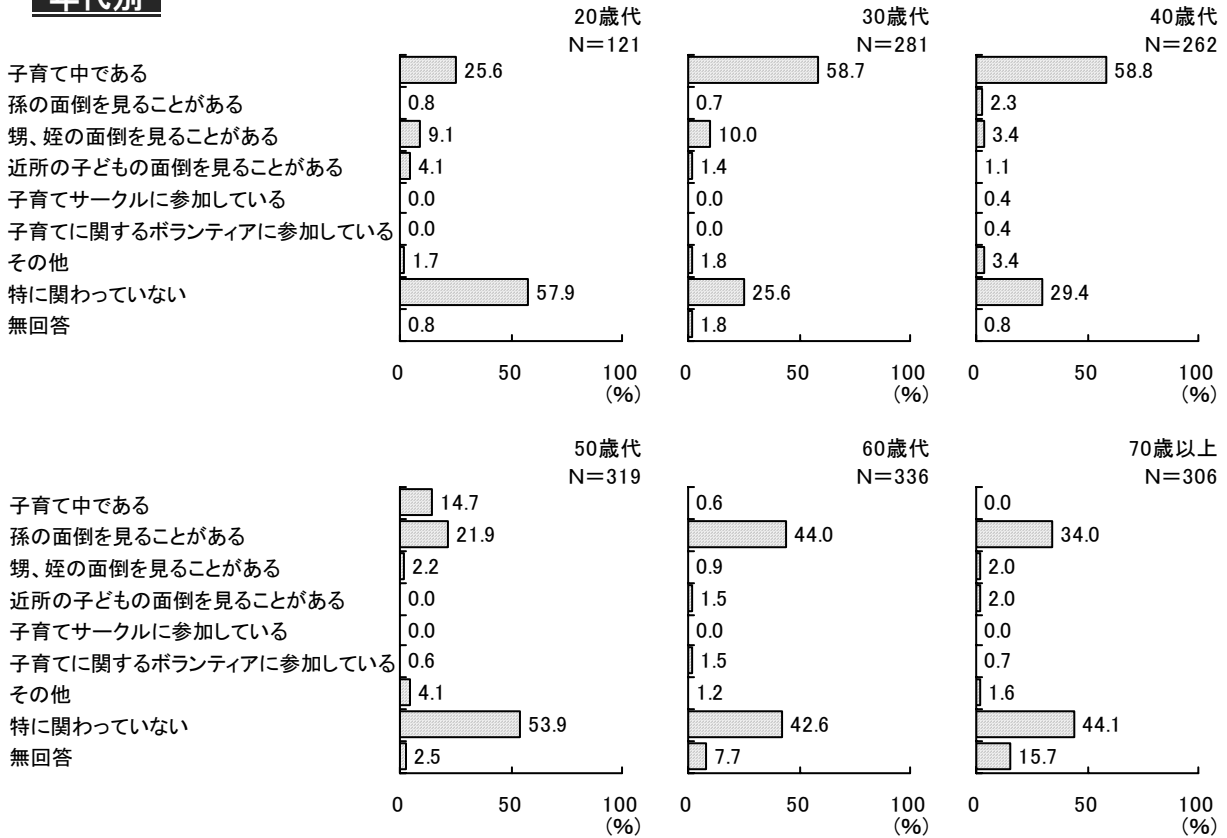


子育てに関わっている中では「子育て中である」が24.5%と最も多く、次いで「孫の面倒を見ることがある」が20.3%とこれらがそれぞれ2割以上の回答を得ている。一方、「特に関わっていない」は41.2%となっている。

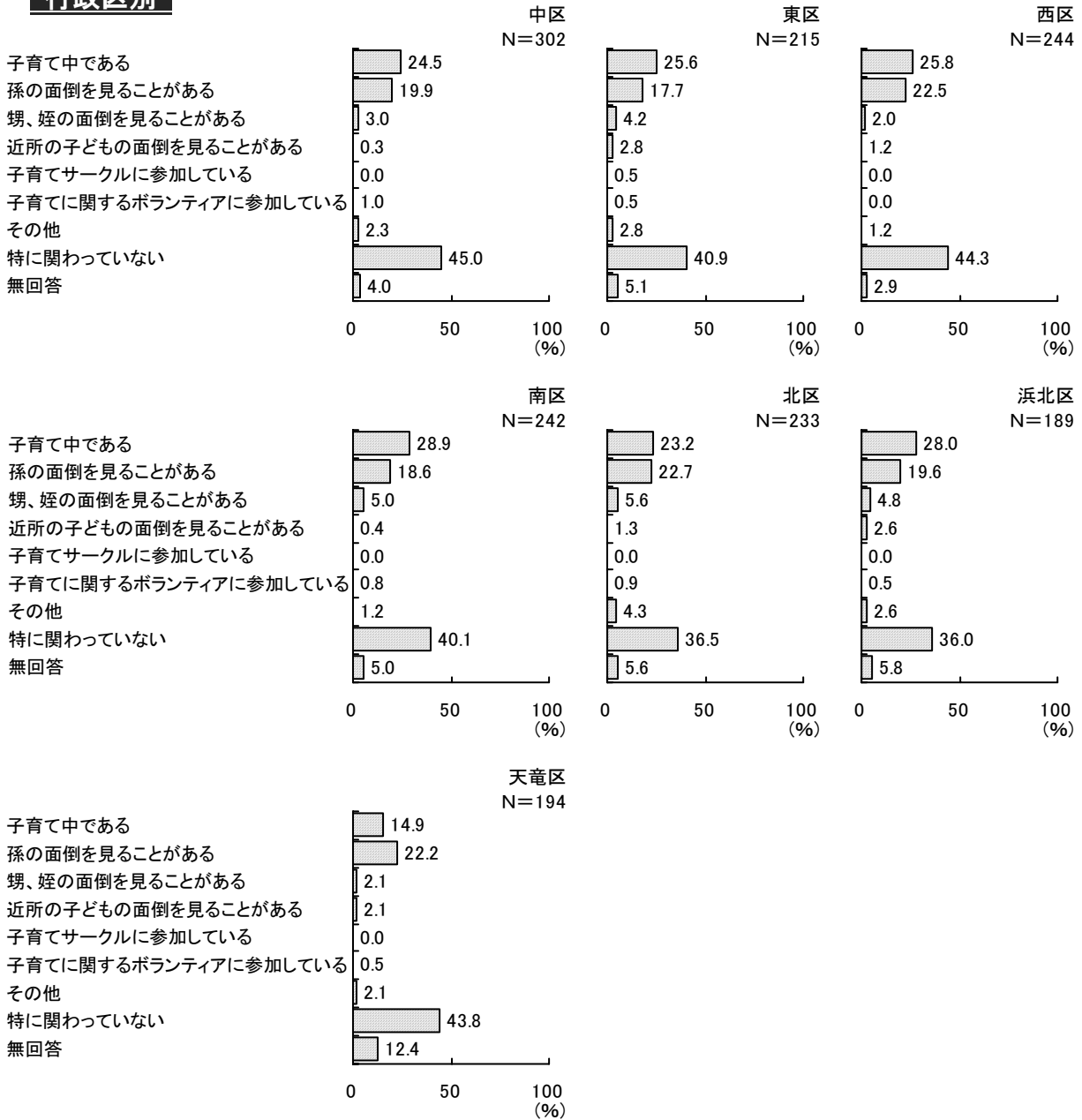
年代別でみると、「子育て中である」は40歳代以下で、「孫の面倒を見ることがある」は50歳代以上で割合が高くなっている。また、「甥、姪の面倒を見ることがある」は20～30歳代の割合が高い。

行政区別でみると、天竜区で「子育て中である」が14.9%とほかの区と比較して低い一方で、「孫の面倒を見ることがある」は22.2%でほかの区との差はみられなかった。

年代別

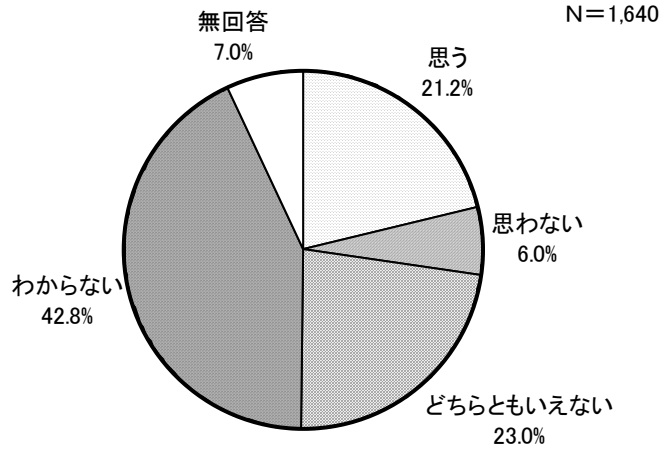


行政区別



(4) 市の行う子育て支援

問 27 市では、子育て広場やファミリーサポートセンターなど子育てに関するさまざまな支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。
(1つだけ○を付けてください)



「思う」が 21.2%、「思わない」が 6.0%、「どちらともいえない」が 23.0%、「わからない」が 42.8%となっている。

前年度調査と比較すると、「思う」は前年度の 19.6%より 1.6 ポイント増加している。

性別でみると、「思う」は男性が 16.9%、女性が 27.3%と女性が男性を大きく上回っており、男女の意識に差がみられる。一方、「わからない」は男性が 46.3%、女性が 38.9%と男性が女性を上回った。

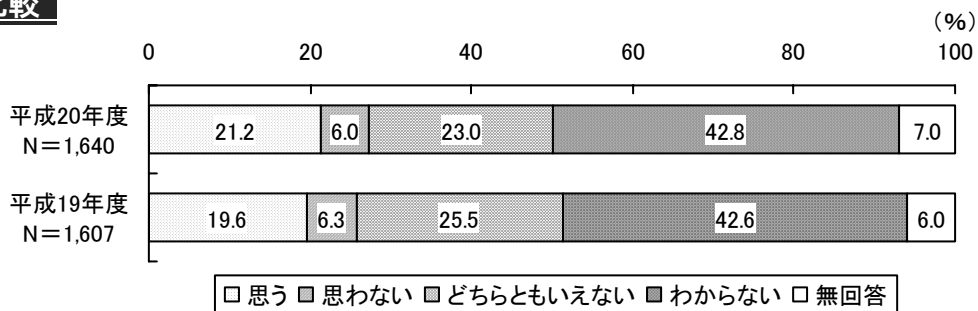
年代別でみると、30 歳代では「思う」が 26.0%と高く、同じく子育て世代の 40 歳代では「どちらともいえない」が 34.4%と高くなっている。また、20 歳代では「わからない」が 52.9%と多い。

職業別でみると、「思う」は農林水産業が 33.9%、専業主婦（主夫）が 32.1%とこれらの職業で高いのに対し、商工・サービス・自由業では 21.0%、勤め人では 19.7%と低い割合となっている。

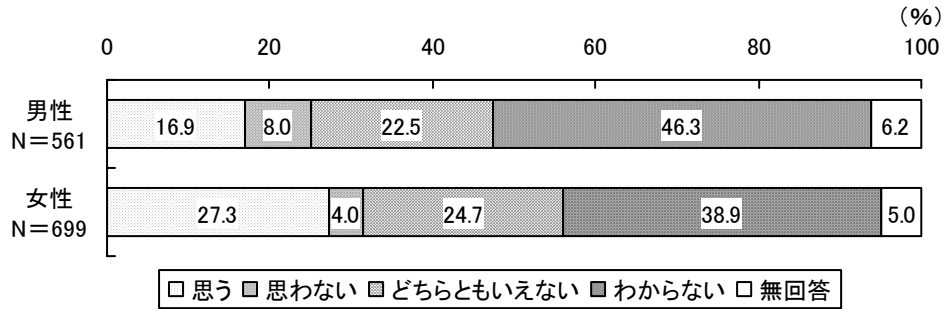
家族別でみると、3人以上で回答の傾向が分かれる。

行政区別でみると、「思う」は北区で 29.6%と高く、天竜区で 12.9%と低い傾向にある。

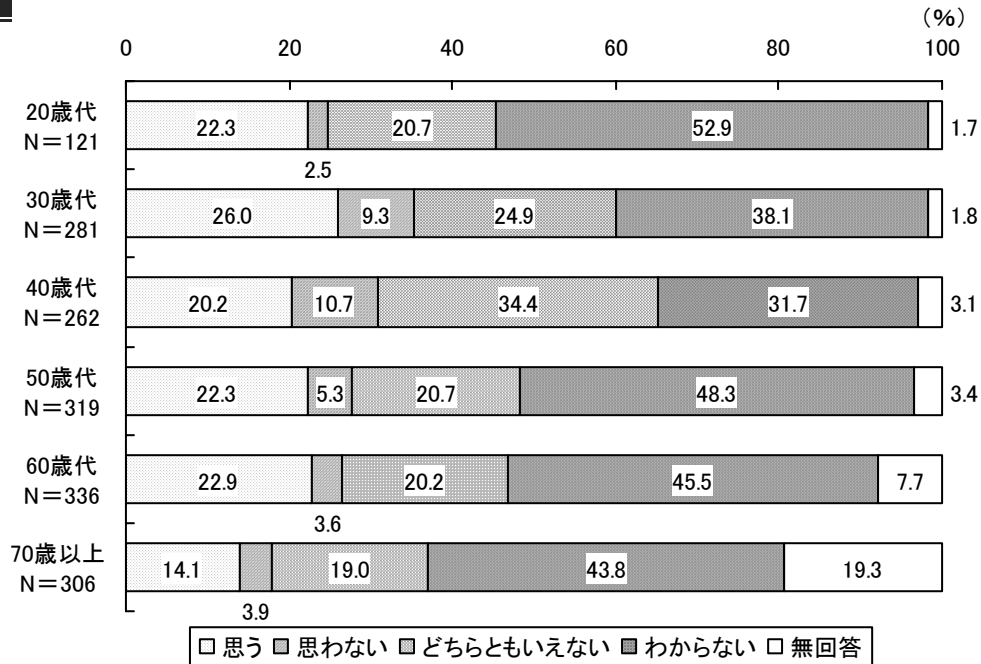
経年比較



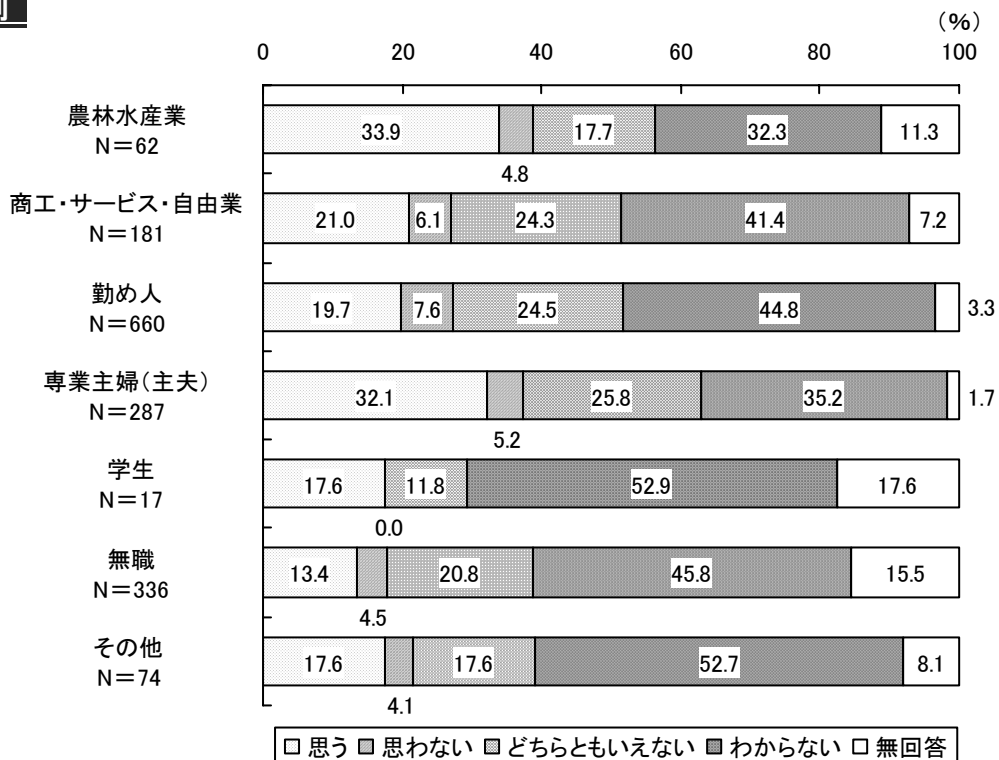
性別



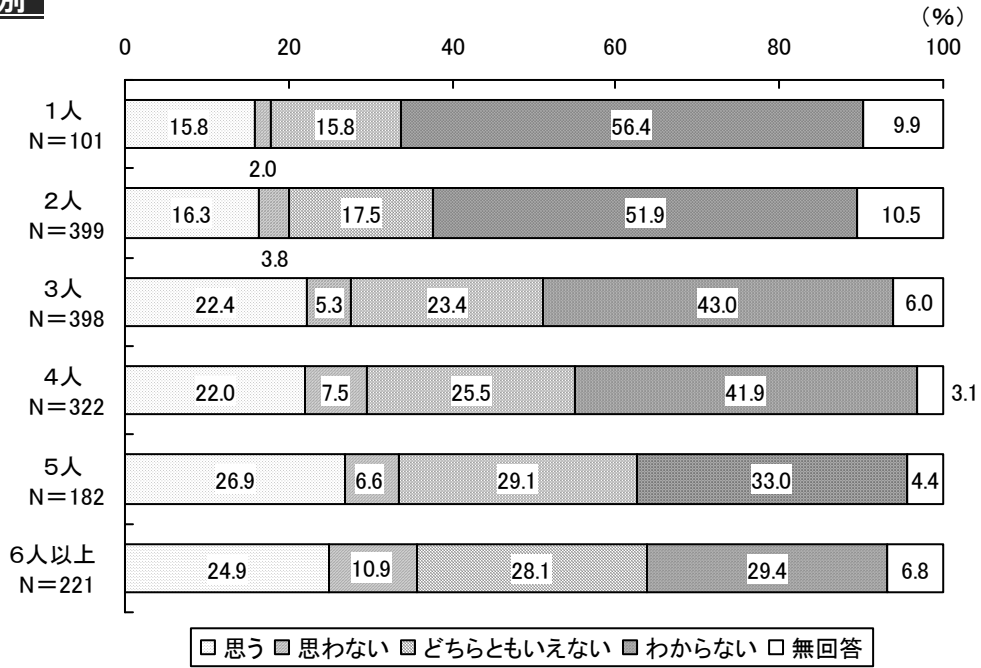
年代別



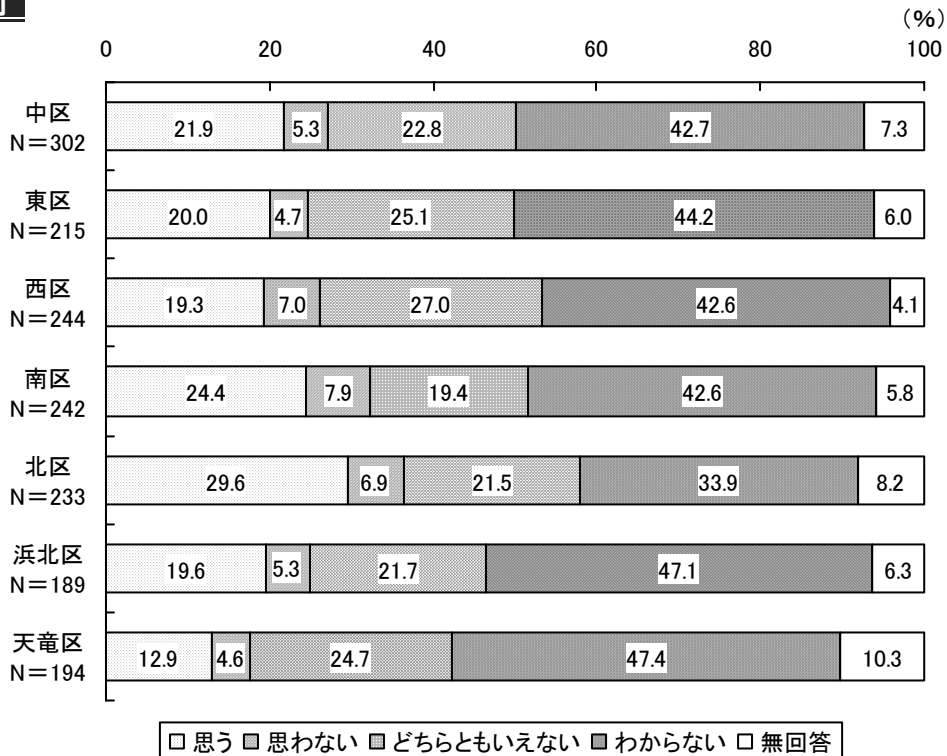
職業別



家族数別



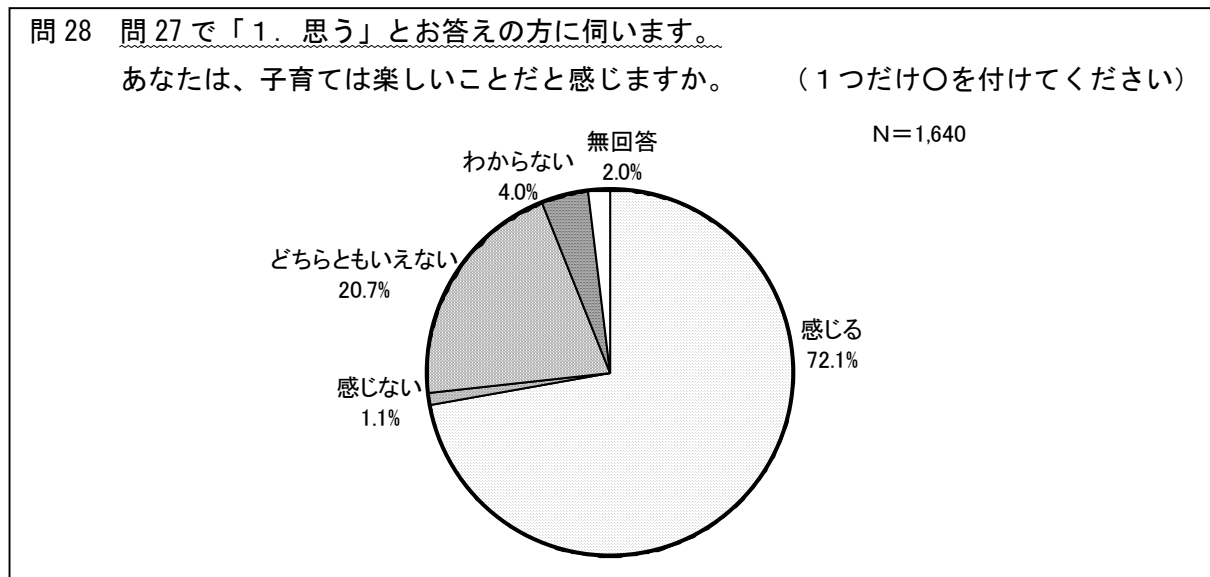
行政区別



(5) 子育ては楽しいと感じるか

問 28 問 27 で「1. 思う」とお答えの方に伺います。

あなたは、子育ては楽しいことだと感じますか。 (1つだけ○を付けてください)



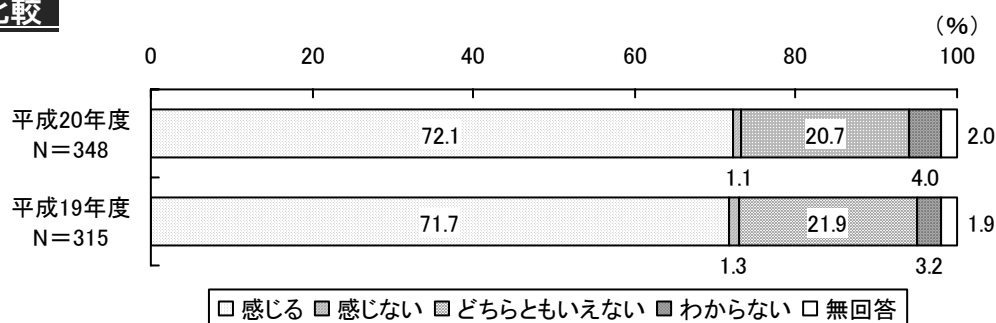
「感じる」が 72.1%、「感じない」が 1.1%、「どちらともいえない」が 20.7%、「わからない」が 4.0%となっている。

前回調査と比較すると、「感じる」は前年度の 71.7%より 0.4 ポイント増加しているのみで、大きな違いはみられない。

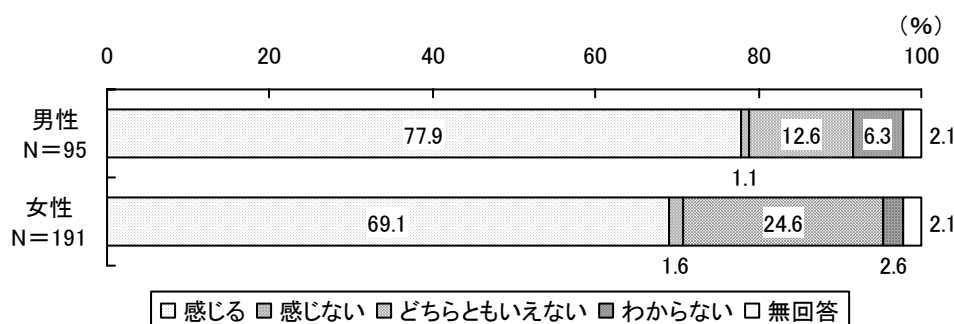
性別でみると、「感じる」は男性が 77.9%、女性が 69.1%と男性が女性を上回っているのに対し、「どちらともいえない」は男性が 12.6%、女性 24.6%と女性が男性を上回っている。このことから、子育ての楽しさに対する男女の意識に違いがみられる。

年代別でみると、20 歳代で「感じる」が 59.3%とほかの年代と比較して低く、一方「わからない」は 22.2%と高かった。また、「感じる」との回答はおおむね年代が上がるほど、高い傾向がみられる。

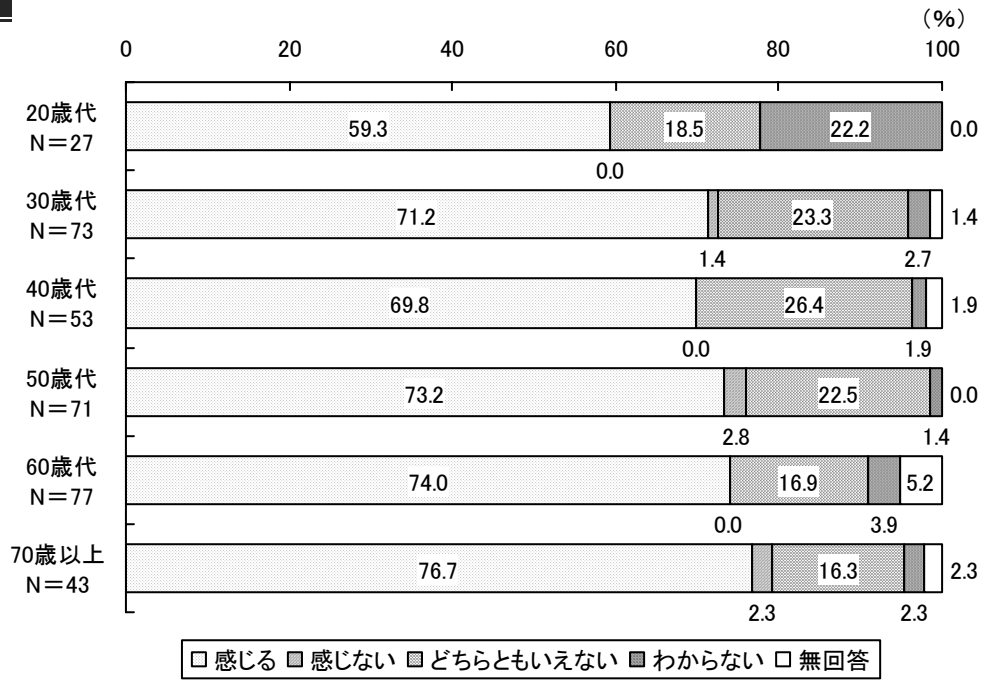
経年比較



性別



年代別



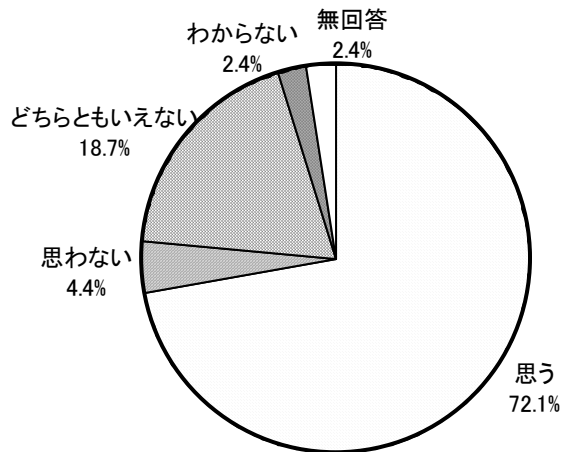
(6) 子どもの笑顔が輝いていると思うか

問 29 問 28 で「1. 感じる」とお答えの方に伺います。

あなたのまわりでは、子どもの笑顔が輝いていると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

N=1,640



「思う」が 72.1%、「思わない」が 4.4%、「どちらともいえない」が 18.7%、「わからない」が 2.4%となっている。

前回調査と比較すると、「思う」は昨年度の 80.5%より 8.4ポイント減少している。

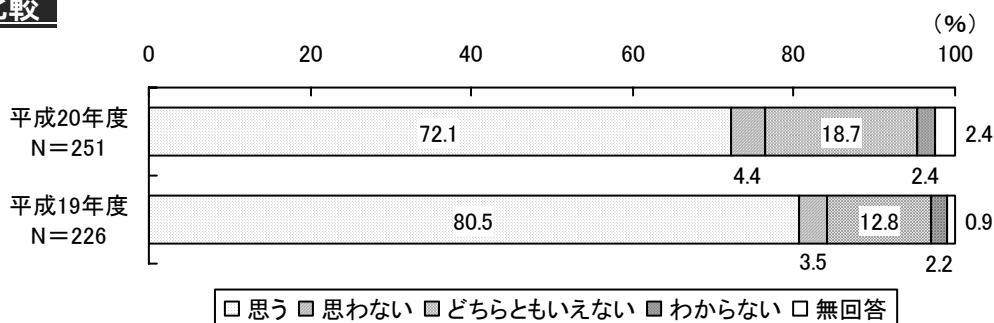
性別でみると、「思う」は男性が 68.9%、女性が 73.5%と女性が男性より高く、「どちらともいえない」では男性が 21.6%、女性が 16.7%と男性の方が高くなっている。

年代別でみると、「思う」は 20 歳代が 81.3%、30 歳代が 82.7%、70 歳以上が 84.8%とこれらの年代で高く、50 歳代では 57.7%、60 歳代では 66.7%と低くなっている。

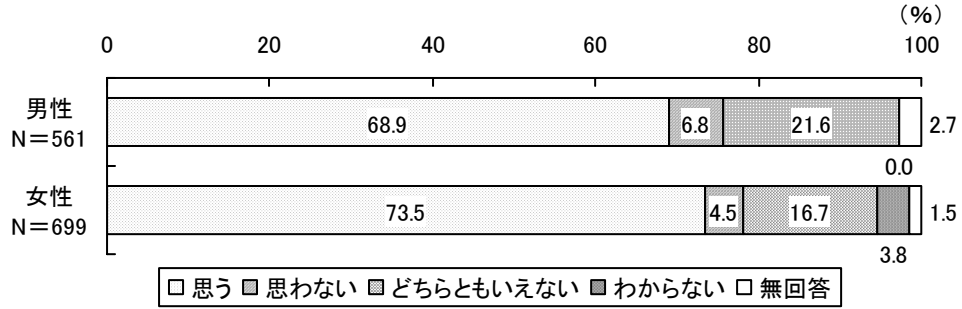
職業別では、「思う」は農林水産業で 94.1%と最も高くなっており、次いでその他 80.0%、専業主婦（主夫）79.0%となっている。

行政区別では、「思う」は天竜区が 89.5%と高く、浜北区 (65.2%)、中区 (65.4%)、西区 (65.5%)では低い傾向がみられる。

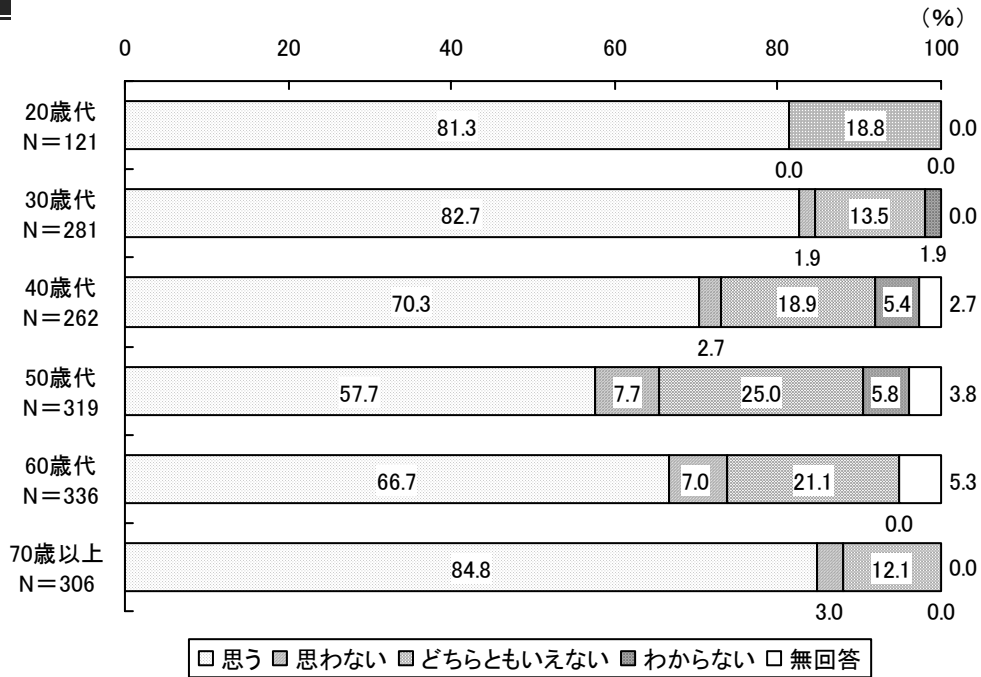
経年比較



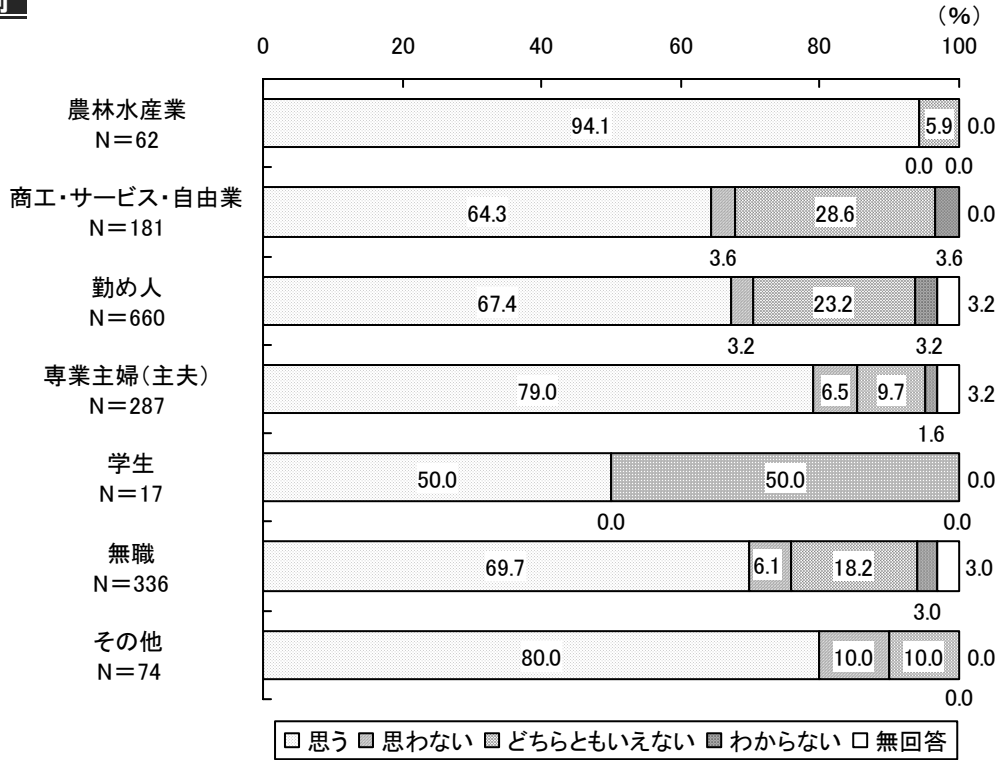
性別



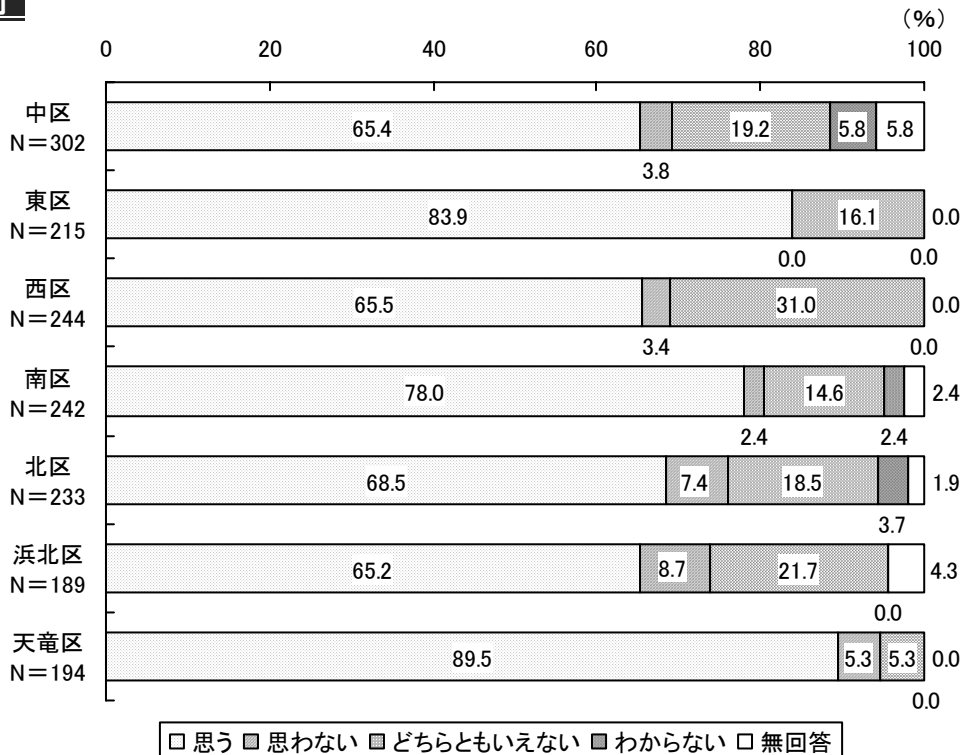
年代別



職業別



行政区別

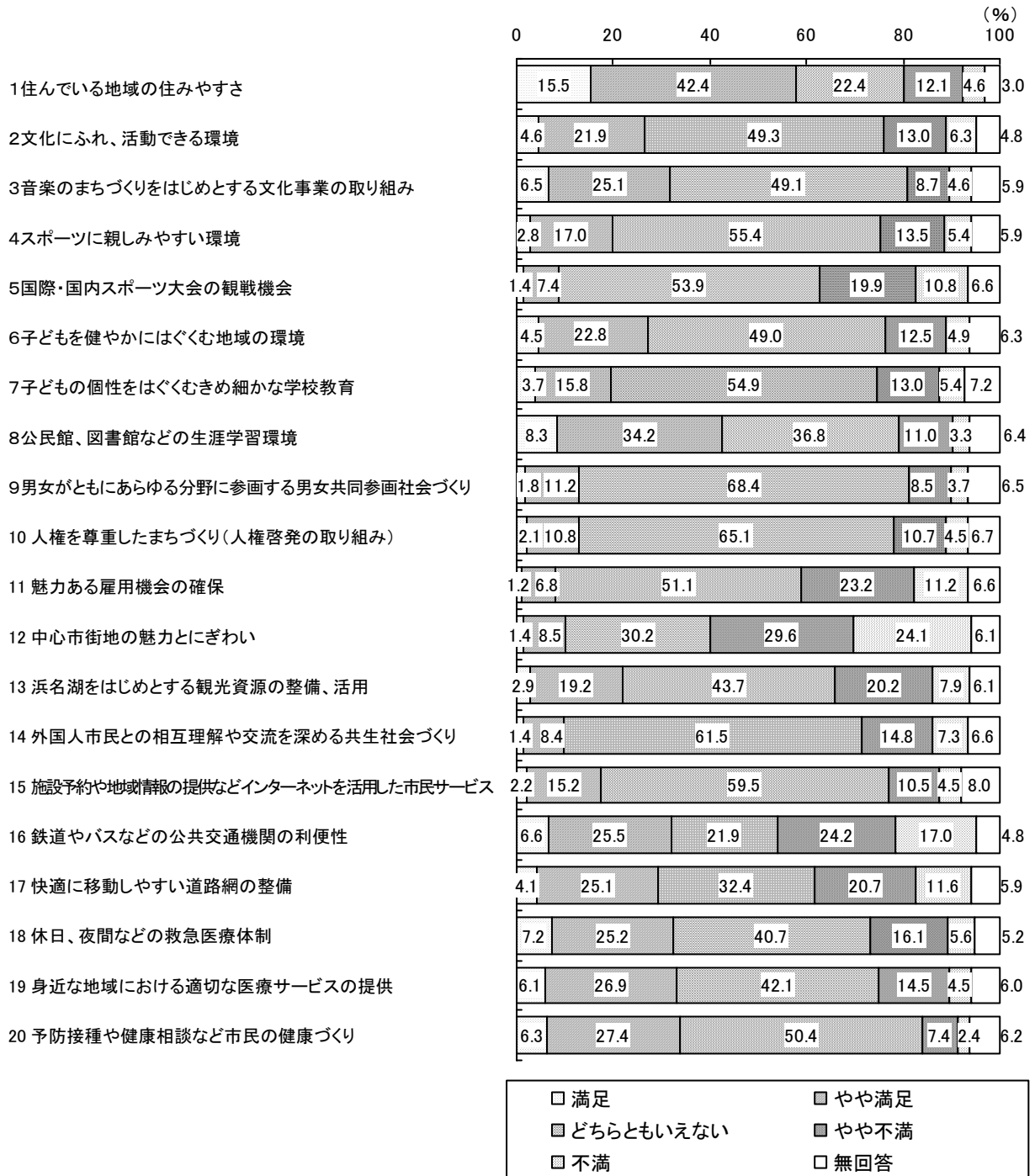


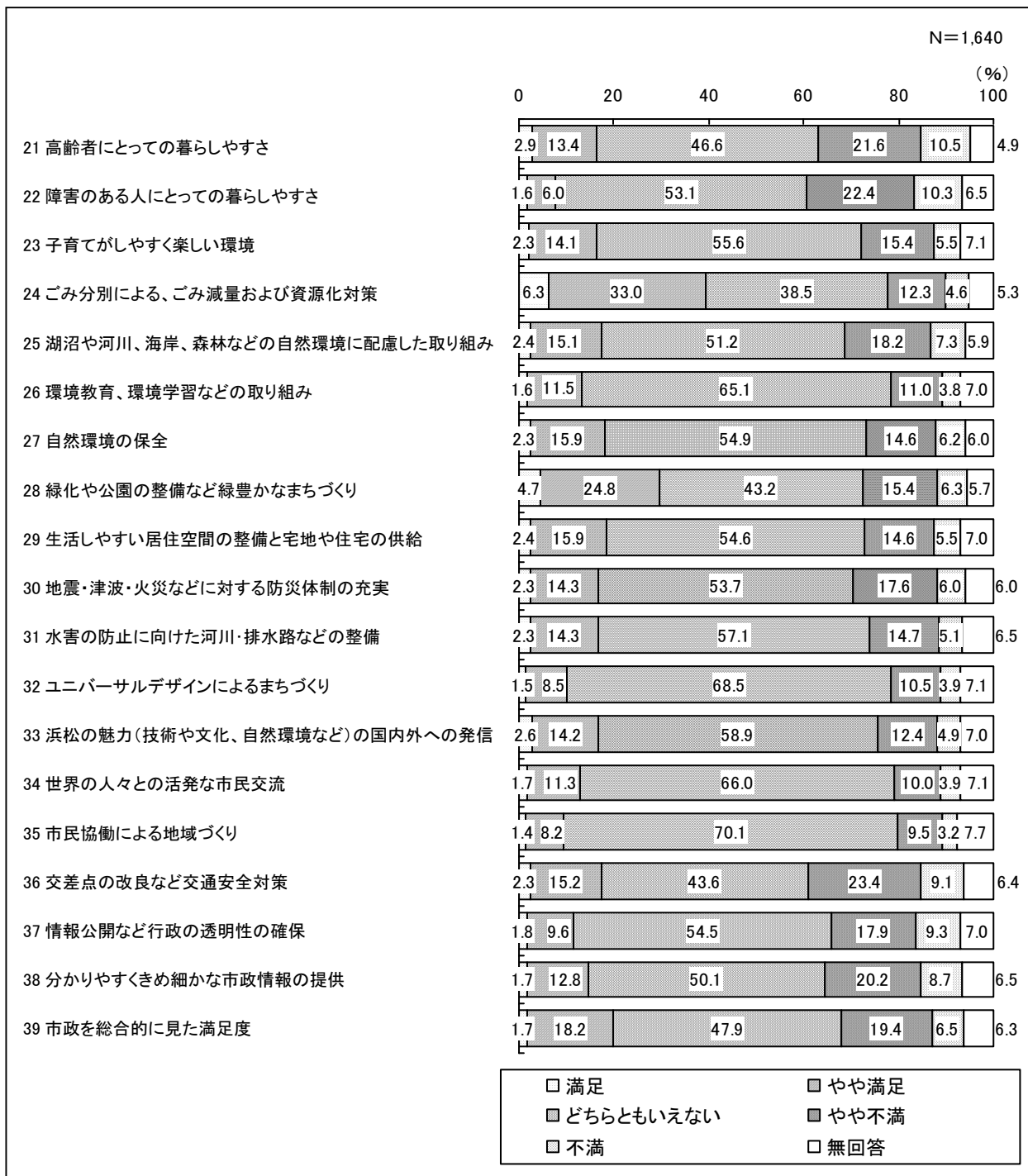
10 市政の満足度評価について

(1) 市政の満足度

問 30 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取組みについて日ごろどのように感じていますか。以下の各項目についてその評価を1～5のうちからそれぞれ1つだけ選び○を付けてください。

N=1,640





「満足」と「やや満足」を合わせた『満足している』が3割以上だったものは、以下の8項目である。

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1 住んでいる地域の住みやすさ | 57.9% |
| 8 公民館、図書館などの生涯学習環境 | 42.5% |
| 24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策 | 39.3% |
| 20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり | 33.7% |
| 19 身近な地域における適切な医療サービスの提供 | 33.0% |
| 18 休日、夜間などの救急医療体制 | 32.4% |
| 16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性 | 32.1% |
| 3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み | 31.6% |

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満である』が4割以上だったのは、以下の2項目である。

12 中心市街地の魅力とにぎわい	53.7%
16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	41.2%

また、次表は「満足」を10点、「やや満足」を7.5点、「どちらともいえない」を5点、「やや不満」を2.5点、「不満」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

性別でみると、「1 住んでいる地域の住みやすさ」では男女とも満足度が高い。一方、満足度が低いのは「12 中心市街地の魅力とにぎわい」でいずれも3点台となっており、ほかの項目と比較して目立って低い結果となっている。男性の満足度が女性の満足度を上回る項目はひとつもなく、男性が満足と実感する機会が女性より少ないと考えられる。

年代別でみると、「8 公民館、図書館などの生涯学習環境」では60歳代以上で6点以上と満足度が高いのに対し、50歳代以下ではいずれも5点台となっており、この年代を境に満足度に差がみられた。「11 魅力ある雇用機会の確保」では、いずれの年代でも満足度が高いとはいえないものの、とりわけ50歳代、60歳代で低いものとなっている。「18 休日、夜間などの救急医療体制」、「19 身近な地域における適切な医療サービスの提供」、「20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり」の医療に関連した項目では70歳以上での満足度が高く、いずれも6点以上となっている。

行政区別でみると、「1 住んでいる地域の住みやすさ」では、天竜区とほかの区とで差がみられ、ほかの区ではいずれも6点台であったのに対し、天竜区では5.4点と低くなっている。また、「39 市政を総合的に見た満足度」でも、天竜区が3.9点とほかの区と比較して低いものとなっている。いずれの区でも満足度が低かったのは「12 中心市街地の魅力とにぎわい」で、特に中区と東区では2点台とほかの区と比較して低くなっている。

性別／年代別

◎＝6点以上 △＝4点以下

	全体	男性	女性	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
1 住んでいる地域の住みやすさ	◎ 6.3	◎ 6.3	◎ 6.4	◎ 6.2	◎ 6.3	5.7	◎ 6.1	◎ 6.6	◎ 6.9
2 文化にふれ、活動できる環境	5.1	5.0	5.3	5.3	5.3	4.9	4.7	5.2	5.5
3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み	5.5	5.4	5.7	5.9	5.7	5.4	5.5	5.4	5.5
4 スポーツに親しみやすい環境	5.0	4.8	5.1	4.7	4.8	4.9	4.7	5.2	5.3
5 国際・国内スポーツ大会の観戦機会	4.2	△ 4.0	4.4	4.3	4.3	△ 4.0	△ 4.0	4.1	4.3
6 子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	5.2	4.9	5.4	5.1	4.9	5.0	5.2	5.5	5.6
7 子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	5.0	4.9	5.0	4.7	4.7	4.8	4.7	5.2	5.6
8 公民館、図書館などの生涯学習環境	5.9	5.8	◎ 6.0	5.8	5.7	5.8	5.6	◎ 6.1	◎ 6.2
9 男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	5.0	4.9	5.0	5.1	4.8	4.9	4.8	5.2	5.2
10 人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	4.9	4.7	5.0	4.9	4.7	4.8	4.8	4.9	5.1
11 魅力ある雇用機会の確保	△ 4.0	△ 4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	△ 3.7	△ 3.8	4.4
12 中心市街地の魅力とにぎわい	△ 3.2	△ 3.0	△ 3.4	△ 3.2	△ 3.0	△ 2.8	△ 3.2	△ 3.2	△ 3.9
13 浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.7	4.3	4.9	4.5	4.8	4.5	4.6	4.7	5.1
14 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.5	4.3	4.6	4.6	4.3	4.5	4.5	4.5	4.8
15 施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	5.0	4.9	5.2	5.3	5.0	5.1	4.9	5.0	4.8
16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	4.5	4.3	4.6	4.1	4.4	△ 3.8	4.2	4.9	5.3
17 快適に移動しやすい道路網の整備	4.7	4.4	5.0	4.6	4.7	4.2	4.5	5.0	5.4
18 休日、夜間などの救急医療体制	5.3	5.2	5.4	5.1	4.8	5.0	5.2	5.6	◎ 6.0
19 身近な地域における適切な医療サービスの提供	5.4	5.3	5.6	5.3	5.1	5.0	5.2	5.7	◎ 6.1
20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり	5.7	5.6	5.9	5.6	5.5	5.6	5.5	5.9	◎ 6.3
21 高齢者にとっての暮らしやすさ	4.4	4.3	4.5	4.2	4.3	4.1	4.1	4.5	5.1
22 障害のある人にとっての暮らしやすさ	4.1	4.1	4.1	4.1	△ 3.9	△ 3.9	△ 3.9	4.3	4.6
23 子育てがしやすく楽しい環境	4.8	4.7	4.9	4.8	4.6	4.4	4.7	5.0	5.3
24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.6	5.4	5.8	5.3	5.2	5.2	5.5	5.9	◎ 6.5
25 湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した取り組み	4.7	4.4	4.8	4.8	4.7	4.5	4.4	4.6	5.0
26 環境教育、環境学習などの取り組み	4.9	4.8	5.0	4.9	4.9	4.8	4.7	4.9	5.1
27 自然環境の保全	4.8	4.7	5.0	4.9	4.8	4.6	4.6	5.0	5.2
28 緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり	5.2	5.0	5.3	5.4	5.1	4.9	4.8	5.4	5.5
29 生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	4.9	4.8	5.0	5.2	4.8	4.8	4.5	5.0	5.0
30 地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	4.7	4.7	4.8	4.6	4.6	4.8	4.5	4.8	5.0
31 水害の防止に向けた河川・排水路などの整備	4.8	4.8	5.0	4.9	4.9	5.0	4.7	4.8	4.8
32 ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.8	4.7	4.9	5.1
33 浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	4.9	4.7	5.1	4.7	5.1	4.8	4.6	5.0	5.4
34 世界の人々との活発な市民交流	4.9	4.8	5.0	4.8	4.9	4.7	4.8	5.0	5.2
35 市民協働による地域づくり	4.9	4.8	4.9	4.8	4.9	4.7	4.7	4.9	5.2
36 交差点の改良など交通安全対策	4.4	4.2	4.6	4.1	4.3	4.2	4.3	4.5	5.0
37 情報公開など行政の透明性の確保	4.4	4.2	4.5	△ 4.0	4.3	4.3	△ 4.0	4.4	5.0
38 分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	4.4	4.3	4.6	4.2	4.3	4.2	△ 3.9	4.6	5.4
39 市政を総合的に見た満足度	4.7	4.6	4.9	4.6	4.6	4.3	4.4	5.0	5.3

行政区別

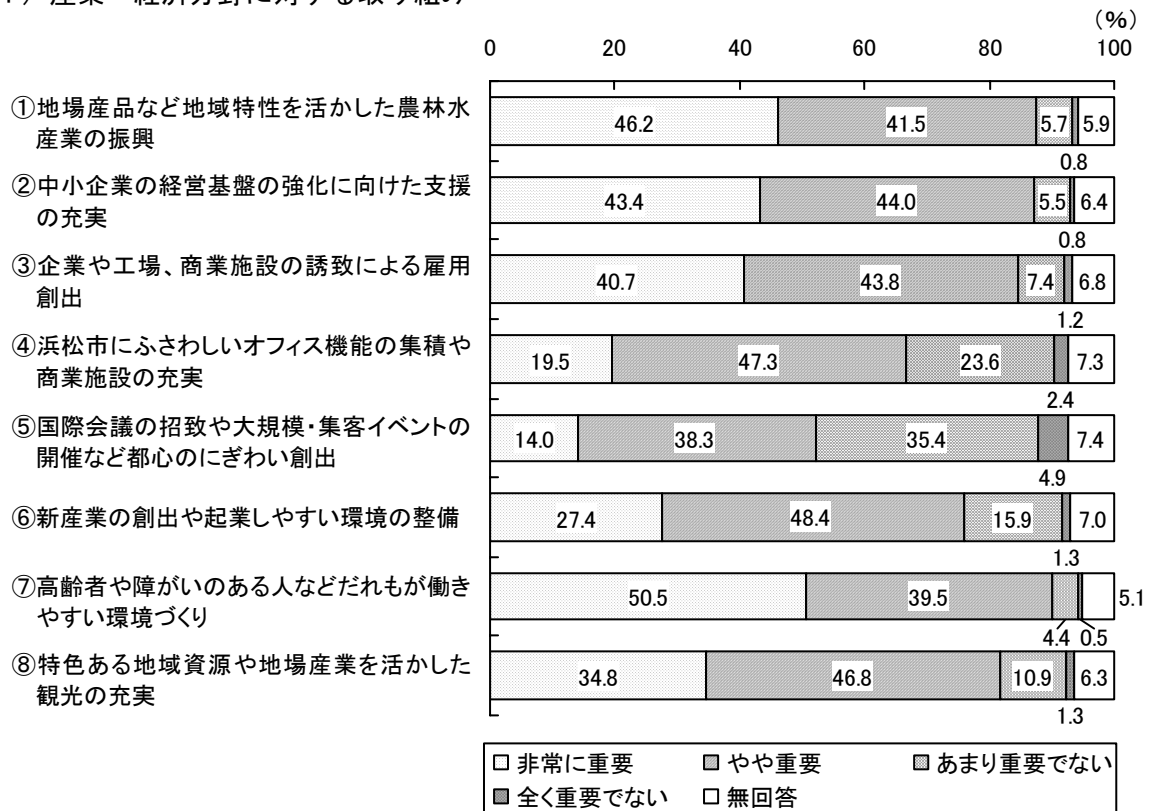
◎ = 6 点以上 △ = 4 点以下

	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
1 住んでいる地域の住みやすさ	◎ 6.9	◎ 6.3	◎ 6.5	◎ 6.2	◎ 6.5	◎ 6.3	5.4
2 文化にふれ、活動できる環境	5.6	5.1	5.0	5.3	5.1	5.1	4.5
3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み	5.8	5.9	5.5	5.9	5.2	5.3	4.9
4 スポーツに親しみやすい環境	5.0	5.1	5.1	5.0	5.0	5.1	4.3
5 国際・国内スポーツ大会の観戦機会	4.2	4.4	4.3	4.3	4.1	4.3	△ 3.5
6 子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	5.4	5.2	5.5	5.1	5.6	5.0	5.0
7 子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	4.8	4.8	5.2	4.8	5.3	4.8	5.0
8 公民館、図書館などの生涯学習環境	◎ 6.0	5.7	◎ 6.3	◎ 6.0	◎ 6.1	5.8	5.2
9 男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	5.0	4.9	5.2	5.0	4.9	4.9	4.8
10 人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	5.0	4.9	4.9	4.8	4.9	4.9	4.7
11 魅力ある雇用機会の確保	4.3	4.1	4.1	△ 3.9	4.1	4.2	△ 3.3
12 中心市街地の魅力とにぎわい	△ 2.9	△ 2.9	△ 3.1	△ 3.0	△ 3.6	△ 3.5	△ 3.7
13 浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.7	4.5	4.5	4.8	4.8	4.8	4.7
14 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.4	4.4	4.7	4.4	4.6	4.5	4.7
15 施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	5.1	5.0	5.1	5.2	4.9	5.0	4.7
16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	5.0	4.4	4.6	4.9	△ 4.0	5.0	△ 3.1
17 快適に移動しやすい道路網の整備	5.0	4.6	5.3	4.8	4.7	5.0	△ 3.2
18 休日、夜間などの救急医療体制	5.7	5.3	5.5	5.5	5.4	4.8	4.6
19 身近な地域における適切な医療サービスの提供	5.8	5.5	5.7	5.3	5.5	5.3	4.6
20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり	5.9	5.8	5.9	5.6	5.9	5.7	5.2
21 高齢者にとっての暮らしやすさ	4.5	4.3	4.5	4.3	4.7	4.4	△ 3.8
22 障害のある人にとっての暮らしやすさ	4.1	4.1	4.4	4.1	4.4	△ 4.0	△ 3.5
23 子育てがしやすく楽しい環境	4.9	4.9	4.7	4.8	5.1	4.6	4.4
24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.7	◎ 6.0	5.8	5.5	5.7	5.3	5.4
25 湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した取り組み	4.7	4.6	4.8	4.6	4.9	4.7	4.3
26 環境教育、環境学習などの取り組み	5.0	4.9	5.0	4.9	4.8	4.9	4.7
27 自然環境の保全	5.0	4.8	4.9	4.7	4.9	4.8	4.7
28 緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり	5.3	5.1	5.1	5.1	5.1	5.6	4.8
29 生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	4.9	5.1	4.9	4.7	4.8	5.1	4.4
30 地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	4.9	4.9	4.7	4.5	5.0	4.7	4.2
31 水害の防止に向けた河川・排水路などの整備	5.1	5.1	4.9	4.7	4.8	4.8	4.4
32 ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.6	4.6
33 浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	5.0	4.9	4.8	5.1	4.9	4.8	5.0
34 世界の人々との活発な市民交流	4.9	5.0	4.9	5.0	4.9	4.8	4.9
35 市民協働による地域づくり	4.9	4.9	4.8	5.0	4.9	4.8	4.7
36 交差点の改良など交通安全対策	4.4	4.7	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4
37 情報公開など行政の透明性の確保	4.4	4.5	4.3	4.5	4.4	4.3	4.4
38 分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	4.6	4.4	4.3	4.5	4.5	4.3	4.3
39 市政を総合的に見た満足度	5.0	5.0	4.6	4.9	4.9	4.5	△ 3.9

11 市政への要望について

問 31 あなたは、浜松市が積極的・重点的に取り組んでいくべき具体的な施策として、以下の各項目についてどの程度重要だと思いますか。各項目について重要度を1～4のうちからそれぞれ1つだけ選んで○を付けてください。

(1) 産業・経済分野に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の5項目となっている。

⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	90.0%
①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	87.7%
②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	87.4%
③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	84.5%
⑧特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	81.6%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別／年代別／行政区別

◎ = 8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	◎ 8.0	7.9	◎ 8.1	7.6	7.4	7.8	◎ 8.0	◎ 8.5	◎ 8.4
②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	7.9	7.9	◎ 8.0	7.6	7.5	7.9	7.9	◎ 8.4	7.9
③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	7.7	7.9	7.6	7.3	7.4	7.4	7.9	◎ 8.2	7.9
④浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	6.3	6.1	6.4	6.3	5.8	6.0	6.0	6.7	7.2
⑤国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	5.5	5.3	5.6	5.4	4.8	5.3	5.4	5.8	6.4
⑥新産業の創出や起業しやすい環境の整備	6.9	7.2	6.8	6.2	6.4	6.5	7.1	7.5	7.5
⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	◎ 8.2	◎ 8.1	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.3	◎ 8.3	◎ 8.1
⑧特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	7.4	7.2	7.6	7.0	7.2	7.2	7.2	7.8	7.9

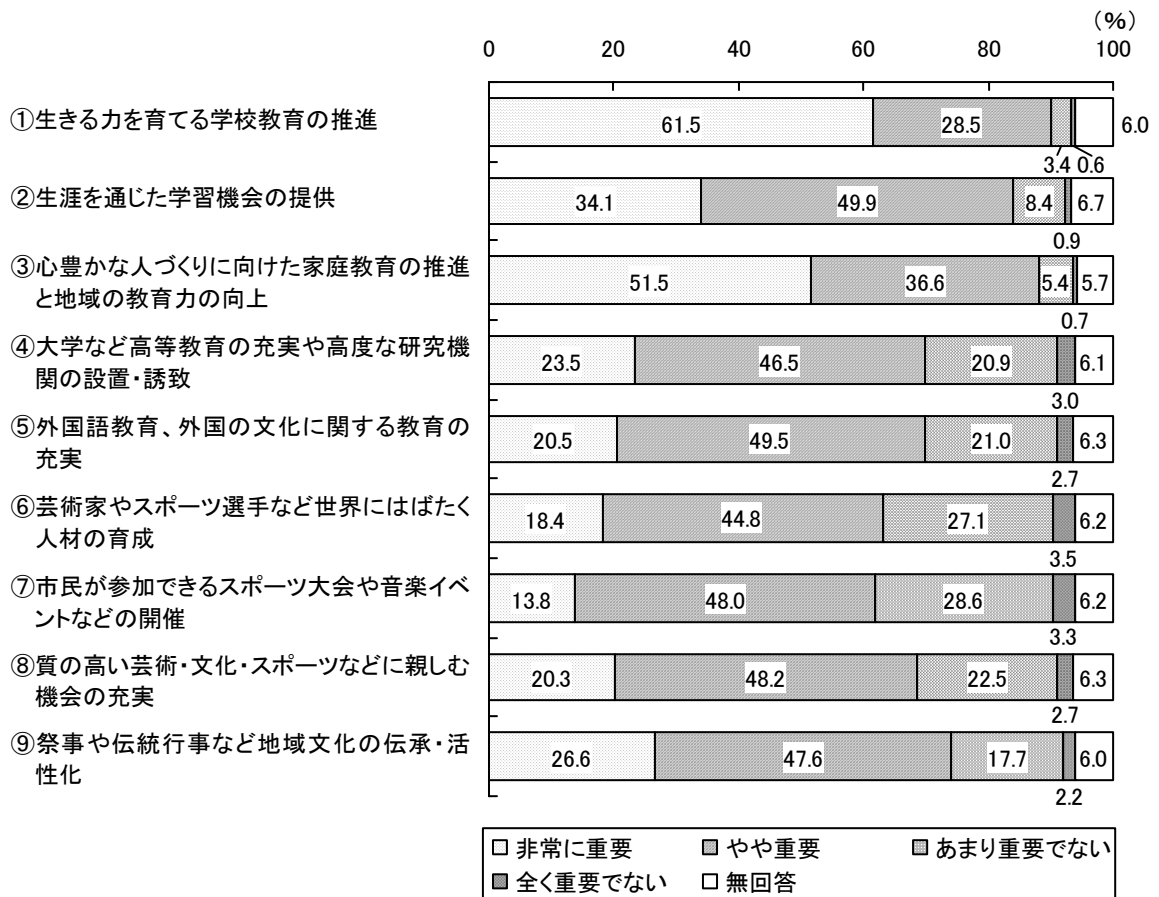
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	7.9	7.8	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 8.1	7.9	◎ 8.3
②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	◎ 8.0	7.9	7.8	7.7	7.9	◎ 8.0	◎ 8.1
③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	7.8	7.7	7.8	7.5	7.4	7.9	◎ 8.3
④浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	6.6	6.0	6.2	6.4	6.2	6.3	6.3
⑤国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	5.8	5.5	5.7	5.4	5.3	5.4	5.3
⑥新産業の創出や起業しやすい環境の整備	7.1	6.9	6.9	6.7	6.8	6.9	7.3
⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.5	◎ 8.3
⑧特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	7.4	7.3	7.5	7.2	7.3	7.5	7.6

性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは「⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり」となっている。一方、「⑤国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出」は、男女とも重要度が低くなっている。

年代別でみると、「⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり」はいずれの年代でも8点以上の高い重要度となっている。「①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興」では、50歳代以上で8点以上と高い重要度となっている。

行政区別でみると、「⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり」はいずれの区でも高い重要度となっている。「③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出」では、天竜区での重要度がほかの区と比較して高くなっている。

(2) 教育、文化、スポーツに対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の3項目となっている。

- ①生きる力を育てる学校教育の推進 90.0%
- ③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上 88.1%
- ②生涯を通じた学習機会の提供 84.0%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別／年代別／行政区別

◎ = 8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①生きる力を育てる学校教育の推進	◎ 8.7	◎ 8.4	◎ 8.9	7.9	◎ 8.4	◎ 8.7	◎ 8.5	◎ 8.9	◎ 9.1
②生涯を通じた学習機会の提供	7.5	7.2	7.7	7.1	7.4	7.6	7.2	7.6	7.8
③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.5	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.4	◎ 8.6
④大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	6.5	6.3	6.6	6.3	5.8	6.6	6.4	6.6	7.3
⑤外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	6.4	6.2	6.6	6.4	6.5	6.4	6.3	6.4	6.5
⑥芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	6.1	5.8	6.2	6.2	5.8	6.0	5.7	6.2	6.6
⑦市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	5.9	5.7	5.9	5.4	5.7	5.6	5.8	6.1	6.3
⑧質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	6.4	6.2	6.5	6.2	6.3	6.5	6.2	6.4	6.4
⑨祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	6.8	6.6	6.9	7.4	6.5	6.5	6.7	6.9	7.1

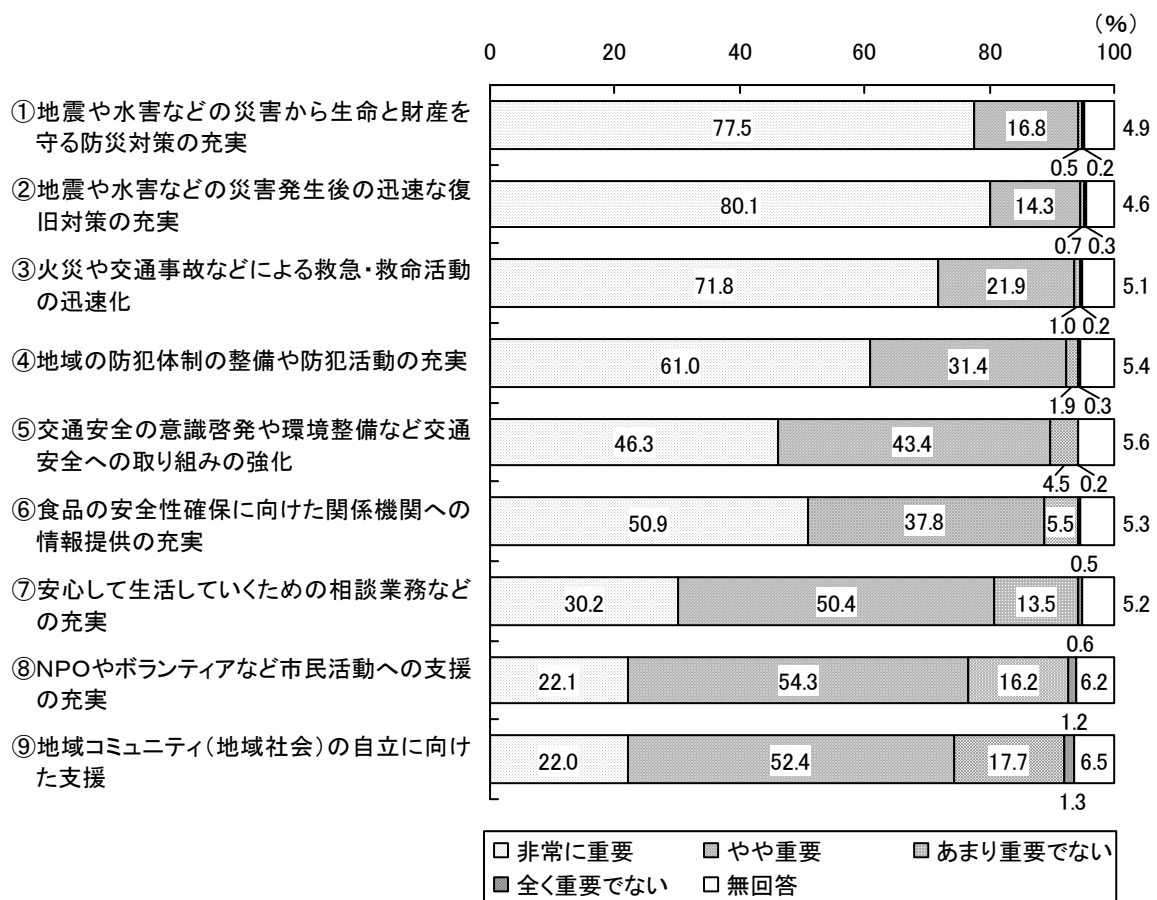
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①生きる力を育てる学校教育の推進	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.9	◎ 8.8
②生涯を通じた学習機会の提供	7.4	7.5	7.3	7.4	7.6	7.6	7.7
③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	◎ 8.2	◎ 8.3	◎ 8.1	◎ 8.1	◎ 8.2	◎ 8.3	◎ 8.4
④大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	6.6	6.7	6.6	6.1	6.4	6.5	6.6
⑤外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	6.8	6.5	6.4	6.3	6.1	6.5	6.2
⑥芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	6.2	6.1	6.2	5.6	5.9	6.2	6.3
⑦市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	6.1	6.0	5.8	5.7	5.7	6.0	5.8
⑧質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	6.6	6.6	6.4	6.1	6.2	6.4	6.1
⑨祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	6.8	6.6	6.8	6.4	6.8	6.7	7.4

性別でみると、男女とも重要度が高かったのは「①生きる力を育てる学校教育の推進」および「③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上」となっている。一方、「⑦市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催」は、男女とも重要度が低くなっている。また、いずれの項目の重要度も女性が男性を上回っている。

年代別でみると、「①生きる力を育てる学校教育の推進」では30歳代以上でいずれも8点以上の高い重要度となっている。「③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上」ではいずれの年代も8点以上となっており、特に60歳代以上での重要度が高くなっている。

行政区別でみると、いずれの区でも「①生きる力を育てる学校教育の推進」および「③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上」の重要度が高くなっている。

(3) 市民が安全・安心に暮らすための取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の7項目となっている。

②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	94.4%
①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	94.3%
③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	93.7%
④地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	92.4%
⑤交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	89.7%
⑥食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	88.7%
⑦安心して生活していくための相談業務などの充実	80.6%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別／年代別／行政区別

◎ = 8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.5	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.3	◎ 9.6
②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	◎ 9.4	◎ 9.2	◎ 9.6	◎ 9.4	◎ 9.4	◎ 9.4	◎ 9.3	◎ 9.4	◎ 9.5
③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	◎ 9.1	◎ 8.8	◎ 9.3	◎ 9.0	◎ 9.1	◎ 9.0	◎ 9.0	◎ 9.1	◎ 9.5
④地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	◎ 8.7	◎ 8.4	◎ 8.9	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.8	◎ 8.6	◎ 8.7	◎ 9.0
⑤交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	◎ 8.1	7.9	◎ 8.3	7.7	◎ 8.0	◎ 8.1	7.9	◎ 8.0	◎ 8.6
⑥食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	◎ 8.2	7.7	◎ 8.6	7.8	7.8	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.5	◎ 8.6
⑦安心して生活していくための相談業務などの充実	7.2	6.8	7.3	6.7	6.8	7.1	7.2	7.2	7.7
⑧NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	6.7	6.3	7.0	6.3	6.4	6.6	6.8	6.8	7.3
⑨地域コミュニティ(地域社会)の自立に向けた支援	6.7	6.4	6.9	6.1	6.2	6.3	6.8	6.9	7.4

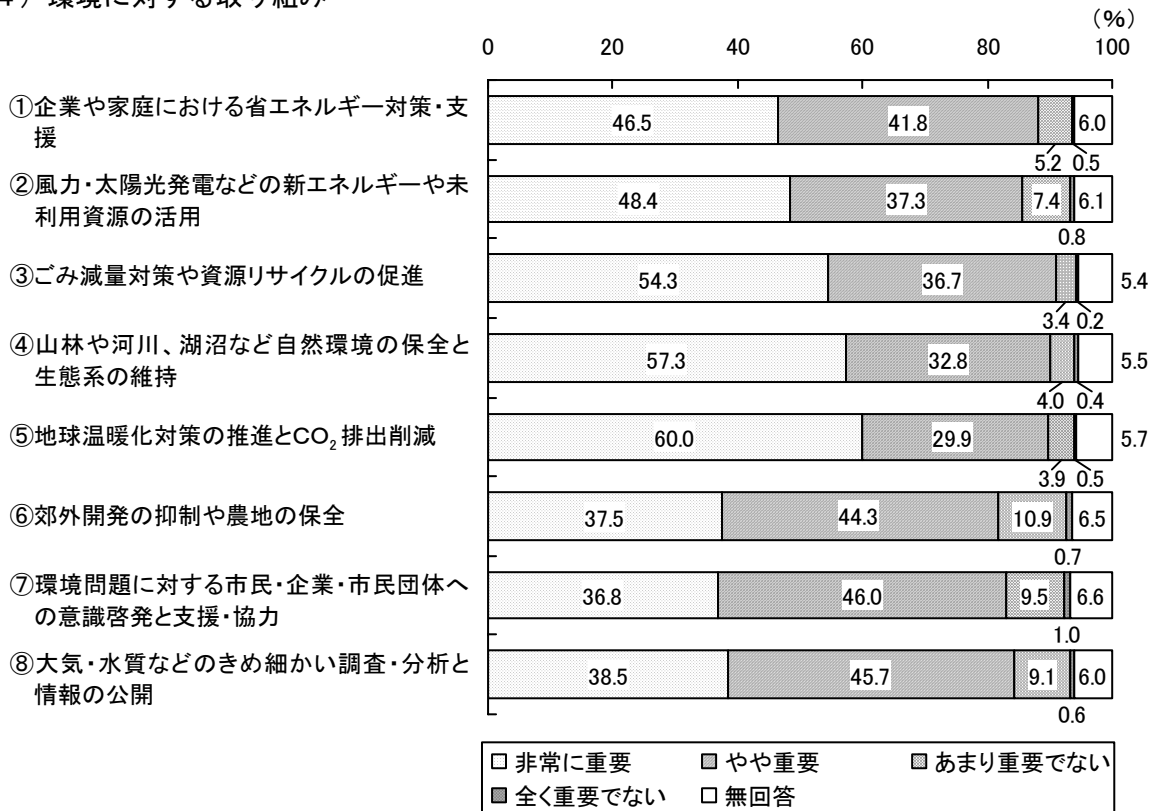
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.4	◎ 9.3	◎ 9.4	◎ 9.4	◎ 9.5
②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	◎ 9.4	◎ 9.3	◎ 9.4	◎ 9.4	◎ 9.4	◎ 9.5	◎ 9.6
③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	◎ 9.1	◎ 9.1	◎ 9.2	◎ 9.0	◎ 9.0	◎ 9.2	◎ 9.3
④地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	◎ 8.7	◎ 8.8	◎ 8.8	◎ 8.7	◎ 8.5	◎ 8.8	◎ 8.8
⑤交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.0	7.9	◎ 8.1	◎ 8.4	◎ 8.2
⑥食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	◎ 8.2	◎ 8.3	◎ 8.4	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.3	◎ 8.3
⑦安心して生活していくための相談業務などの充実	7.2	7.1	7.2	7.1	7.0	7.2	7.4
⑧NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	6.6	6.7	6.7	6.7	6.7	6.9	7.1
⑨地域コミュニティ(地域社会)の自立に向けた支援	6.6	6.5	6.3	6.5	6.9	6.8	7.4

性別でみると、「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」、「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」、「③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化」で男女とも高い重要度となっている。一方、「⑥食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実」では、女性の重要度が8.6点と高いのに対し、男性は7.7点と男女の意識に差がみられた。また、いずれの項目の重要度も女性が男性を上回っている。

年代別でみると、いずれの年代でも「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」、「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」、「③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化」の重要度が9点台とたいへん高くなっている。

行政区別でも、「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」、「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」、「③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化」の重要度がいずれの区でも高くなっている。

(4) 環境に対する取り組み



全ての項目において、「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上となっている。

③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	91.0%
④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	90.1%
⑤地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	89.9%
①企業や家庭における省エネルギー対策・支援	88.3%
②風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	85.7%
⑧大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	84.2%
⑦環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	82.8%
⑥郊外開発の抑制や農地の保全	81.8%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別／年代別／行政区別

◎ = 8点以上

	全体	男性	女性	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
①企業や家庭における省エネルギー対策・支援	◎ 8.1	7.9	◎ 8.3	7.9	◎ 8.1	7.9	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.2
②風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	◎ 8.0	7.9	◎ 8.1	7.8	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.2
③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	◎ 8.4	◎ 8.2	◎ 8.6	◎ 8.2	◎ 8.5	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.6	◎ 8.7
④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.6	◎ 8.5	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.6
⑤地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	◎ 8.6	◎ 8.3	◎ 8.9	◎ 8.4	◎ 8.6	◎ 8.5	◎ 8.3	◎ 8.8	◎ 8.8
⑥郊外開発の抑制や農地の保全	7.5	7.2	7.7	7.1	7.3	7.2	7.6	7.8	7.8
⑦環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	7.5	7.2	7.8	7.3	7.4	7.2	7.5	7.8	7.9
⑧大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	7.6	7.4	7.8	7.2	7.5	7.3	7.6	7.9	◎ 8.1

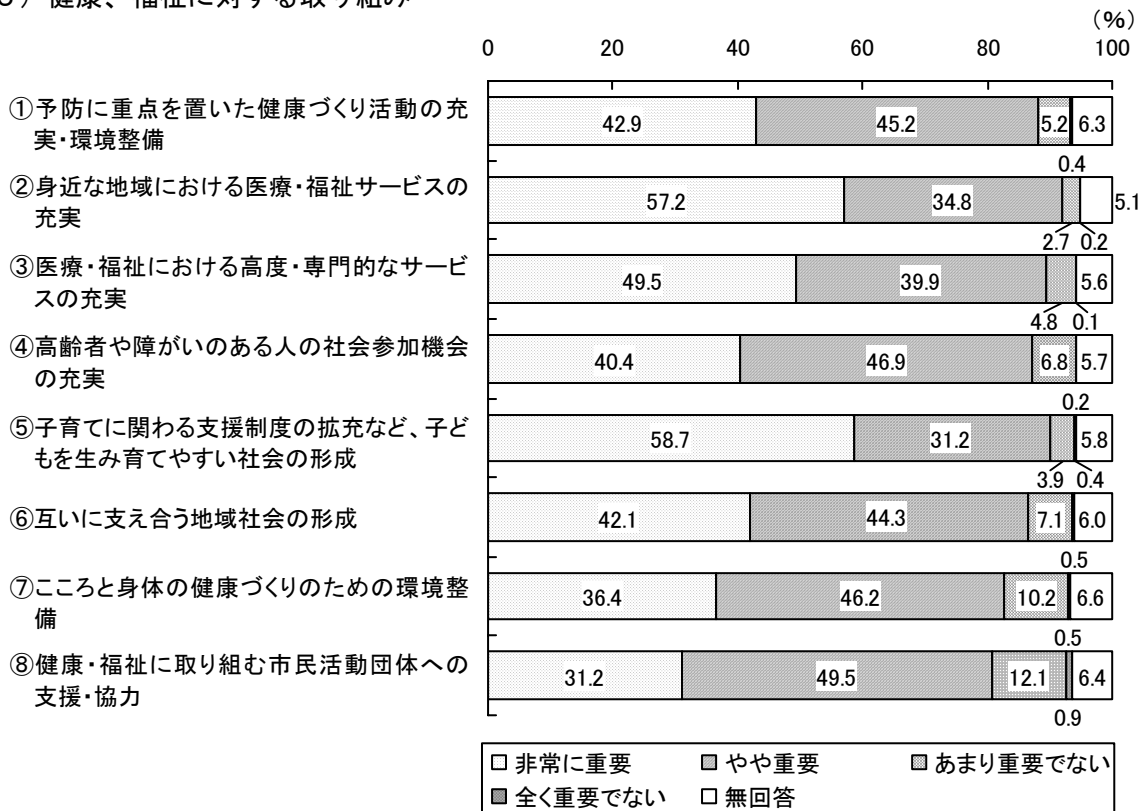
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①企業や家庭における省エネルギー対策・支援	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.2
②風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	◎ 8.1	7.9	◎ 8.1	◎ 8.2	7.9	7.9	◎ 8.0
③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.6
④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.7	◎ 8.6
⑤地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	◎ 8.6	◎ 8.7	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.9	◎ 8.8
⑥郊外開発の抑制や農地の保全	7.6	7.6	7.4	7.4	7.6	7.5	7.6
⑦環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	7.6	7.5	7.4	7.3	7.4	7.6	7.9
⑧大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	7.5	7.5	7.6	7.7	7.5	◎ 8.0	7.7

性別でみると、男女ともに重要度が高いのは「③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進」、「④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持」、「⑤地球温暖化対策の推進とCO₂排出削減」となっている。「①企業や家庭における省エネルギー対策・支援」では、女性の重要度が8.3点と高いのに対し、男性は7.9点と男女の意識に差がみられる。また、いずれの項目も女性が男性を上回っている。

年代別でみると、いずれの年代でも重要度が高いのは「③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進」、「④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持」、「⑤地球温暖化対策の推進とCO₂排出削減」となっている。

行政区別でみると、いずれの区でも重要度が高いのは「①企業や家庭における省エネルギー対策・支援」「③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進」、「④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持」、「⑤地球温暖化対策の推進とCO₂排出削減」となっている。

(5) 健康、福祉に対する取り組み



全ての項目において、「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上となっている。

② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	92.0%
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成	89.9%
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	89.4%
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	88.1%
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	87.3%
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	86.4%
⑦ こころと身体の健康づくりのための環境整備	82.6%
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	80.7%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別／年代別／行政区別

◎ = 8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	7.9	7.8	◎ 8.0	7.8	7.7	7.7	7.9	◎ 8.0	◎ 8.5
②身近な地域における医療・福祉サービスの充実	◎ 8.5	◎ 8.3	◎ 8.7	◎ 8.5	◎ 8.3	◎ 8.6	◎ 8.5	◎ 8.5	◎ 8.9
③医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.4	◎ 8.1	7.9	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.1	◎ 8.5
④高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	7.8	7.6	◎ 8.0	7.9	7.8	7.9	7.8	7.7	7.7
⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.8	◎ 8.7	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.2	◎ 8.8	◎ 8.5
⑥互いに支え合う地域社会の形成	7.8	7.6	◎ 8.0	7.5	7.5	7.6	7.7	◎ 8.3	◎ 8.2
⑦こころと身体の健康づくりのための環境整備	7.5	7.2	7.8	7.2	7.4	7.4	7.4	7.8	7.9
⑧健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	7.2	7.0	7.5	7.0	7.0	7.1	7.1	7.4	7.7

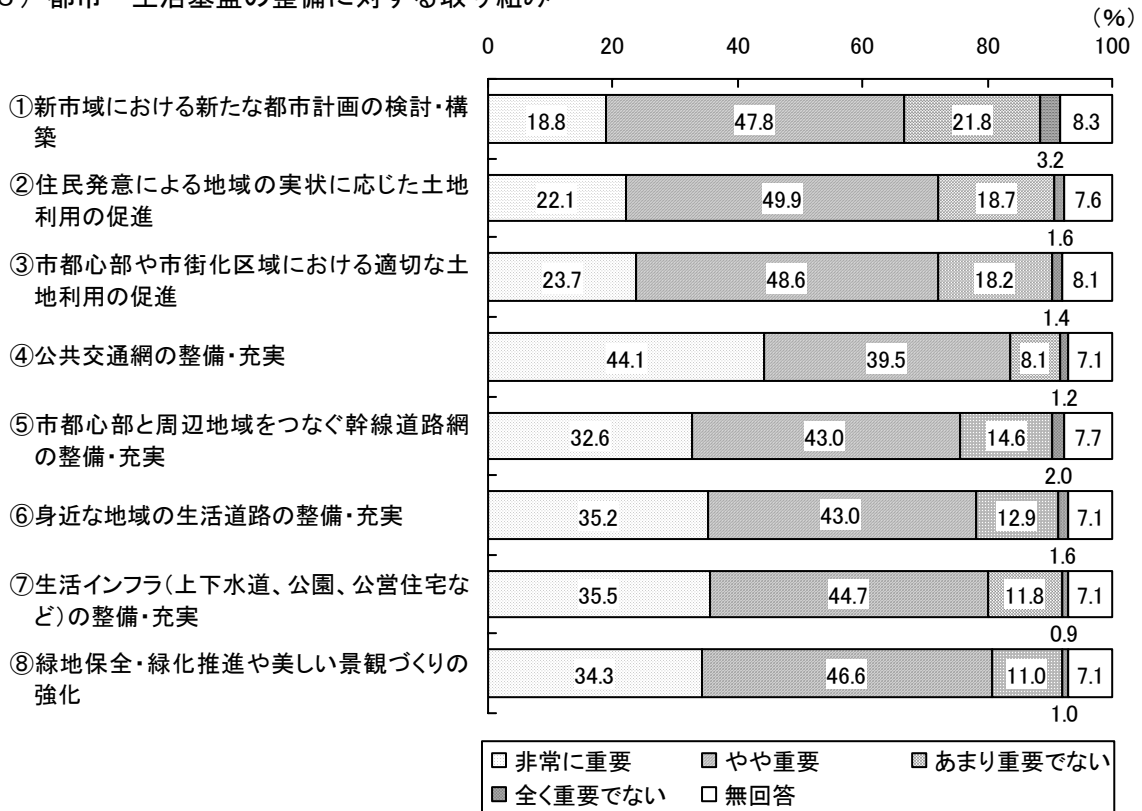
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	7.9	7.9	7.9	7.7	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.2
②身近な地域における医療・福祉サービスの充実	◎ 8.3	◎ 8.3	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.8	◎ 9.0
③医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	◎ 8.1	◎ 8.1	◎ 8.2	◎ 8.2	7.9	◎ 8.4	◎ 8.6
④高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	7.7	7.8	7.6	7.7	7.9	7.9	◎ 8.0
⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成	◎ 8.6	◎ 8.5	◎ 8.5	◎ 8.3	◎ 8.6	◎ 8.8	◎ 8.6
⑥互いに支え合う地域社会の形成	7.8	◎ 8.0	7.5	7.6	7.9	7.8	◎ 8.3
⑦こころと身体の健康づくりのための環境整備	7.5	7.6	7.4	7.3	7.6	7.6	7.9
⑧健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	7.1	7.3	7.0	7.0	7.2	7.7	7.6

性別でみると、「②身近な地域における医療・福祉サービスの充実」、「③医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実」、「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成」で男女とも重要度が高くなっている。また、いずれの項目も女性が男性を上回っている。

年代別でみると、いずれの年代でも重要度が高いのは「②身近な地域における医療・福祉サービスの充実」、「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成」となっている。また、「①予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備」および「⑥互いに支え合う地域社会の形成」は、60歳代以上で重要度が高くなっている。

行政区別でみると、いずれの区でも重要度が高いのは「②身近な地域における医療・福祉サービスの充実」、「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成」となっている。

(6) 都市・生活基盤の整備に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の3項目となっている。

- ④公共交通網の整備・充実 83.6%
- ⑧緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化 80.9%
- ⑦生活インフラ（上下水道、公園、公営住宅など）の整備・充実 80.2%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別／年代別／行政区別

◎＝8点以上

	全体	男性	女性	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
①新市域における新たな都市計画の検討・構築	6.3	6.2	6.2	5.6	5.5	6.1	6.5	6.7	7.0
②住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	6.6	6.5	6.6	6.0	6.0	6.5	6.8	7.1	7.0
③市都心部や市街化区域における適切な土地利用の促進	6.7	6.7	6.6	6.6	6.1	6.4	6.9	7.1	7.1
④公共交通網の整備・充実	7.8	7.9	7.8	◎ 8.1	7.5	◎ 8.0	7.7	7.9	◎ 8.1
⑤市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	7.1	7.2	7.0	7.0	6.8	7.1	7.0	7.2	7.7
⑥身近な地域の生活道路の整備・充実	7.3	7.2	7.4	7.1	7.0	7.4	7.1	7.5	7.7
⑦生活インフラ(上下水道、公園、公営住宅など)の整備・充実	7.4	7.4	7.4	7.2	7.5	7.4	7.2	7.5	7.7
⑧緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	7.4	7.2	7.5	7.5	7.5	7.5	7.2	7.4	7.4

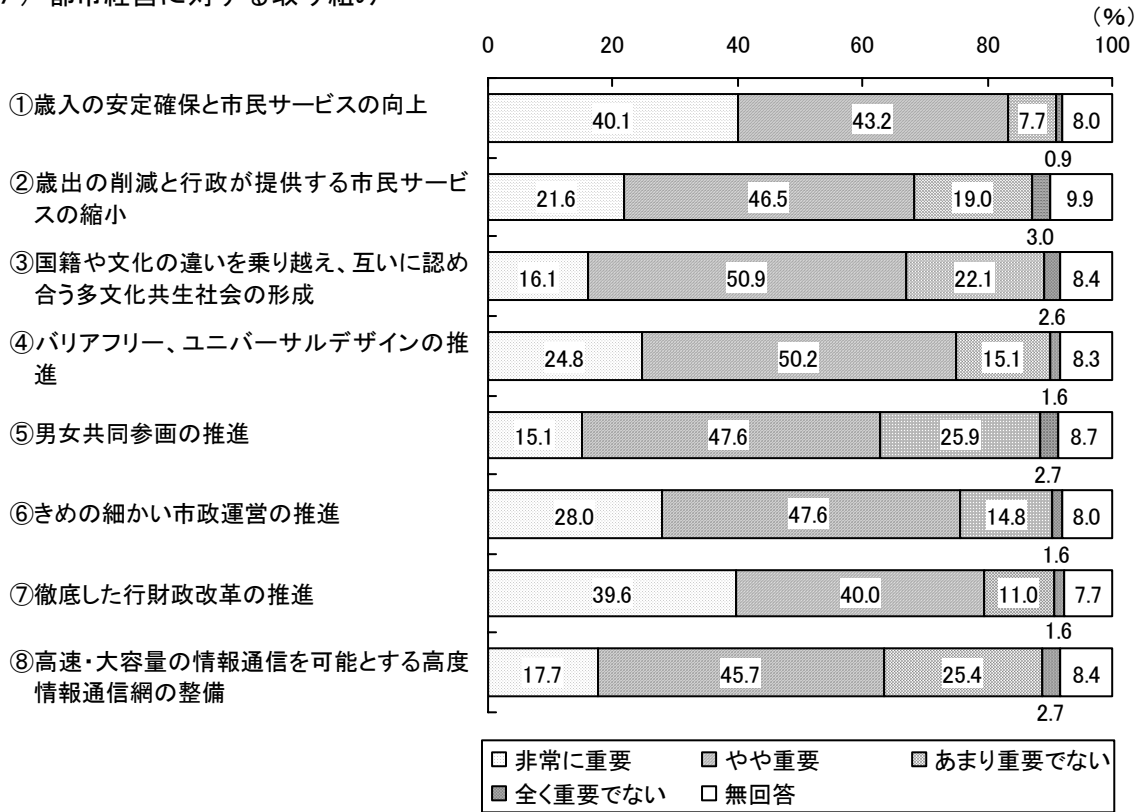
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①新市域における新たな都市計画の検討・構築	6.2	6.3	6.2	6.1	6.2	6.5	6.6
②住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	6.5	6.6	6.5	6.4	6.6	6.9	7.1
③市都心部や市街化区域における適切な土地利用の促進	6.8	6.8	6.8	6.6	6.6	6.8	6.6
④公共交通網の整備・充実	◎ 8.0	◎ 8.0	7.7	7.6	7.8	7.6	◎ 8.3
⑤市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	7.2	7.2	7.0	6.7	7.1	7.0	◎ 8.0
⑥身近な地域の生活道路の整備・充実	7.2	7.4	7.1	7.0	7.1	7.4	◎ 8.3
⑦生活インフラ(上下水道、公園、公営住宅など)の整備・充実	7.4	7.6	7.2	7.4	7.1	7.8	7.7
⑧緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	7.5	7.3	7.4	7.3	7.3	7.6	7.4

性別でみると、男女とも重要度が高いのは「④公共交通網の整備・充実」となっている。

年代別でも「④公共交通網の整備・充実」がいずれの年代でも重要度が高くなっている。

行政区別でみると、「④公共交通網の整備・充実」は中区、東区、天竜区で重要度が高く、「⑤市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実」および「⑥身近な地域の生活道路の整備・充実」では天竜区の重要度がほかの区と比較して高くなっている。

(7) 都市経営に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の1項目となっている。

①歳入の安定確保と市民サービスの向上 83.3%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数をつけて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別／年代別／行政区別

◎＝8点以上

	全体	男性	女性	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
①歳入の安定確保と市民サービスの向上	7.7	7.6	7.8	7.5	7.3	7.6	7.6	◎ 8.1	◎ 8.3
②歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	6.5	6.4	6.5	6.5	6.2	6.2	6.5	6.9	6.9
③国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	6.2	6.0	6.3	5.9	6.1	6.1	6.2	6.4	6.5
④バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	6.9	6.5	7.2	7.2	7.0	6.9	6.7	6.8	6.7
⑤男女共同参画の推進	6.0	5.7	6.2	5.8	5.9	5.9	5.9	6.2	6.4
⑥きめの細かい市政運営の推進	7.0	6.7	7.1	6.2	6.6	6.6	7.0	7.4	7.8
⑦徹底した行財政改革の推進	7.6	7.6	7.4	6.9	7.0	7.1	7.8	7.9	◎ 8.3
⑧高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	6.1	6.2	6.0	5.8	6.0	6.0	5.9	6.3	6.8

	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①歳入の安定確保と市民サービスの向上	7.7	7.8	7.6	7.6	7.5	7.9	◎ 8.2
②歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	6.4	6.8	6.5	6.2	6.3	6.7	6.7
③国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	6.3	6.4
④バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	7.0	6.9	6.7	6.9	6.7	7.1	6.7
⑤男女共同参画の推進	6.1	6.0	6.0	5.9	5.8	6.2	6.2
⑥きめの細かい市政運営の推進	6.9	7.2	6.8	7.1	6.7	7.2	7.3
⑦徹底した行財政改革の推進	7.6	7.9	7.5	7.5	7.5	7.5	7.3
⑧高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	6.0	6.2	6.4	6.0	5.9	6.3	6.5

性別でみると、男性では「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」および「⑦徹底した行財政改革の推進」の重要度が高く、女性では「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」が高くなっている。「④バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進」では、女性が男性を大きく上回っている。

年代別でみると、「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」および「⑦徹底した行財政改革の推進」の重要度が特に70歳以上で高くなっている。

行政区別でみると、いずれの区でも「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」の重要度が高くなっており、特に天竜区で比較的高くなっている。

12 市政に対する意見・提言について(自由意見)

産業・経済 34 件

- 1 商工業の振興・支援 13 件
- 2 農林漁業の振興・支援 7 件
- 3 観光業の振興・支援 6 件
- 4 雇用対策 8 件

教育・文化・スポーツ 52 件

- 5 文化施設・スポーツ施設の整備 25 件
- 6 文化・芸術・スポーツの振興 6 件
- 7 教育の質の向上 12 件
- 8 マナー・モラルの意識向上 9 件

安全・安心な暮らし 29 件

- 9 防災・防犯対策 29 件

環境 27 件

- 10 自然環境保全への取り組み 14 件
- 11 ごみ出しの方法 13 件

健康・福祉 47 件

- 12 医療の充実 13 件
- 13 少子化・高齢化対策 8 件
- 14 高齢者の住みやすい社会の推進（高齢者福祉の充実） 21 件
- 15 障がい者の住みやすい社会の推進（障がい者福祉の充実） 5 件

子育て支援 69 件

- 16 子育てしやすい環境の整備 39 件
- 17 子どもが利用する公園・施設等の整備 22 件
- 18 子どもの医療費助成 8 件

都市・生活基盤 129 件

- 19 道路整備、公共交通機関の充実 67 件
- 20 中心市街地の活性化 27 件
- 21 市街地の駐車場の充実 4 件
- 22 居住環境の整備・美化・緑化 18 件
- 23 外国人との共生 13 件

市政 143 件

- 24 合併して大きくなってよかったと思えるまちづくりを希望する 27 件
- 25 中心部だけではなく周辺地域に目を向けた市政を行ってほしい 18 件
- 26 市民の声に耳を傾けた市政を行ってほしい 15 件
- 27 公平で信念を持った市政を心がけてほしい 22 件
- 28 予算や市政に関する情報公開（市政の透明性確保） 11 件
- 29 年金問題の不安に対処してほしい 2 件
- 30 市職員の人員削減・給料の見直し 14 件
- 31 天下りの廃止 3 件
- 32 市政・まちづくりへの要望全般 31 件

市財政 77 件

- 33 税金が高い 21 件
- 34 税金の無駄づかいをしない（歳出削減） 38 件
- 35 市財政の安定と財源の確保 18 件

市民サービス 56 件

- 36 市民サービスの向上 24 件
- 37 市職員の対応の向上 20 件
- 38 市の事業やサービス等のPR・情報発信 9 件
- 39 広報はままつの発行への要望 3 件

その他 76 件

- 40 市政に期待している 6 件
- 41 市政・市民サービスに満足している 5 件
- 42 アンケートについての意見 39 件
- 43 その他の意見 26 件

計 739 件

付録 調査票

平成20年度 市民アンケート調査 (第35回)

日ごろ、市政の推進につきましては、深いご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。
昨年4月、浜松市は政令指定都市に移行し、新たな第一歩を踏み出し1年が経過しました。市ではこれまで以上に市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実を図り、市民の皆さまの暮らしが豊かになるように努めていきたいと考えています。

そこで今後のまちづくりの基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施させていただきます。この調査を実施するにあたり、市内在住の満20歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただきご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式ホームページなどで報告させていただきます予定です。

平成20年6月 浜松市長 鈴木 康 友

<ご回答についてのごお願い>

1. 封書のあて名の人が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはない、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 6月30日(月)までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手をはらずにご投函ください。
5. ご不明な点は、広聴広報課 市民の声グループ ☎(053)457-2023 へお問い合わせください。

あなたはご存知ですか？

問1 次の項目について、あなたはご存知ですか。
1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

	名称も内容も 知っている	名称だけは 知っている	知らない
① NPO ※民間の非営利組織で、自発的に公益的な活動を継続して行っている団体のこと。	1	2	3
② 市民協働 ※市民、市民活動団体、事業者および市が、互いの相違を認識し、それぞれの特性を生かしながら、市民が望むまちづくりを目指して、さまざまな観点や形態で協力して取り組むこと。	1	2	3
③ 『 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例 』 (通称：市民マナー条例) ※歩きタバコ・ごみのポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。	1	2	3
④ 『 浜松市音・かおり・光環境創造条例 』 ※人に潤いや安らぎを与えてくれる音・かおり・光資源を保全するとともに、自らも人に不快感や嫌悪感を与える騒音、悪臭および光害の防止に取り組み、快適な生活環境創造のための条例。	1	2	3

	知っている	知らない
⑤ 広告収入事業 ※市では平成18年度から、市の発行する刊行物などに広告を掲載し、広告料を徴収している。	1	2
⑥ 「 人権啓発センター 」 ※昨年4月にクリエート浜松1階に「人権啓発センター」がオープン。	1	2

	利用したことがある	知っているが 利用したことはない	知らない
⑦ スポーツ・文化施設予約システム「まつぼっくり」 ※インターネットで公共施設の予約や空き状況の照会ができるシステム。	1	2	3

	知っているし 設置もしている	知っているが 設置していない	知らない
⑧ 「 住宅用火災警報器 」の設置の義務 ※消防法の改正により、平成18年6月1日から新築住宅には「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられ、既存住宅の場合は平成21年5月31日までに設置することが義務付けられている。	1	2	3

健康はままつ21・食育について

問2 市では、すべての市民が健康で明るく元気に生活できることを目指し、健康づくりの指針となる「健康はままつ21」を策定しましたが、あなたは、ご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 内容を知っている 2. 聞いたことがあるが内容は知らない 3. 知らない

問3 あなたは、現在ご自身の健康状態をどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 健康である 2. まあまあ健康である 3. あまり健康ではない 4. 健康ではない

問4 あなたは食育※に関心がありますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 関心がある 2. どちらかというに関心がある
3. どちらかというに関心がない 4. 関心がない
5. わからない

※食育とは、心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる人間を育てることです。この中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

問5 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）について知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 意味も含めて知っている 2. 内容について少し知っている
3. 名前を聞いたことがある 4. 知らない

マイバッグ・マイバスケットの活用について

問6 地球温暖化防止や資源の有効活用、ごみ減量などを図るため、レジ袋削減マイバッグ・マイバスケット持参運動を推進しています。買い物時にマイバッグやマイバスケットを使用していますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 使用している 2. ときどき使用している 3. 使用していない

問7 問6で「3. 使用していない」とお答えの方に伺います。

マイバッグやマイバスケットを使用しない理由をお答えください。

(あてはまるもの2つまで○を付けてください)

1. 持ち歩くのが面倒 2. レジ袋が無料だから
3. レジ袋を断るタイミングがない 4. レジ袋をごみ袋などに利用している
5. その他（具体的に：)
6. 特に理由はない

ユニバーサルデザインについて

問 8 市では、ユニバーサルデザインの考え方を市政に取り入れています。ユニバーサルデザインとは、身体能力、年齢、国籍、性別などに関係なく、誰もが安全で安心な暮らしができるように環境づくりやまちづくりなどを行っていかうとする考え方です。あなたは、ご存知でしたか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 詳しく知っている | 2. 知っている |
| 3. 言葉だけは聞いたことがある | 4. まったく知らない |

問 9 あなたのお住まいの地域は、歩道整備や交通機関など移動の面や、防災・防犯などの面から安全・安心に暮らすことのできる地域と感じますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|--------|------------|---------|----------|
| 1. 感じる | 2. 部分的に感じる | 3. 感じない | 4. 分からない |
|--------|------------|---------|----------|

問 10 あなたは、ユニバーサルデザインのまちづくりのために、どのようなことから取り組むべきだと思いますか。

(あてはまるもの3つまで○を付けてください)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 思いやりの心を育てる教育の充実 | 2. わかりやすい市政情報の提供 |
| 3. 市民へのPR | 4. 市職員の意識啓発 |
| 5. 誰もが参加できるイベントなどの開催 | 6. 安全で快適な歩道や自転車道の整備 |
| 7. 利用しやすい公共交通機関の普及 | 8. 地下道より楽な横断歩道の整備 |
| 9. わかりやすい案内表示の整備 | 10. 使いやすい建物や施設の整備 |
| 11. その他 (具体的に: _____) | |

区協議会・地域協議会について

問 11 市では、市民の声を市政に反映させるための仕組みとして、平成 17 年 7 月の合併時に旧市町村単位に地域住民の代表で組織する「地域協議会」を設置しました。また、平成 19 年 4 月の政令指定都市移行に伴い、全ての区に地域協議会と同様の機能を持つ「区協議会」を設置しました。あなたは、区協議会・地域協議会のことをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------|-------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 聞いたことがある | 3. 知らない |
|----------|-------------|---------|

問 12 問 11 で「1. 知っている」「2. 聞いたことがある」とお答えの方に伺います。

あなたは、区協議会・地域協議会がどのような活動をしているかご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|------------|------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 少し知っている | 3. 知らない |
|------------|------------|---------|

※「地域協議会・区協議会」とは、地方自治法の規程に基づき、地域の住民の意見を行政に反映させるとともに、住民と行政の協働、連携の強化を図り、住民自治の強化、充実のため設置された新しい地域自治の仕組みです。

家庭の情報化について

問 13 あなたのご家庭では、次のような情報通信機器を持っていますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. パソコン | 2. ファクシミリ |
| 3. カーナビゲーション | 4. 携帯電話 (5. を除く) |
| 5. インターネット対応型携帯電話 | 6. PHS |
| 7. その他 (具体的に: _____) | |

問 14 あなたやあなたのご家族は、過去1年間にインターネット(メール送受信およびインターネット対応型携帯電話を含む)を利用したことがありますか。(1つだけ○を付けてください)

- | |
|------------------------------|
| 1. 少なくとも1人はインターネットを利用したことがある |
| 2. だれもインターネットを利用したことがない |

問 15 問14で「1. 少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」とお答えの方に伺います。あなたやあなたのご家族は、どのくらいの頻度でインターネットを利用していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|---------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に3～4回程度 | 3. 週に1回以下 |
|---------|-------------|-----------|

問 16 あなたは、テレビのアナログ放送が2011年に停止されることをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問 17 あなたのご家庭では、地上デジタル放送を視聴されていますか。(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 視聴している | 2. 視聴していない |
|-----------|------------|

運動・スポーツについて

問 18 あなたは現在、運動やスポーツをしていますか。

目安として1回30分以上の活動でお考えください。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------------|
| 1. 週2回以上 | 2. 週1回 | 3. 月1～3回 | 4. ほとんどしていない |
|----------|--------|----------|--------------|

問 19 問18で「1. 週2回以上」「2. 週1回」とお答えの方に伺います。

スポーツの活動をしていて、施設の利用で困ったことや改善してほしいことはありますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 施設の種類や内容が簡単にわからない | 2. 施設予約申込先がわかりにくい |
| 3. なかなか会場の予約がとれない | 4. 利用したい施設が近くにない |
| 5. 利用料金が高い | 6. 駐車場が少ない(ない) |
| 7. その他(具体的に: _____) | 8. 特になし |
| 9. 施設などの利用をしていない | |

問20 問18で「3. 月1～3回」「4. ほとんどしていない」とお答えの方に伺います。
現在、運動やスポーツをあまりしていない理由は次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 時間がないから | 2. 体力に自信がないから |
| 3. スポーツや運動が好きではないから | 4. 仲間がないから |
| 5. 場所がないから | 6. 費用がないから |
| 7. 家族が協力的でないから | 8. 必要と感じないから |
| 9. その他 (具体的に: _____) | |

問21 今後、実行してほしいスポーツ事業は何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 指導者の養成 | 2. 行事や大会、教室の開催 |
| 3. 広報活動 (情報の提供) | 4. 学校体育施設の開放 |
| 5. 各種スポーツ施設の充実 | 6. 区の特徴あるスポーツ振興 |
| 7. その他 (具体的に: _____) | |

救急車の適正利用について

問22 あなたは、あなた自身や周囲の方がどのような状態のときに救急車を要請しますか。

(あてはまるもの5つまでに○を付けてください)

- | |
|--|
| 1. 病気やけがで生命に危険を感じたとき |
| 2. 入院が必要な病気やけがだと感じたとき |
| 3. 病気やけがの症状が重いか軽いかの判断がつかないとき |
| 4. 夜間、休日、診療時間外のとき |
| 5. 重い病気やけがではないが、病院に行くための車や運転手が周りにいないとき |
| 6. どの病院で診察してもらえるかが分からないとき |
| 7. 病院の待ち時間が長いので、救急車で病院に行き優先して診察してほしいとき |
| 8. 歩ける程度のけがを負ったが、念のため病院に受診したいとき |
| 9. あらかじめ入院予約をしているが、荷物が多かったり、時間に遅れそうになったりしたとき |
| 10. その他 (具体的に: _____) |

問23 浜松市の救急件数は、この10年間で1.6倍に増加し、さらには搬送者数の内訳で軽症者の占める割合が10年前までは3割程度でしたが、現在では約6割と右肩上がりになっています。これらを減らし、本当に緊急を要するときに救急車が不足したり、遅れたりすることを防ぐためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | |
|--|
| 1. 救急車利用のマナーやルールについて、市民に十分な広報を行う。 |
| 2. 軽症や重症などの判断は難しいので、健康相談窓口などを開設して対応する。 |
| 3. 軽症者や不適正な利用者からは一定の料金を徴収する。 |
| 4. 日ごろから、一人ひとりがかかりつけ医療機関をもち、健康管理する。 |
| 5. 今のままで良い |
| 6. その他 (具体的に: _____) |

子育て支援について

急速な少子高齢化により、社会全体としての活力低下や社会保障制度の維持などの課題が指摘されています。こうしたなか、少子化の流れを変えようと、市では次世代を担う子どもの成長や子育てを支援する環境づくりを目指し、浜松市に暮らすすべての市民を対象とした施策（＝浜松市次世代育成支援行動計画）をまとめ、平成17年4月から施行しており、合併後は12市町村の計画を統合し、1つの計画としています。

問24 あなたは、「浜松市次世代育成支援行動計画」をご存知でしたか。（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|----------------|---------------|---------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 知らない |
|----------------|---------------|---------|

問25 問24で「1. 名称も内容も知っている」「2. 名称だけは知っている」とお答えの方に伺います。あなたは、何で知りましたか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

- | | | |
|--------------------|----------------|---------------|
| 1. 広報はままつなどの広報紙 | 2. 浜松市公式ホームページ | 3. 浜松市メールマガジン |
| 4. 新聞 | 5. テレビ | 6. 公民館 |
| 7. パンフレット・リーフレット | 8. 人から聞いて知った | |
| 9. その他（具体的に：_____） | | |

問26 あなたは、「子育て」に対して、現在、どのような関わり方をしていますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | |
|-------------------------|
| 1. 子育て中である |
| 2. 孫の面倒を見ることがある |
| 3. 甥、姪の面倒を見ることがある |
| 4. 近所の子どもの面倒を見ることがある |
| 5. 子育てサークルに参加している |
| 6. 子育てに関するボランティアに参加している |
| 7. その他（具体的に：_____） |
| 8. 特に関わっていない |

問27 市では、子育て広場やファミリーサポートセンターなど子育てに関するさまざまな支援*を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | | |
|-------|---------|--------------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらともいえない | 4. わからない |
|-------|---------|--------------|----------|

*そのほかの子育て支援としては、なかよし館、育児サークル支援、放課後児童会などの事業を行っています。

問28 問27で「1. 思う」とお答えの方に伺います。

あなたは、子育ては楽しいことだと感じますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | | |
|--------|---------|--------------|----------|
| 1. 感じる | 2. 感じない | 3. どちらともいえない | 4. わからない |
|--------|---------|--------------|----------|

問29 問28で「1. 感じる」とお答えの方に伺います。

あなたのまわりでは、子どもの笑顔が輝いていると思いますか。（1つだけ○を付けてください）

- | | | | |
|-------|---------|--------------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらともいえない | 4. わからない |
|-------|---------|--------------|----------|

市政の満足度評価について

問 30 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取組みについて日ごろどのように感じていますか。以下の各項目についてその評価を1～5のうちからそれぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		評 価				
		満 足	やや 満足	どちら も満足 しない	やや 不満	不 満
1	住んでいる地域の住みやすさ	1	2	3	4	5
2	文化にふれ、活動できる環境	1	2	3	4	5
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み	1	2	3	4	5
4	スポーツに親しみやすい環境	1	2	3	4	5
5	国際・国内スポーツ大会の観戦機会	1	2	3	4	5
6	子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	1	2	3	4	5
7	子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	1	2	3	4	5
8	公民館、図書館などの生涯学習環境	1	2	3	4	5
9	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	1	2	3	4	5
10	人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	1	2	3	4	5
11	魅力ある雇用機会の確保	1	2	3	4	5
12	中心市街地の魅力とにぎわい	1	2	3	4	5
13	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	1	2	3	4	5
14	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	1	2	3	4	5
15	施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	1	2	3	4	5
16	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	1	2	3	4	5
17	快適に移動しやすい道路網の整備	1	2	3	4	5
18	休日、夜間などの救急医療体制	1	2	3	4	5
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	1	2	3	4	5
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	1	2	3	4	5
21	高齢者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5
22	障害のある人にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5
23	子育てがしやすく楽しい環境	1	2	3	4	5
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	1	2	3	4	5
25	湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した取り組み	1	2	3	4	5
26	環境教育、環境学習などの取り組み	1	2	3	4	5
27	自然環境の保全	1	2	3	4	5
28	緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり	1	2	3	4	5
29	生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	1	2	3	4	5
30	地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	1	2	3	4	5
31	水害の防止に向けた河川・排水路などの整備	1	2	3	4	5
32	ユニバーサルデザインによるまちづくり	1	2	3	4	5
33	浜松の魅力（技術や文化、自然環境など）の国内外への発信	1	2	3	4	5
34	世界の人々との活発な市民交流	1	2	3	4	5
35	市民協働による地域づくり	1	2	3	4	5
36	交差点の改良など交通安全対策	1	2	3	4	5
37	情報公開など行政の透明性の確保	1	2	3	4	5
38	分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	1	2	3	4	5
39	市政を総合的に見た満足度	1	2	3	4	5

市政への要望について

問 31 あなたは、浜松市が積極的・重点的に取り組んでいくべき具体的な施策として、以下の各項目についてどの程度重要だと思いますか。各項目について重要度を1～4のうちからそれぞれ1つだけ選んで○を付けてください。

浜松市が取り組むべき施策	重 要 度			
	非 常 に 重 要	や や 重 要	あ ま り 重 要 で な い	全 く 重 要 で な い
1. 産業・経済分野に対する取り組み				
① 地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	1	2	3	4
② 中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	1	2	3	4
③ 企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	1	2	3	4
④ 浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	1	2	3	4
⑤ 国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	1	2	3	4
⑥ 新産業の創出や起業しやすい環境の整備	1	2	3	4
⑦ 高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	1	2	3	4
⑧ 特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	1	2	3	4
2. 教育、文化、スポーツに対する取り組み				
① 生きる力を育てる学校教育の推進	1	2	3	4
② 生涯を通じた学習機会の提供	1	2	3	4
③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	1	2	3	4
④ 大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	1	2	3	4
⑤ 外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	1	2	3	4
⑥ 芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	1	2	3	4
⑦ 市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	1	2	3	4
⑧ 質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	1	2	3	4
⑨ 祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	1	2	3	4

浜松市が取り組むべき施策	重 要 度			
	非 常 に 重 要	や や 重 要	あ ま り 重 要 で な い	全 く 重 要 で な い
3. 市民が安全・安心に暮らすための取り組み				
① 地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	1	2	3	4
② 地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	1	2	3	4
③ 火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	1	2	3	4
④ 地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	1	2	3	4
⑤ 交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	1	2	3	4
⑥ 食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	1	2	3	4
⑦ 安心して生活していくための相談業務などの充実	1	2	3	4
⑧ NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	1	2	3	4
⑨ 地域コミュニティ（地域社会）の自立に向けた支援	1	2	3	4
4. 環境に対する取り組み				
① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援	1	2	3	4
② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	1	2	3	4
③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	1	2	3	4
④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	1	2	3	4
⑤ 地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	1	2	3	4
⑥ 郊外開発の抑制や農地の保全	1	2	3	4
⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	1	2	3	4
⑧ 大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	1	2	3	4

浜松市が取り組むべき施策	重要度			
	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	全く重要でない
5. 健康、福祉に対する取り組み				
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	1	2	3	4
② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	1	2	3	4
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	1	2	3	4
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	1	2	3	4
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成	1	2	3	4
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	1	2	3	4
⑦ こころと身体の健康づくりのための環境整備	1	2	3	4
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	1	2	3	4
6. 都市・生活基盤の整備に対する取り組み				
① 新市域における新たな都市計画の検討・構築	1	2	3	4
② 住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	1	2	3	4
③ 市都心部や市街化区域における適切な土地利用の促進	1	2	3	4
④ 公共交通網の整備・充実	1	2	3	4
⑤ 市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	1	2	3	4
⑥ 身近な地域の生活道路の整備・充実	1	2	3	4
⑦ 生活インフラ（上下水道、公園、公営住宅など）の整備・充実	1	2	3	4
⑧ 緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	1	2	3	4
7. 都市経営に対する取り組み				
① 歳入の安定確保と市民サービスの向上	1	2	3	4
② 歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	1	2	3	4
③ 国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	1	2	3	4
④ バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	1	2	3	4
⑤ 男女共同参画の推進	1	2	3	4
⑥ きめの細かい市政運営の推進	1	2	3	4
⑦ 徹底した行財政改革の推進	1	2	3	4
⑧ 高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	1	2	3	4

最後にあなたのことについて記入してください

(項目別に1つだけ○をつけてください)

性別	1. 男	2. 女	
年齢	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代
	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上
職業	1. 農林水産業(自営・家族従事者) 2. 商工・サービス・自由業(自営・家族従事者) 3. 勤め人 4. 専業主婦(主夫) 5. 学生 6. 無職 7. その他()		
居住年数	あなたは浜松市(合併前の旧市町村当時からも含みます)に住んで何年になりますか 1. 3年未満 2. 3年以上5年未満 3. 5年以上10年未満 4. 10年以上20年未満 5. 20年以上		
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上		
居住形態	あなたのお住まいは 1. 持ち家 2. 借家 3. 賃貸アパート・マンション 4. 公営住宅 5. 社宅・寮 6. その他		
地区	あなたがお住まいの地区は 1. 中区 2. 東区 3. 西区(旧浜松市) 4. 西区舞阪町 5. 西区雄踏町 6. 南区 7. 北区(旧浜松市) 8. 北区細江町 9. 北区引佐町 10. 北区三ヶ日町 11. 浜北区 12. 天竜区(旧天竜市) 13. 天竜区春野町 14. 天竜区佐久間町 15. 天竜区水窪町 16. 天竜区龍山町 地区が分からない場合は、町名をご記入ください→ ()		

◆市政に対するご意見やご提言がありましたら、下記へお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。お手数ですが、6月30日(月)までにご投函ください。

平成20年度 市民アンケート調査報告書

平成20年11月発行

浜松市総務部広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町103-2

電話 (053) 457-2023 FAX (053) 457-2028

e-mail koho2@city.hamamatsu.shizuoka.jp

URL <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
